WEB配布版

転載する場合は許可が必要です。

郷土教育推進研究報告書

平成 21 年度

「郷土日野」指導事例

第　５　集

日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目　次

はじめに　（所長）
Ⅰ　研究の概要
　１　研究の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　２　研究の目的
　３　構想図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　４　研究の進め方
　（１）研究の組織（協働による研究）　・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　（２）研究の経過
　５　開発･収集郷土教材類別（今までの開発教材･資料）　・・・・・・・・・５
Ⅱ　研究の内容
　１　郷土教材を活用した学習指導事例
　（１）日野の野菜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　（２）蚕を育てよう　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
　（３）日野の昔話　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
　（４）多摩平の森の活用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
　（５）多摩動物公園の昆虫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
　（６）駅は郷土学習の改札口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
　２　地域を知る指導者の育成・フィールドワーク・・・・・・・・・・・・・４３
　３　郷土教育推進視点の拡大
　（１）新教材の開発
　「日野桑園・蚕糸試験場」ゆかりの地と自然体験広場　・・・・・・・４７
　日野の縄文時代のくらし　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
　女子教育に尽くした秋間為子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
　（２）校長講話例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
　（３）各機関との連携の広がり
　物事はつながる　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
　郷土教材としての七生丘陵　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
　調べてみよう・夏休み自由研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
Ⅲ　研究のまとめ
Ⅳ　資料　１　日野の民話・伝承　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
　２　日野桑園・蚕糸試験場の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
　３　日野の養蚕の発展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
　４　アルフレッド・ラッセル・ストーン牧師の生涯・・・・・・・・・７７
◎　郷土教育推進研究委員･郷土教育推進協力者　・・・・・・・・・・・８１

はじめに　「ひのっ子」を誇りに思う教育の推進を

日野市教育センター
所 長　篠 原 昭 雄

今,日野の学校教育は，新学習指導要領と学校教育基本構想の趣旨実現に向けて動いています。

前者の「総則」には,“伝統と文化の尊重”とそれを育んできた郷土を愛することが，また,後者の基本構想にも「郷土日野の自然や歴史・文化・産業等を生かした」教育を推進し,郷土に対する誇りと愛着を育てることが示されています。ことに近年，日野市では，郷土の自然環境の保全や文化財・史跡の開発が進み,“ひのっ子” “日野人”の学習と意識の啓発が期待されています。どのようにすれば「郷土日野」に愛着と誇りを持つ“ひのっ子”の育成ができるでしょうか。それは，子どもたちが日野に生まれ育ったことに誇りを持つような意識を生む教育によって育まれるものと考えます。具体的には,先人を含めて“日野人”が生きた自然や風土,文化や歴史,生活の営みから“日野らしさ”の特色や“かけがえのなさ”を知ることからにほかなりません。

このような動きの中で,教育センターのふるさと教育係では,学校における「郷土日野」教育の充実を図るため,「郷土教育推進研究委員会」を組織して調査・研究を行い,今年5年目の挑戦を行ってきました。その成果は年ごとの『教育センター紀要』に掲載し，実際の授業に役立てていただくものとして『指導事例集』を毎年刊行してきました。

本年度は，①地域を知る指導者の育成　②新たな郷土教材の発掘と郷土資料を活用した学習指導　③社会教育関係との連携によって郷土教育を更に発展させるための視点の拡大　を目標に取り組みました。①は，実地視察・研究を行ったこと　②は6年生に新しく取り入れられる「縄文時代」を受けて市内縄文遺跡と遺物を取り上げた授業開発，多摩平の森の自然や人物,開業120周年の中央線日野駅から始まる授業研究などです。郷土の発展に尽くした人物や産業なども取り上げています。

研究に当たっては,小杉博司校長先生を中心に，教科担当の先生や市の学芸員，図書館司書などの委員が，学識経験の豊かな會田・吉野先生の協力を得て,何回も研究会を開いて検討を重ねてきました。中身の濃い教材の開発や授業に生きる指導法の研究は，これらの方々と教育センターの所員のこの教育に対する情熱の現われと思います。また本研究は，学校教育関係者だけでなく，地域の教育資源である市の「資料館」「図書館」「歴史館」など社会教育の施設や関係者との共働によるものであることがこの研究の大きな特色です。

本事例集は，その第5集で,前記研究委員の先生方が開発した教材を用いた授業実践を行い，検討しあって授業で活用できるようまとめたものです。ぜひとも各学校・教科等で活用していただきたくお願いいたします。

最後になりましたが本研究を進めて下さった研究委員の先生方，日野市教育委員会，学校教育及び関係機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成22年3月

Ⅰ．研究の概要

１．研究の趣旨

本研究は、日野市の小・中学校、博物館・図書館、教育委員会・教育センターが連携して推進する５年目の継続研究である。

教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正された。また、平成 21 年 2 月には日野市学校教育基本構想検討委員会が報告書「教育のまち　日野」を作成し、日野市の学校教育の今後の方向が示された。いずれも「伝統と文化の尊重」「郷土を愛する」が今後の教育のキーワードとなっている。郷土日野の自然・歴史・文化に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成は、日野市の最重要課題の一つとなっている。日野を愛するひのっ子が、将来の日野を背負って立つ「日野人（ひのひと）」として育成することが、市民から期待されている。そのためには、日野の豊かな自然や歴史的環境を活用した教育を実践することにより、児童・生徒が日野のよさに気付き、郷土を大切にする心情を育てることが重要であると考えた。そこで、郷土教育推進研究委員会では「郷土日野」指導事例集を作成して、小・中学校の授業で積極的に活用されるための普及・啓発活動を進めることにした。

平成 21 年度の研究は、過去４年間の成果を引き継ぎながら、新たな取り組みを加えた。それは、①地域を知る指導者の育成、②郷土教材を用いた学習活動の実践、③郷土教育推進の視点の拡大である。

２．研究の目的

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「日野っ子」を育成するために学校における日野の郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づいた各学校の様々な教育活動の実践によって、次のような児童･生徒の育成を目指す。

○　郷土の自然・歴史・文化を理解する児童・生徒
○　郷土の特色やよさを発信できる児童・生徒
○　郷土の一員として自覚と誇りをもち人々と協力する児童・生徒
○　郷土の未来を思い描き実践する児童・生徒

３．研究構想図

教育目標

ひらこう　世界へ
のびよう　ともに
つくろう　夢を
こえよう　自分を

日野市学校教育基本構想（平成 21 年 2 月）

第２項目　豊かな心の育成
　日野市の自然・歴史・文化・産業等、郷土をより親しく学ぶために、郷土教育資料を編集し、地域の方々や専門家の協力を得た授業の実施。
第７項目　連携を生かした特色ある学校づくり
　授業の質の向上を図るために、地域の教育資源を活用した授業の実施。

郷土教育推進事業

各教科等における郷土日野の教材開発及び学習指導法の研究を行う。
日野市の学校副読本や諸資料の活用について調査する。
日野市郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館等の活用について研究する。

郷土教育を通して目指すひのっ子像

郷土の自然・歴史・文化を理解する児童・生徒
郷土の特色やよさを発信できる児童・生徒
郷土の一員として自覚と誇りを持ち、人々と協力する児童・生徒
郷土の未来を思い描き実践する児童・生徒

研究主題

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「ひのっ子」の育成

研究仮説

　日野の豊かな自然や歴史的環境を活用した教育を実践することにより、児童・生徒は日野のよさに気付き、郷土を大切にする心情が育つだろう。

平成 21 年度の具体的な研究内容

地域を知る指導者の育成
- ○　郷土教育研修の実施
- ○　郷土教育教材の作成
- ○　郷土教育教材の普及

郷土教材を用いた学習活動
- ○　郷土教育教材を活用した授業の実践
- ○　未活用の郷土教育教材を利用した授業の実践
- ○　実践資料の作成

郷土教育推進の視点の拡大
- ○　新たな郷土教育教材の発掘
- ○　施設及び人材を活用した教育の開発
- ○　郷土教育に関する指導を実施する時間の開発

４．研究の進め方

（１）研究の組織

小・中学校、郷土資料館、歴史館、図書館などの関係者、学識経験者、教育委員会指導主事、教育センター所員で委員会を組織して調査研究を実施した。

（２）研究の経過

期日・場所	委員会の活動	研究（活動）内容
４月 22 日（水） 日野第一小学校	正・副委員長、センター打ち合わせ（正・副委員長要請、委員要請、活動大綱検討）	・委員会の構成・組織・内容・方向性、日程などの打ち合わせ
５月 22 日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・（委員会委嘱）・組織作り ・本年度の活動内容の検討（研究内容・研究方法・方向性） ・研究日程の検討
６月 12 日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討（地域、概要、活用学年、ねらい等） フィルドワーク目的地の検討
７月 22 日（水） 本町・東光寺地区	フィルドワーク実地踏査	・本委員会と市教委研修会「教育課題研究~郷土教育」の合同事業の事前調査
７月 27 日（月） 本町・東光寺地区	郷土教育推進研究委員会③	・フィールドワーク（蚕糸試験場跡地・一中長屋門・精進場・日野用水・よそうの森堀・大堰・七ツ塚古墳・東光寺畑地・学習会）
８月 25 日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・構想図の確定・フィルドワークアンケートのまとめ・郷土教材を活用した学習指導計画案提示・検討・中間報告会の計画作り
９月 10 日（木） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導計画案提示・検討・中間報告会原稿検討
10 月９日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・中間報告会リハーサル・実践事例検討・郷土教育視点の拡大の検討
10 月 22 日（木） 教育センター	中間報告会	・事前リハーサル・「中間報告会」報告
11 月 13 日（木） 日野第一小学校	正・副委員長、センター打ち合わせ	・中間報告会反省・今後の予定・事例案検討 ・研究紀要のプロット
11 月１６日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・研究紀要のプロット・実践事例報告検討
12 月 16 日（水） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑧	・報告会発表内容の検討 ・プレゼンテーションの形式決定 ・事例集原稿検討

１月 15 日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑨	・報告会発表原稿検討 ・事例集原稿検討
２月 15 日（月） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑩	・報告会発表原稿検討 ・事例集原稿検討
２月 23 日（火） 教育センター	研究発表会	・事前リハーサル・「研究発表会」発表
２月 23 日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑪	・「研究発表会」反省 ・事例集原稿確認
３月９日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑫	・事例集原稿検討 ・次年度の計画
３月 10 日（水）	「研究紀要」庁内印刷出稿	・「センター研究紀要」出稿
３月１６日（火）	「事例集第５集」印刷発注	
３月 23 日（火）	電子データー化作業	・「事例集第５集」ＰＤＦ化 ・「郷土教材資料画像」電子データー化
４月	「事例集第５集」納品	・「事例集第５集」発送

５．開発・収集郷土教材類別（今までの開発教材・資料）

※（　）は本研究報告書で取り扱った年度を表す。(未)はまだ取り扱っていない。

河川･湧水･用水

豊田用水(17)、日野の用水(18)、黒川清流公園と多摩平の森(18・21)

学　校

校章･校歌(17)、日野の学校の歩み(18)、学校の歴史と地域(19)、給食と地場産野菜(20)

暮らし

多摩平団地の今と昔(18)、身近な地域から見た人口集中(19)、平山に伝わる昔と今(19)

交　通

甲州街道と日野宿(18)、一里塚・日野の渡し･甲武鉄道・日野橋･多摩都市モノレール(19)、
日野駅(21)

環境保全

ごみの収集と活用・ごみ改革(20)

地　形

丘陵・台地･低地(未)

歴　史

新選組(17)、日野における自由民権運動(18)、日本の歴史と日野の歴史(19)、戦時下の日野(19)、
八王子城主北条氏照と三沢十騎衆(19)、ペリー来航と日野(20)、満州と日野(20)

産　業

日野煉瓦(18)、平山陸稲と林丈太郎(18)、工場の進出(19)、蚕糸試験場(21)、東光寺大根(21)、
養鶏(未)、日野の酪農(未)

遺　跡

高幡不動尊金剛寺･百草園･百草八幡宮・多摩動物公園(18)、多摩八王子競馬場(18)、
落川遺跡と高幡不動の胎内文書(18)、縄文時代の日野(21)、坂西横穴墳墓群(18)、真慈悲寺(20)

伝承･芸能

東光寺に伝わる昔話(19)、勝五郎生まれ変わり物語(20)、日野の昔話(21)、身代わり地蔵･駒形
神社の駒・はたかけの松・鼻衣の井戸(未)、旭が丘たき火祭り(未)

Ⅱ．研究の内容

1　郷土教材を活用した学習指導事例

日野の野菜

第３学年　総合的な学習の時間　「東光寺大根について調べたことを発表しよう」

１．教材化の意図

本校がある東光寺地区では、東光寺大根が栽培されている。東光寺大根は練馬大根から改良されたもので、漬け物用の大根として古くから大切に育てられてきた。しかし、「お産をするか、東光寺大根を抜くか」と言われるほど作業が大変なことや、たくあんにするための干す場所がなくなってしまったこと､家庭で漬けるための場所もなくなり、需要も少なくなったことなどから、現在の生産農家は２戸になってしまった。そこで、今後も日野の地名が残る東光寺大根の栽培を続けていくために、子どもたちに東光寺大根について深く知る必要があると考え、本単元を設定した。本単元では、調べる学習を通し、東光寺大根の歴史的背景について理解させ、東光寺大根が大切に栽培されてきたことに気付かせたい。また、東光寺大根を実際に育てる体験学習を取り入れ、農家の方の苦労や野菜作りの工夫について実感させたい。

２．指導計画

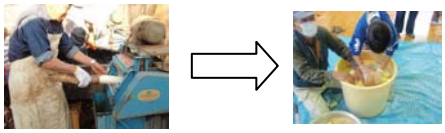
第３学年　総合的な学習の時間　「東光寺大根について調べたことを発表しよう」

（１）単元の目標

・体験的な活動や調べ学習を通して東光寺大根について知り、自分たちの住んでいる地域域のよさを感じることができる。

・自分たちが調べたことを、これまでの教科等の学習を生かしてまとめ、２年生に分かりやすく発表することができる。

（２）単元の指導計画（全 27 時間）

過程	主な学習活動・学習内容	○教師の働きかけ　☆評価
気づく	東光寺大根について知ろう（１時間） ● 農家の方のお話を聞く。 東光寺大根を育てよう（８時間） ●種まき　●まびき　●収穫 ●大根洗い、干し　●たくあん作り 	○農家の方に、東光寺大根の特徴や歴史的背景について話していただく。 ○種まきは　月（2 時間） まびきは 11 月（2 時間） 収穫は　12 月（1 時間） 大根洗い、干しは 12 月（1 時間） たくあん作りは 1 月（2 時間） 計 8 時間の体験的な活動である。 ○活動後に、活動の様子や活動を通して気づいたことをカードに書かせる。 ☆東光寺大根に興味をもち、活動に意欲的に参加している。

見通す	課題を決めよう（３時間） ●ここまでの学習や体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいことを発表し、調べたいことを決める。 （実際に出た調べたいことの例） ・東光寺大根の育て方 ・たくあん作り ・大根の種類と産地 ・大根料理 ・東光寺地区の野菜	○東光寺大根に限らず、調べたいことが大根に関することや地域の野菜に及んでもよいことにする。 ☆東光寺大根などについて、課題を見つけることができる。 ○調べたいことが同じ児童同士でグループを編成する。
追究する	東光寺大根について調べよう（５時間） ●課題別のグループに分かれ、調べ学習の計画を立てる。 ●自分たちで考えた方法で、東光寺大根について調べる。 ・図書室や図書館で調べる。 ・インターネットで調べる。 ・インタビューをして調べる。	☆友達との話し合いを通し、新たな疑問や課題を見つけることができる。 ○地域の方へインタビューする機会を設け、地域の方と交流できるようにする。 ☆情報収集の方法を知り、それを活用できる。
表現する	調べたことを発表しよう（８時間） ●調べたことを模造紙にまとめる。 ●発表会の準備を行う。 ・学級で発表会を行う。 ・友達からもらったアドバイスをもとに自分たちの発表を見直す。 **●２年生に向けて発表会を行う。（本時）**	○友達の発表をアドバイスカードで評価させる。 ☆調べたことや自分の考えを聞きやすい声の大きさ・速さ、分かりやすい言葉づかいで相手に伝えることができる。
ふりかえる	これまでの学習をふりかえろう（２時間） ●体験的な活動や、調べ学習を振り返り、取り組んできた感想を書く。 ●農家の方にお礼のお手紙を書く。	☆東光寺大根の背景を知り、現在の自分の生活とのかかわりについて考えている。

３．本時の指導（25／27）

（１）本時のねらい

・東光寺大根について調べたことを、２年生に向けて分かりやすく発表することができる。

（２）展開

<table>
<tr><th></th><th>学習活動</th><th>・指導上の留意点　☆評価</th></tr>
<tr><td>つかむ</td><td>1　本時のめあてを知る。
２年生に東光寺大根について調べたことを発表しよう</td><td></td></tr>
<tr><td>活動する</td><td>2　各ブースごとに調べたことを発表する。
（各ブースと内容の例）
東光寺大根の育て方
・東光寺大根の栽培方法
・成長の様子
たくあん作り
・たくあんの名前の由来
・たくあんの作り方
大根の種類と産地
・大根の種類
・大根の産地
大根料理
・大根料理の紹介
・大根の栄養
東光寺地区の野菜
・東光寺小学校のまわりで作られている野菜
・東光寺大根の歴史</td><td>・２年生には[ブースへ移動→３年生の説明を聞く→質問する]を３回繰り返させる。
☆声の大きさ・話す速さ・２年生が分かりやすい言葉遣いで発表している。
各ブースの掲示物
 </td></tr>
<tr><td>まとめる</td><td>3　発表の成果を話し合う。
4　次時の学習内容を知る。</td><td>・２年生には発表を聞いて初めて知ったことを発表させる。その後、３年生に発表会を終えた感想を発表させる。</td></tr>
</table>

＊東光寺大根を育てよう（活動の様子）

●種まき（９月）

東光寺大根について、お話をうかがった後、種まきをした。

畑のうねに深さ１cm 程度の穴を掘っておきます。一つの穴に３～４粒の種をまきます。まきおわったら、土をかぶせ、上から軽くおさえます。

農家の方が、優しく丁寧に種まきの仕方を教えてくださった。

●まびき（１１月）

３～４本ずつ生えている大根を１本だけ残して間引きます。生えている大根をよく見て、細いものを抜き、太いものを残しましょう。

農家の方に指導していただいた後、子どもたちも間引きに挑戦した。「太いのはどれかな？」と、大根をよく見ながら間引いていた。

●大根の収穫（12 月）

途中で折れないように慎重に抜くこと、大根が曲がっている場合には、曲がっている方向にまっすぐに抜くことがポイントです。

こんなに東光寺大根が収穫できました。子どもたちも嬉しそうです。

●大根を洗って干す（12 月）

機械を使って洗った。土がついて真っ黒だった大根もみるみる白くなる。

洗った大根を滑らせると・・・

大根はビニールハウスの中へ。

ビニールハウスでは 2000 本もの大根を干しています。

●たくあん作り（１月）

大根をすき間なく敷き詰めた。

大根が見えなくなるまで、ぬかと塩をまく。

樽がいっぱいになったら終了。

「おいしくなーれ」と
願いを込めて詰めた。

樽に落としぶたと重石を乗せ、20日間くらいそのままにしておきます。たくあんが出来上がったら、給食に出します。おいしい東光寺大根のたくあんを全校で味わいます。

＊資料１

◎東光寺大根

行商人が東光寺に練馬大根の種を売りにきたことから、東光寺大根の栽培が始まったと伝えられています。つけ物用として栽培されました。昭和 10 年頃までには養蚕が盛んに行われていました。まゆの値段が下がり、養蚕がすたれてくると、桑に代わって東光寺大根が栽培されるようになりました。

東光寺大根は、各農家が毎年自分の家で種を採りながら作り続けてきました。そのため練馬大根とはだいぶ、形や大きさが変わってきました。普通の大根より太くて長く、大きいものでは１ｍを超えるものもあります。８月下旬に種をまき、11 月下旬から 12 月上旬にかけて収穫され、農家の庭先でからっ風を利用して干されます。その光景は、以前は、冬の東光寺の風物詩となっていました。つけものにすると味がよく東光寺大根として有名です。しかし、近年畑地は住宅地へと変わっていき栽培面積はだいぶ減ってきました。現在でも何軒かの農家が生産しています。

日野市立東光寺小学校開校 30 周年記念運営委員会（2009）『わたしたちのふるさと　東光寺』p. 22

＊資料２

◎日野市におけるダイコン生産の概要

大正期の日野は他の南多摩地域と同様に，米麦，雑穀，イモ類などの生産と養蚕を主な生業としていた。野菜類については，大正元年の日野町の生産額としてダイコンが最も多く3,575円で，以下ナス2,520円，ツケナ964円と続き，七生村でもダイコン1,890円，ツケナ525円，ゴボウ441円の順となっている（日野市，1998）。また，「南多摩郡七生村経済更生計画」（1933）には昭和８年の作物別生産状況として，米麦を除きダイコンはサツマイモに次いで作付けが多く，156反の面積で８月中下旬播種，11月下旬収穫とされ，主要品種としては‘練馬大根’（152反），‘聖護院’（５反）と記されている。「七生村誌」（1963）によると，同村では特に平山の干し大根が特産で，浅川の清流で洗い天日で乾燥して市場に出荷されていた。さらに，「日野町郷土記」（1933）には生大根が285反作付けされ，「大根ハ主トシテ東光寺ヨリトレル」と書かれてある。このように，大正，昭和初期の日野地域では広くダイコンが作付され，主に‘練馬大根’が栽培されていた。特に平山や東光寺においては当時より特産物であったようである。

生産されたダイコンは‘高倉大根’と同様に八王子等の市場に出荷された。これらの干し大根は，市民に提供されるとともに，当時，八王子地域の基幹産業であった織物工場への販売により，そこで働く女工が食するダイコンとして供給された。戦後，昭和40年代においては価格の良い中央市場（築地等）へ個人あるいは運送業者を介して出荷され，品質の良さから引きが強く人気を博した。一方，生産規模が中小の生産者は主に八王子市場に出荷していた。以後，漬け物用干し大根の需要低迷とともに中央市場への出荷は行われなくなり，地域市場への出荷が主となっている。

現在，日野市では４～５戸で漬け物用の干し大根を生産している。個人注文（固定客）に対応するとともに，昭島市の市場等に出荷している。

◎東光寺大根の品種的位置

八王子市の高倉とともに日野市の東光寺においても以前より‘練馬尻細系’のダイコンが栽培されていた。‘高倉大根’と‘東光寺大根’の関係について記された文献等はなく，はっきりしたことはわからない。‘高倉大根’の採種組合が組織され，種子の普及が行われたことから，東光寺地域にも当然種子が普及されたと考えられ，‘高倉大根’が東光寺において選抜され，‘東光寺大根’になったとも考えられる。しかし，‘高倉大根’が世に出る前からも東光寺においては練馬系のダイコンを栽培していたことは明らかであり，東光寺大根は当地で広く栽培された系統を品質がよく，ウイルスに強い系統を選抜して成り立ったと思われる。東光寺の生産者が独自に自家採種をしてきたこと，‘東光寺大根’は‘高倉大根’より首部や尻部が細い特性をもつことなどから考えても，‘高倉大根’とは別系統との見方が妥当と考えられる。ただし，‘練馬尻細系’より選抜し，当時の選抜目標（耐ウイルス病や形状）が地域によって大きく異なることがないので，生産者が言うように‘高倉大根’と‘東光寺’の大根は根の形などよく似ていることも事実である。

◎東光寺大根の特性

首部は細く，中央から尻部にかけて最も太く，根の先にいくほど細くなる。出荷適期のものとしては，首部が３㎝，根長60～65㎝，根径６㎝前後。20～30㎝抽根する。‘高倉大

根’より根は細身で，理想系のように尻部が太めでないので，たいへん収穫しやすい。抽根長も長いので引き抜くのに労力がかからない。葉はやや欠刻があり，色はやや淡い。ウイルス病には比較的強い。理想系は沢庵漬けにするとやや水っぽいが本品種は締まっており，品質的にはたいへん良好である。

◎現在の生産状況

現在，当時の‘東光寺大根’の系統を引き継ぎ，生産しているのは１～２戸であり，他は市販の理想系の品種を使用している。‘東光寺大根’の自家採種は畑で優良な株を選びながら，毎年行われている。根の形質が良好なもの（曲がり，首部や尻部の形質等）を収穫しながら選抜する。採種用のダイコンとしては20～30株程度必要で，通常の栽培よりやや広めの栽植距離に株を再び埋め直す。採種後は花茎に付いた莢をハウス内で乾燥させる。

種子の形質は他のダイコンと同様に均一ではないため，長年の経験から調整する際，選別に注意し，さらに，播種した後の間引き時に生育の遅速や葉形などをよく観察し，抜き取りを行うため，地上部の揃いや根の形質も不均一とならない。

栽培については８月25日～９月５日に播種し，播種後90日ほどで収穫する。播種は播種機を用いて，株間27㎝程度に行う。播種してから約25日後に間引く。

昔はやや若いダイコンが高値で取引されていたので，株間20㎝程度で栽培していたが，現在では小さいと市場性がないので，株間も広めとなっている。畝間は70㎝程度で，播種後30～40日に土寄せする。

収穫後ハウス内で５～６日ほど干す。最近は浅漬けで食するので，干す日数はこの程度であり，長く干すと硬くなってしまうので注意する。出荷は７本および、９本出しで行っている。

「東京多摩地域における‘高倉大根’と‘東光寺大根’の概観」

www.tokyo-aff.or.jp/center/kenkyuseika/05_01/img/KH33/p139-146.pdf

蚕糸試験場跡

第３学年　総合的な学習の時間　カイコをそだてよう

１　教材化の意図

仲田小学校は昭和 54 年まで農林水産省蚕糸試験場日野庁舎の敷地の一部であった。校地に隣接する自然体験広場（通称「仲田の森」）も同様である。この仲田の森は、施設を閉鎖して 30 年近くそのままの状態で残されていて自然林となっている。また、建物も一部そのままの状態である。これは地域の歴史を考えさせるためには有効な教材である。平成 20 年からは、年間を通じて利用することが可能になった。幸いなことに、蚕糸試験場に関連する資料が残っている。子供は自分が生活している地域の昔の様子や道具などに興味や関心を持っていることから、これらの資料を活用して意欲を喚起させながら当時の様子を想像させる。

第３学年では１学期に理科でチョウの成長の仕方や体の仕組みを学び、実際にモンシロチョウを飼育する単元がある。本単元では、モンシロチョウを育てた体験を生かし、発展的な内容としてカイコを育て、児童が興味を持ったことを調べる活動を設定する。地域の環境も生かしつつ、生き物を育てる体験を通して自分の課題を追究できる力を育てたい。また、長年にわたって人々が生き物を生活に活用してきたことに気づき、自然の大切さを感じさせ、これからの生活に結び付けて考えさせたい。

２　指導計画

(1) 単元のねらい及び評価規準

	自ら課題を設定する力	よりよく問題を解決する力	伝え合う力	自分を見つめ自己の学びを深めようとする力
ねらい	カイコの飼育について課題を設定することができる。	自分の課題に適した方法で解決する。	伝えたいことを選び、学んだことが分かるように伝える。	学習したことを振り返り、学んだことを他の学習や生活に結びつける。
評価規準	疑問に思ったことをもとに調べたいことを明確に書くことができる。	調べたことや観察したことを適切に記録することができる。	情報を取捨選択し、事実が具体的に伝わるように表現する。	学習したことを振り返り、学んだことや自分の考えを書くことができる。

(2) 単元の指導計画（35 時間）

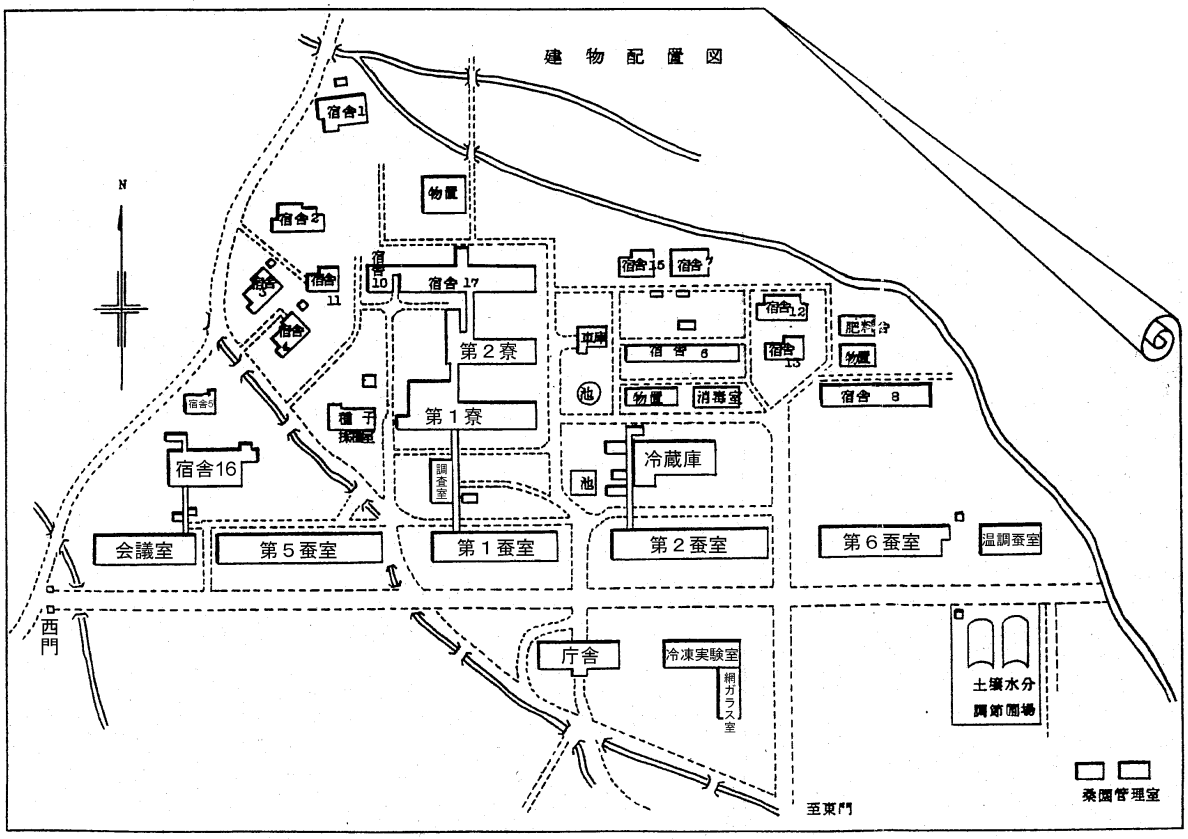
過程	学習活動	備考　◎評価
つかむ 5	○　昔の写真を見て「仲田の森」は蚕糸研究をしていた場所であったことを知る。 ○　桑の木の品種改良をしていたことを知る。 ○　仲田の森にある桑の葉を使ってカイコを飼育する計画を立てる。	○　仲田の森に残る桑の木や、蚕室跡を見学して、改良を重ねたことに気付かせる。 ◎　カイコを育てるために自分なりの課題をもつことができたか。（ワークシート）
とりくむ 15	○　カイコを飼育しながら観察し、疑問に思うことを解決する。 ・　桑はどこにあるだろうか。 ・　どの桑の葉をよく食べるだろうか。 ・　カイコは桑の葉以外に食べるものがあるだろうか。 ・　チョウと育ち方が同じところと違うところは何か。 ○　意見交換をもとに、さらに調べる。	○　飼育する際に出てきた疑問については調べ方を助言する。 ○　仲田の森や校内で育てている桑を活用する。 ○　写真や絵を使い、様子が分かるように記録させる。 ◎　適切な解決方法を選んで調べているか。（児童の記録・行動観察） ◎　具体的に記録をしているか。（児童の記録）
まとめる 10	○　カイコの飼育、観察、調べ学習で学んだことをまとめる。 ・　観察カードを１冊の本のように綴る。 ○　発見したことや気付いたことを発表する。	◎　まとめる方法を提示する。（新聞、冊子）事実が具体的に伝わるような表現をしているか。（児童がまとめたもの・発表）
ひろげる 5	○　繭を使った製品を作ったり、使ってみたりして、繭を利用した人々の知恵を知る。 ・　繭人形を作る。 ・　絹でできた製品と綿でできた製品について、手ざわりや重さなどを比較する。 ○　学習したことをふりかえり、1 枚の紙にまとめる。	○　B4 判程度の紙１枚にまとめさせる。 ◎　学習を通して、人の生活、自然とどのようにかかわっていくかを考えているか。（児童の記録）

３　資料

(1)蚕糸試験場(撮影年不明)と平成 21 年の仲田の森

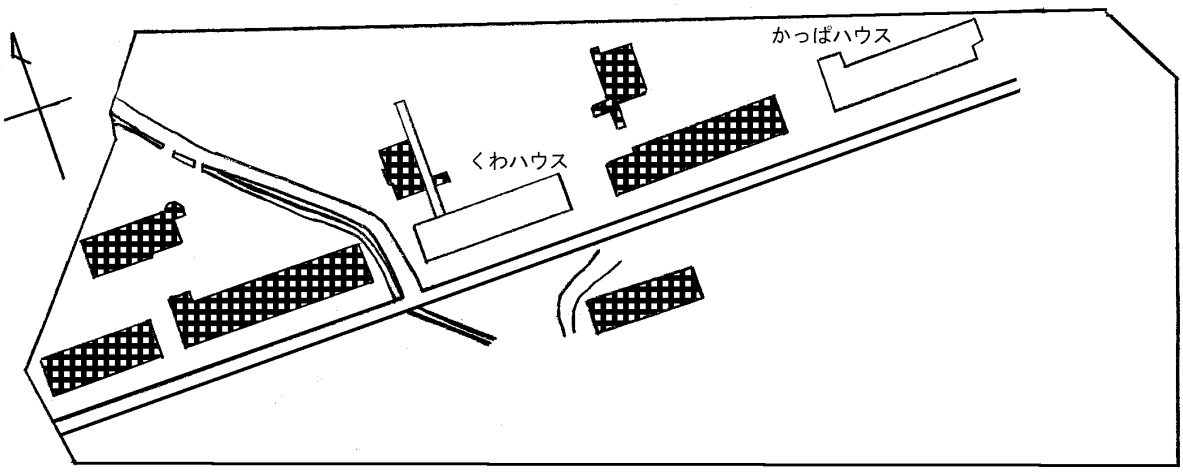
(2) 仲田の森地図

① 蚕糸試験場日野桑園の建物配置図



②平成 21 年 12 月現在の自然体験広場(仲田の森)

※黒塗りの部分は基礎部分のみ現存している。



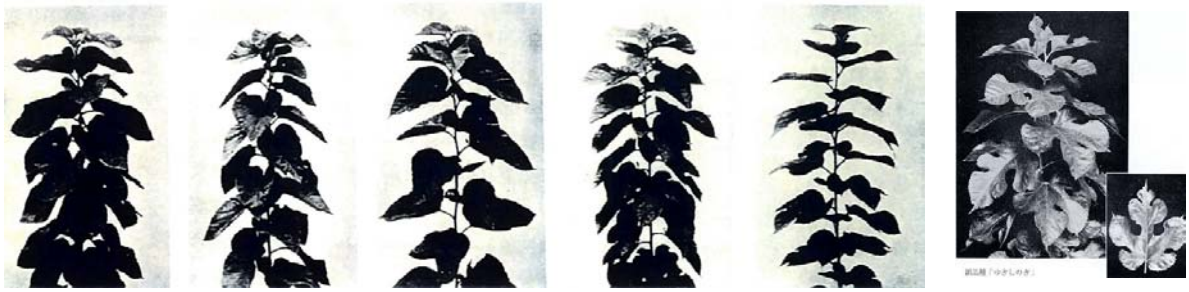
蚕糸試験場の写真と地図を参考にしながら、仲田の森にある桑の木を探す活動を行う。５月頃には果実をつけるので、桑の木であることが容易に分かる。また、写真や地図を基に桑の木がある場所を探すこともできる。

(3) 学習の様子

左上の写真は仲田の森にある桑の木を探している様子である。写真右上のような果実がついている木を目印にして探すと、様々な場所に桑の木があることが分かる。果実を食べてみると、「苺のような味がする。」という感想が聞かれた。そこで、英語で桑は"mulberry"と言い、"berry"は果肉の柔らかい水分の多い小さい果実という意味であることを伝えた。すると、「苺は"strawberry"というから味も似ているんだね。」と答えてきた。

次にカイコの卵を取り寄せ、飼育を始めた。工作用紙で飼育箱を制作し、その中で育てることにした。このことで、生まれたばかりの毛蚕（けご）の大きさが明らかになった。「同じ長さの毛蚕が何匹いると１cm になるだろうか。」と問いかけたところ、カイコの大きさを数値で表現するようになった。

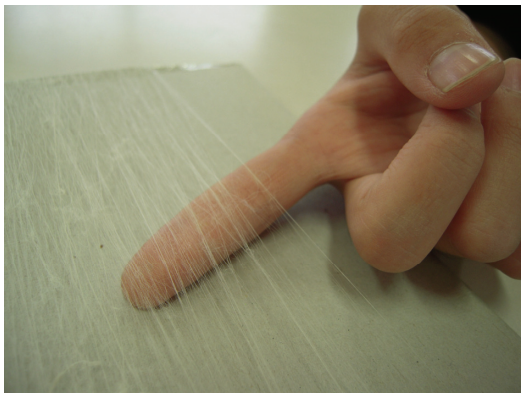
カイコの世話をしているうちに、葉をよく食べるものと、あまり食べないものがあることに気付き始めた。脱皮前にあまり葉を食べない状態があり、これを眠（みん）ということを図書などの資料から知ることができた。しかし、脱皮が終わっても食欲が出てこないものがいた。なぜかと思い、他の食欲があるカイコを見ると桑の葉の形が違うこと見つけた。同じ桑でもカイコによって、よく食べる種類と、あまり食べない種類があることに気がついた。そこで、蚕糸研究所では桑の木の研究をしていたので、いろいろな品種の桑があることを伝えた。(写真下)



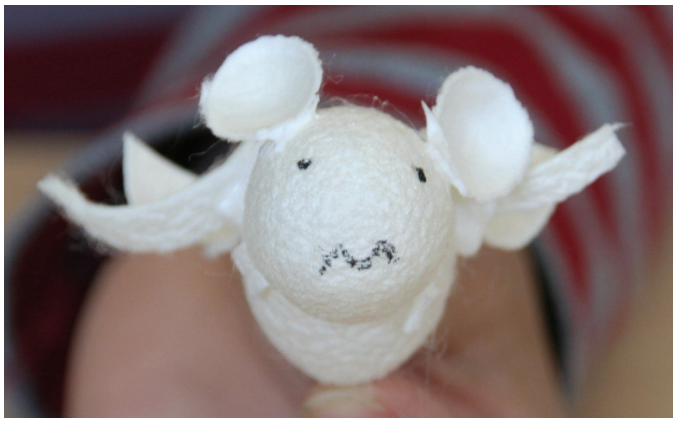
蚕糸試験場日野桑園で栽培した桑の品種　左から、わせみどり(稚蚕用)、あつみどり(暖地用)、かんまさり(寒冷地向)、あさゆき(中雪地向)、ふかゆき(多雪地向)、ゆきしのぎ

よく食べる葉はカイコによって異なることや、同じカイコでも成長に伴い食べる葉が変わることが分かり、カイコがおいしいと思う葉を探すようになった。市民の森スポーツ公園に桑の木があることを発見した子供もいたので、賞賛した上で、ここも蚕糸試験場であったので、まだ桑の木が残っているかもしれないことを知らせた。また、別の子供はカイコは葉の種類をどのようにして見分けているのかについて疑問に思うようになったが、答えを見いだすには至らなかった。

脱皮を繰り返して５齢幼虫になり、繭を作り始めたため、このあとどのようにしたいかを話し合った。糸をとりたいという意見と、成虫になるまで大切に見守りたいという意見に分かれたため、希望に応じて両方実施することにした。



取り出した糸の軽くて柔らかい感触は心地よく、いつまでも手ざわりを楽しんでいる子供もいた。続いて、絹のスカーフと綿のスカーフを両方触ってみると、違いが歴然と分かり、昔からカイコを大切に育てられてきたことを理解することができた。



さらに、繭を使って人形作りをしてみた。柔らかい絹とは対照的に、繭は鋏で切り込みを入れることが難しいほど固く、形作りに苦労していた。

このことから、なぜ固い繭が絹のように柔らかくなるのかという新たな疑問を持つようになった。

主な参考資料

独立行政法人農業生物資源研究所蚕糸関係資料等委員会「蚕糸研究のパネル」平成 20 年
日野市「(仮称)市民の森ふれあいホール基本計画書」平成 18 年

日野の昔話

第１学年国語科「ほんとなかよし」

１．教材化の意図

１年生の児童にとって、物語や昔話を聞くことは楽しみの一つである。普段は絵本の読み聞かせをしているが、地域を題材とした昔話を聞くことにより、郷土に対する関心・理解を深め、愛着を持つことができるのではないかと考え、教材化を図った。

教材化に際しては、「とんとんむかし」と言う大人向けの本を参考にした。学習指導要領（国語）では、低学年において扱う場合「児童の発達の段階や初めての古典を学習することを考慮し、易しく書き換えたものを取り上げることが必要である。」とあったので、１年生の児童が聞いても分かるようにアレンジし、読み聞かせを行い、児童にもストーリーを理解して楽しめるように工夫した。児童が、その昔話をより身近に感じられるように、関係する絵や写真を見せるなどの取り組みも行った。

２．指導計画

（１） 単元のねらい

お話を聞いたり、好きな本を探して読んだりして、読書の楽しさを知り、興味を広げる。

（２） 単元の指導計画（全２時間）

	主な学習活動と内容	備考（資料・郷土教材など）
つかむ１	○ 夏休みに読んだ本を思い出す。その中に昔話（「昔々」、「あるところに」からはじまるものなど）があったかを想起する。 ○ 自分のお勧めの本を発表する。 ○ 友達の発表を聞き、読んでみたい本、興味を持った本について発表する。	児童は一学期の国語の学習で、「おむすびころりん」を読んでおり、昔話の始まりの言葉によく使われる「むかしむかしあるところに」は学習済みである。ここでは、日野市の昔話では、「あるところ」ではなく、日野市内の地名が入っていることを押さえ、身近な場所に伝わる話だということに気付かせる。
深める１	○ 昔話の伝わっている場所を記した二小の学区域の地図を見て、学区域内に、４つの昔話があることを知る。 ○ 二小の学区域に伝わる昔話を聞いたり、昔話に関係する写真などを見たりする。 ○ 感想をワークシートに書いて、発表する。 ○ 昔話の伝わっている場所を記した日野市の地図を見て、昔話は日野のいろいろな地域にあることを知る。 ・言い伝えられているたくさんの昔話 ○ 学区域外の日野の昔話をいくつか聞く。 ・四ツ谷のうなぎ ・鮎の原兵衛	**・ 昔話の伝わっている場所を記した学区域の地図** **・ 昔話の伝わっている場所を記した日野市の地図** **・ アレンジされた昔話（『とんとんむかし』より）** **・ 日野市内に伝わっている話を１年生でも分かるようにアレンジしたもの（『とんとんむかし』、『日野市史』余話より）** **・たくさんの昔話が残る日野市に興味を持たせるようにする。** **・ 昔話に関係する写真など**

	・三沢の小梅など ○ 感じたことを発表し合う。	

（3）評価

日野の昔話を楽しんで聞くことができる。

3．本時の展開（2/2）

（1）本時のねらい

・日野市にもたくさんの昔話や言い伝えがあることを知り、日野市への興味を深める。

・教師の読み聞かせを聞いて、物語を楽しむことが出来る。

（2） 本時の展開

	学習活動	○支援　◇評価
導入	1、二小学区域の地図を見て、昔話の言い伝えられている場所を知る。 ・ 学区域にも昔話が伝わっていること。 ・ 豊田や川辺堀之内にも昔話が存在すること。 （寺坂の清水、馬の昔話）	**○二小の位置や、学区域を確認**する。 **・二小の学区域地図（民話の伝わる地域を記したもの）** **○遊び場や通学路など、自分たちの生活している場所に昔話があることに興味・関心を持たせる。**
展開	2、教師の読み聞かせを聞く。 **・日野っ原の妖婆（豊田）** **・御社母子さま（豊田）** **・馬の昔話（川辺堀之内）** **・寺坂の清水（豊田）** **・でんでん原（豊田）**	○ どこにまつわる昔話なのか、地図で確認してから読み聞かせを行う。 ○ 写真や絵などを用意し、児童が物語をより具体的に、また身近に感じられるようにする。 **・御社母子さまの写真**
まとめ	3、昔話の感想をワークシートに書いて、発表する。 ・友達の感想を聞いて、自分の考えを深めたり、共感したりする。 ・ どのお話が面白かったかなど、意見交換をする。 4、昔話の言い伝えられている場所に、印の付	○ 自由に感想を書かせる。 ○ 書けない児童には、どのお話が印象深かったかを書いてみるよう助言する。 ◇ 楽しんでお話を聞くことが出来たか。 （態度・発言・ワークシート）

	いている日野市の地図を見る。 ・日野市内の各地に昔話が言い伝えられていることに気付く。 市内の昔話を聞く。 **・黒髪淵（浅川）** **・年神ごめん（平山）**	○日野市の地図を見て、児童が関心を持てるように、二小、豊田駅、学区域について確認する。 **・日野市の地図**（昔話の言い伝えられている場所を**記したもの**）

４．資料

『とんとんむかし』の作者　菊池正氏の語りを文章化したもの（お話の会の山田さんより頂いた）

「日野っ原の妖婆」

とんとん昔のとこじゃ

あるとき、豊田村のある家の嫁さんが、赤ん坊おぶって、八王子の大和田村の実家へ行った。その頃、豊田村から大和田村へ抜けるあたりは日野っ原とよばれ、ただ草や雑木が茂るばかりでキツネとタヌキが出合っても、「こんばんは」と言い合うようなさびしい野っ原だった。

実家でつもる話についつい長居をしてしまった嫁さんは、家の人たちに「暗くなると日野っ原には鬼婆が出るから今夜は泊まっていけ」と言われるが、嫁の身だもの、「やっぱり帰らねば」と言う。家の人たちはそれならばとみやげにまんじゅうと干物とあずきを持たせ、「気をつけていけよ」と送り出してくれた。

嫁さんは赤ん坊を背負い、みやげを持って急ぎ足で帰るが、日野っ原を半分ほど行ったところで日は暮れて夜になってしまった。すると、はたして、月がかくれると嫁さんの目の前にぬっと鬼婆があらわれ、「まんじゅうよこせ」と言う。嫁さんは急いで鬼婆にまんじゅうを投げつけ逃げ出した。鬼婆は散らばったまんじゅうを拾い拾いむしゃむしゃと喰いつくすと、「もっとよこせ」と追いかけてくる。嫁さんは、今度は干物を投げて逃げた。だが鬼婆は散らばった干物をたちまちバリバリと喰ってしまい、「もっとよこせ」と追いかけてくる。嫁さんはみやげのあずきを投げた。あずきはそこらじゅうにバラバラと散らばった。だが鬼婆は散らばったあずきも、たちまち長―い舌でペロリペロリとなめるようにすくって喰ってしまうと、今度は「赤ん坊よこせ」と追いかけてきた。嫁さんはもう息もたえだえ。走ることも出来ずにそこにへタり込んでしまった。するとどこからか「ホウレホウレ」と声がする。丁度その時、月が雲間から出てあたりを明るく照らした。見ると、道ばたに小さな地蔵さんが立ってござった。その地蔵さんが「ホウレ（放れ）ホウレ（放れ）」と言っている。嫁さんはハッと気がついて、手を合わせると地蔵さんをかかえ上げ、「それっあかんぼうだっ」と鬼婆めがけて投げつけた。鬼婆はその地蔵さんを口で受けとめた。そのとたん、鬼婆は煙となって消えてしまった。それからは、日野っ原に鬼婆が出ると言う話はなくなったと。　　へえ、しまい。

『とんとんむかし』の中の話をアレンジしたもの

学区域の民話

「御社母子さま」

二小のすぐ裏にあるふたば幼稚園やその周りはみんな、昔は田んぼでした。そこには咳の神様をおまつりした石の祠が置いてありました。その石の祠の周りには、ご飯をよそうしゃもじが、

いつも置いてありました。近くに住む人々は、風邪をひくと、そのしゃもじを家へ持って帰って、そのしゃもじでご飯をよそって食べるのです。するとあっという間に風邪が治るのだそうです。風邪が治ったら、新しいしゃもじを咳の神様のところにお供えに行きます。そしてまた、風邪を引いた人がいると、その人がそのしゃもじでご飯をよそって食べ、治ったら新しいしゃもじをお供えする、これを繰り返したいたとのことです。

今は、田んぼはなくなって、果樹園になっていますが、咳の神様をおまつりした石の祠は残っています。いつか見に行けるといいですね。

「寺坂の清水」

豊田村には寺坂と言う坂があります。豊田駅から日野第二小学校へ行く途中の坂です。むかしのむかし、薬師堂のあるお寺があったと言い伝えられている場所です。

さて、豊田村には、平兵衛と言うとても力持ちの男が住んでいました。ある年の夏、その平兵衛のお父さんが、あまりの暑さに病気になってしまいました。今で言う、夏バテのようなものかもしれませんね。昔はクーラーはないし、冷蔵庫もないのですぐにアイスや氷も食べられないので、夏バテのようなものと言っても、大変です。

平兵衛は親思いの心の優しい若者でしたので、お父さんのことを大変心配しました。誰だって、家族が病気になったら、心配ですよね。そこで、平兵衛は、お父さんを病院に連れて行くことにしました。日野宿というところにいいお医者さんがいると聞いたので、そこまで連れて行こうと思いました。日野宿は、今の日野駅に近いところです。今だったら、電車に乗って行ったり、バスに乗って行ったり、車に乗って行ったりすることができますが、そのころは電車も車もバスもありませんでした。そこで平兵衛は、かごのような物を作り、その中へお父さんを座らせて、自分がそれを背負っていくことにしました。お父さんだけでも重いのに、かごのような物まで背負うのですから、相当な重さだったのでしょうが、そこは力持ちの平兵衛です。軽々と背負って、出かけました。

途中に、寺坂がありました。すると、寺坂を登っているときに、お父さんが「水がほしい」と言い出しました。水を持っていなかった平兵衛が、困ったなあと思って立ち止まると、どこからか水のにおいがします。見ると、崖っぷちに大きな岩が突き出ていて、道をふさいでいました。「この岩の下に水が流れているに違いない」と思い、平兵衛はその大きな岩に手をかけて、力いっぱい岩を持ち上げました。さすが力持ちの平兵衛です。岩が動きました。すると、涼しい風と一緒に、清水の湧く泉が現れたのです。平兵衛もお父さんもびっくりしました。お父さんは喉が渇いていたので、大喜びでこの水を飲みました。綺麗なお水でした。するとどうしたことでしょう。具合の悪かったお父さん、けろっと病気が治ってしまったのです。平兵衛もお父さんも嬉しいやらおどろくやら。二人で顔を見合わせて笑いました。

それからも、寺坂の清水はたくさんの人の病気を治してくれたそうで、医者要らずの清水と言われたものだそうです。今も、二小の近くにそんな泉があったら素敵ですね。

「でんでん原」

石川村の向原と言うところから、日野の豊田村へ行く途中には原っぱがあって、そこを朝倉野と呼んでいました。また、別の言い方ではでんでん原と呼ぶこともありました。

いつのころか分からないくらい前に、朝倉様という名前の、偉くて立派な身分の人が住んでい

たという言い伝えのあるところでした。でも、今はその朝倉様のお屋敷もなくなってしまっていて、辺り一面荒れており、夏草ばかりが生い茂っています。草がぼうぼう生えているので、道も見えません。

もともとはとても豊かな土地で、いろいろな作物が実り、人もたくさん住んでいました。朝倉様のお屋敷も大きく立派で、豪華だったようです。それがどうして、お屋敷がなくなり、住んでいたたくさんの人々はその土地を離れて、他の場所へ引っ越してしまったのか、正確なことは伝えられていません。なぜ、でんでん原は、こんなにも荒れ果てた寂しい土地になってしまったのでしょうか？

その近くに住んでいる物知りの人の言うことには、「きっと他には話せないほど、痛ましく、 悲しいことがあったのでしょう」ということでした。ただ一つだけ知られていることがあります。

それは、朝倉様の奥様が、赤ちゃんの姫様をあやしていたと言うことです。でんでん太鼓を鳴らし、子守唄を歌っていたそうです。そのためか、このでんでん原を、赤ちゃんを抱っこやおんぶしたお母さんが通ると、今もどこからか、子守唄とでんでん太鼓の音が聞こえてくるそうです。果たしてそれは、朝倉様の奥様の歌なのでしょうか？それは、悲しみに満ちた音だと言われています。

日野市内の民話

「黒髪淵」

滝合小学校の近くの長沼橋は、今は大きくて立派な橋になっていますが、昔は水際にかかっている小さな橋でした。そのすぐ脇には、長い水草が生えていて、底の暗いほうからゆらゆらと、まるで髪の毛のようにゆれる水草が見えるよどみがありました。

実は昔、その近くの平山村に住んでいる西長沼さんと言うお家に、お姫様がおりました。また、稲城市に住んでいる東長沼さんというお家には、立派な若者がおりました。お姫様と若者はお互いに好きあっていて、将来は結婚したいと思っていました。ところが、西長沼さんと東長沼さんは、同じ長沼さん同士でありながら、ものすごく仲が悪かったのです。だから、娘と息子が結婚することには、どちらの家も大反対でした。二人は、周りの人には秘密で会っていましたが、告げ口をする人がいて、二人の仲が引き裂かれてしまいました。その上、近くで戦があり、若者はその戦で死んでしまったのです。

それを知ったお姫様は、それはもう嘆き悲しみました。そして、若者の後を追って、自分も死んでしまおうと思いました。そこでお姫様は、最初に話した滝合橋の近くのよどみに身を投げました。お姫様の黒くて長い髪がよどみの中でゆらゆらとゆれたことでしょう。それから先、そのお姫様の幽霊が、よどみの近くの岩に座って髪の毛をとかしている姿を見た人は、病気になったということです。また、そのよどみには、絶対に入ってはいけないと言われてきました。大人の言うことを聞かずに入った子は、足やら手やらに黒い髪が絡んでおぼれてしまったのだそうです。

今は、長沼橋が大きくなり、その影響でよどみはなくなってしまいましたが、お姫様の幽霊は、近くにいるかもしれませんね。

「年神ごめん」

昔は、お正月が来ると、年神さまがみんなのところへ一つずつ年を配って回ったものです。だから、数え年といって、誕生日が来る前に１年生だったらみんな七歳になるわけです。さて、年

をもらえることは子どもたちは嬉しくて大喜びでしたが、年寄りには嫌なことでした。だから、年寄りには、年神さまが来ることは迷惑なことでした。

日野市の平山と言うところに、７０歳になるのだけれど、わりと元気で丈夫なばあさまがおりました。ばあさまは、ある年、考えました。

「私はもう、年はとりたくないなぁ。そうだ、山の中に隠れていよう。それなら、年神さまにも気付かれずにすむだろう。これなら、年をとらずにすむわい」

そこでばあさまは、おにぎりと敷物をもって、山の中に隠れました。そして、ほくほくと喜び、おにぎりを食べて、眠ってしまいました。

やがて、真夜中にばあさまをゆすって起こす者がいました。誰だと思って目をあけると、何と年神さまではありませんか。年神さまは、「やれやれ、やっと見つけた。年を授けなくてはならないのに、こんなに遅くなってしまって、すまんのう。お詫びに、今年は年が１０ばかりあまっているから、そっくりやるぞよ」と言って、あまった１０ばかりの年を全て、ばあさまに授けていったとのこと。ばあさまは、いっぺんに１０歳も年をとって、いっきに８０歳になってしまいました。それで、よったりよったり、山から下りてきたんだそうです。

『日野市史』余話の中の話をアレンジしたもの

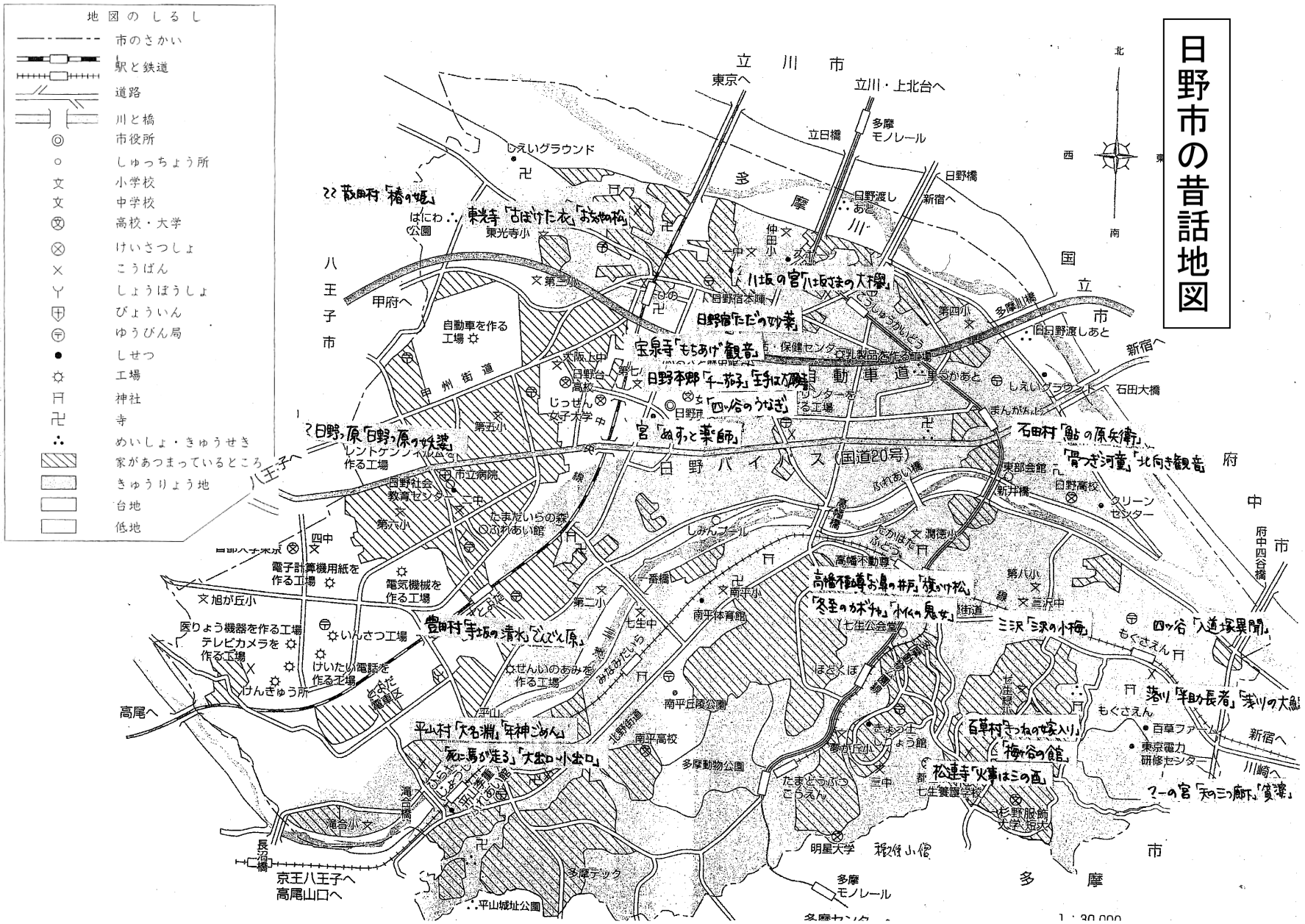
「駒くらべ」

川辺堀之内に、駒形下公園という公園があります。そこから少し坂を上ったところに、祠と言って、神様を祭っているところがあるのですが、それは昔は駒形神社と呼ばれた神社でした。なぜそこに、神社が建てられたのか、と言うお話です。

昔は、川辺堀之内辺りに、馬を育てている場所がありました。たくさんの馬がいて、中には足も速く、体も大きい、立派な馬もいました。そのようなすばらしい馬は、府中で行われる駒くらべ、どの馬が特にいい馬かを決める大会のようなもの、に参加していました。

ある年、川辺堀之内の馬が一等になりました。この馬は走るのがとても速く、競争していた場所からそのまま駆け出し、走りに走って、なんと川辺堀之内まで帰ってきてしまったのです。そこで、疲れきって、ばたりと倒れ、死んでしまいました。村の人は、その馬を供養するため、そこに神社を立て、馬は駒とも言いますので、駒形神社と言う名前が付いたのだそうです。

日野市の昔話地図


地図のしるし
市のさかい
駅と鉄道
道路
川と橋
市役所
しゅっちょう所
小学校
中学校
高校・大学
けいさつしょ
こうばん
しょうぼうしょ
びょういん
ゆうびん局
しせつ
工場
神社
寺
めいしょ・きゅうせき
家があつまっているところ
きゅうりょう地
台地
低地
北
西
東
南
立川市
東京へ
立川・上北台へ
多摩モノレール
立日橋
日野橋
新宿へ
日野渡しあと
多摩川
国立市
八王子市
甲州街道
甲府へ
自動車道
日野バイパス（国道20号）
八王子へ
府中市
府中四谷橋
石田大橋
多摩川橋
高幡不動尊
高幡不動
南平体育館
南平丘陵公園
多摩動物公園
南平高校
平山城址公園
多摩テック
明星大学
京王八王子へ
高尾へ
高尾山口へ
川崎へ
1：30,000
散田村「橋の姫」
東光寺「ばけたお化」「おちめの松」
八坂の宮「八坂様の大杉」
日野宿「たこつぼ茶」
宝泉寺「もちあげ観音」
日野本郷「千一万石」「王子様の腰掛け石」
「四ッ谷のうなぎ」
宮「ぬすっと薬師」
日野「原」「日野原の妖婆」
石田村「鮭の原矢衛」
「骨なし河童」「北向き観音」
豊田村「王坂の清水」「でべそ原」
平山村「大名淵」「年神ごめん」
「死に馬が走る」「大出口・小出口」
高幡不動「お鼻の井戸」「渡り松」
「冬至のカボチャ」「小人の鬼女」
三沢「三沢の小梅」
四ッ谷「入道と源異聞」
落川「半助長者」「落川の大蛇」
百草村「きつねの嫁入り」
「梅ヶ谷の館」
松連寺「火事は三の酉」
?一の宮「天の三つ廊下」「貴薄」
じえいグラウンド
ばにわ公園
東光寺小
第三小
第四小
仲田小
日野宿本陣
日野台高校
じっせん女子大学
第五小
第六小
第七小
第八小
第二小
三沢中
七生中
七生公会堂
七生緑小
七生養護学校
日野第一小
日野第二小
日野第三小
日野第四小
日野第五小
日野第六小
日野第七小
日野第八小
日野第九小
日野第十小
日野第十一小
日野第十二小
日野第十三小
日野第十四小
日野第十五小
日野第十六小
日野第十七小
日野第十八小
日野第十九小
日野第二十小
日野第二十一小
日野第二十二小
日野第二十三小
日野第二十四小
日野第二十五小
日野第二十六小
日野第二十七小
日野第二十八小
日野第二十九小
日野第三十小
日野第三十一小
日野第三十二小
日野第三十三小
日野第三十四小
日野第三十五小
日野第三十六小
日野第三十七小
日野第三十八小
日野第三十九小
日野第四十小
日野第四十一小
日野第四十二小
日野第四十三小
日野第四十四小
日野第四十五小
日野第四十六小
日野第四十七小
日野第四十八小
日野第四十九小
日野第五十小
日野第五十一小
日野第五十二小
日野第五十三小
日野第五十四小
日野第五十五小
日野第五十六小
日野第五十七小
日野第五十八小
日野第五十九小
日野第六十小
日野第六十一小
日野第六十二小
日野第六十三小
日野第六十四小
日野第六十五小
日野第六十六小
日野第六十七小
日野第六十八小
日野第六十九小
日野第七十小
日野第七十一小
日野第七十二小
日野第七十三小
日野第七十四小
日野第七十五小
日野第七十六小
日野第七十七小
日野第七十八小
日野第七十九小
日野第八十小
日野第八十一小
日野第八十二小
日野第八十三小
日野第八十四小
日野第八十五小
日野第八十六小
日野第八十七小
日野第八十八小
日野第八十九小
日野第九十小
日野第九十一小
日野第九十二小
日野第九十三小
日野第九十四小
日野第九十五小
日野第九十六小
日野第九十七小
日野第九十八小
日野第九十九小
日野第一百小
日野第一百一小
日野第一百二小
日野第一百三小
日野第一百四小
日野第一百五小
日野第一百六小
日野第一百七小
日野第一百八小
日野第一百九小
日野第一百十小
日野第一百十一小
日野第一百十二小
日野第一百十三小
日野第一百十四小
日野第一百十五小
日野第一百十六小
日野第一百十七小
日野第一百十八小
日野第一百十九小
日野第一百二十小
日野第一百二十一小
日野第一百二十二小
日野第一百二十三小
日野第一百二十四小
日野第一百二十五小
日野第一百二十六小
日野第一百二十七小
日野第一百二十八小
日野第一百二十九小
日野第一百三十小
日野第一百三十一小
日野第一百三十二小
日野第一百三十三小
日野第一百三十四小
日野第一百三十五小
日野第一百三十六小
日野第一百三十七小
日野第一百三十八小
日野第一百三十九小
日野第一百四十小
日野第一百四十一小
日野第一百四十二小
日野第一百四十三小
日野第一百四十四小
日野第一百四十五小
日野第一百四十六小
日野第一百四十七小
日野第一百四十八小
日野第一百四十九小
日野第一百五十小
日野第一百五十一小
日野第一百五十二小
日野第一百五十三小
日野第一百五十四小
日野第一百五十五小
日野第一百五十六小
日野第一百五十七小
日野第一百五十八小
日野第一百五十九小
日野第一百六十小
日野第一百六十一小
日野第一百六十二小
日野第一百六十三小
日野第一百六十四小
日野第一百六十五小
日野第一百六十六小
日野第一百六十七小
日野第一百六十八小
日野第一百六十九小
日野第一百七十小
日野第一百七十一小
日野第一百七十二小
日野第一百七十三小
日野第一百七十四小
日野第一百七十五小
日野第一百七十六小
日野第一百七十七小
日野第一百七十八小
日野第一百七十九小
日野第一百八十小
日野第一百八十一小
日野第一百八十二小
日野第一百八十三小
日野第一百八十四小
日野第一百八十五小
日野第一百八十六小
日野第一百八十七小
日野第一百八十八小
日野第一百八十九小
日野第一百九十小
日野第一百九十一小
日野第一百九十二小
日野第一百九十三小
日野第一百九十四小
日野第一百九十五小
日野第一百九十六小
日野第一百九十七小
日野第一百九十八小
日野第一百九十九小
日野第二百小
日野第二百一小
日野第二百二小
日野第二百三小
日野第二百四小
日野第二百五小
日野第二百六小
日野第二百七小
日野第二百八小
日野第二百九小
日野第二百十小
日野第二百十一小
日野第二百十二小
日野第二百十三小
日野第二百十四小
日野第二百十五小
日野第二百十六小
日野第二百十七小
日野第二百十八小
日野第二百十九小
日野第二百二十小
日野第二百二十一小
日野第二百二十二小
日野第二百二十三小
日野第二百二十四小
日野第二百二十五小
日野第二百二十六小
日野第二百二十七小
日野第二百二十八小
日野第二百二十九小
日野第二百三十小
日野第二百三十一小
日野第二百三十二小
日野第二百三十三小
日野第二百三十四小
日野第二百三十五小
日野第二百三十六小
日野第二百三十七小
日野第二百三十八小
日野第二百三十九小
日野第二百四十小
日野第二百四十一小
日野第二百四十二小
日野第二百四十三小
日野第二百四十四小
日野第二百四十五小
日野第二百四十六小
日野第二百四十七小
日野第二百四十八小
日野第二百四十九小
日野第二百五十小
日野第二百五十一小
日野第二百五十二小
日野第二百五十三小
日野第二百五十四小
日野第二百五十五小
日野第二百五十六小
日野第二百五十七小
日野第二百五十八小
日野第二百五十九小
日野第二百六十小
日野第二百六十一小
日野第二百六十二小
日野第二百六十三小
日野第二百六十四小
日野第二百六十五小
日野第二百六十六小
日野第二百六十七小
日野第二百六十八小
日野第二百六十九小
日野第二百七十小
日野第二百七十一小
日野第二百七十二小
日野第二百七十三小
日野第二百七十四小
日野第二百七十五小
日野第二百七十六小
日野第二百七十七小
日野第二百七十八小
日野第二百七十九小
日野第二百八十小
日野第二百八十一小
日野第二百八十二小
日野第二百八十三小
日野第二百八十四小
日野第二百八十五小
日野第二百八十六小
日野第二百八十七小
日野第二百八十八小
日野第二百八十九小
日野第二百九十小
日野第二百九十一小
日野第二百九十二小
日野第二百九十三小
日野第二百九十四小
日野第二百九十五小
日野第二百九十六小
日野第二百九十七小
日野第二百九十八小
日野第二百九十九小
日野第三百小
日野第三百一小
日野第三百二小
日野第三百三小
日野第三百四小
日野第三百五小
日野第三百六小
日野第三百七小
日野第三百八小
日野第三百九小
日野第三百十小
日野第三百十一小
日野第三百十二小
日野第三百十三小
日野第三百十四小
日野第三百十五小
日野第三百十六小
日野第三百十七小
日野第三百十八小
日野第三百十九小
日野第三百二十小
日野第三百二十一小
日野第三百二十二小
日野第三百二十三小
日野第三百二十四小
日野第三百二十五小
日野第三百二十六小
日野第三百二十七小
日野第三百二十八小
日野第三百二十九小
日野第三百三十小
日野第三百三十一小
日野第三百三十二小
日野第三百三十三小
日野第三百三十四小
日野第三百三十五小
日野第三百三十六小
日野第三百三十七小
日野第三百三十八小
日野第三百三十九小
日野第三百四十小
日野第三百四十一小
日野第三百四十二小
日野第三百四十三小
日野第三百四十四小
日野第三百四十五小
日野第三百四十六小
日野第三百四十七小
日野第三百四十八小
日野第三百四十九小
日野第三百五十小
日野第三百五十一小
日野第三百五十二小
日野第三百五十三小
日野第三百五十四小
日野第三百五十五小
日野第三百五十六小
日野第三百五十七小
日野第三百五十八小
日野第三百五十九小
日野第三百六十小
日野第三百六十一小
日野第三百六十二小
日野第三百六十三小
日野第三百六十四小
日野第三百六十五小
日野第三百六十六小
日野第三百六十七小
日野第三百六十八小
日野第三百六十九小
日野第三百七十小
日野第三百七十一小
日野第三百七十二小
日野第三百七十三小
日野第三百七十四小
日野第三百七十五小
日野第三百七十六小
日野第三百七十七小
日野第三百七十八小
日野第三百七十九小
日野第三百八十小
日野第三百八十一小
日野第三百八十二小
日野第三百八十三小
日野第三百八十四小
日野第三百八十五小
日野第三百八十六小
日野第三百八十七小
日野第三百八十八小
日野第三百八十九小
日野第三百九十小
日野第三百九十一小
日野第三百九十二小
日野第三百九十三小
日野第三百九十四小
日野第三百九十五小
日野第三百九十六小
日野第三百九十七小
日野第三百九十八小
日野第三百九十九小
日野第四百小
日野第四百一小
日野第四百二小
日野第四百三小
日野第四百四小
日野第四百五小
日野第四百六小
日野第四百七小
日野第四百八小
日野第四百九小
日野第四百十小
日野第四百十一小
日野第四百十二小
日野第四百十三小
日野第四百十四小
日野第四百十五小
日野第四百十六小
日野第四百十七小
日野第四百十八小
日野第四百十九小
日野第四百二十小
日野第四百二十一小
日野第四百二十二小
日野第四百二十三小
日野第四百二十四小
日野第四百二十五小
日野第四百二十六小
日野第四百二十七小
日野第四百二十八小
日野第四百二十九小
日野第四百三十小
日野第四百三十一小
日野第四百三十二小
日野第四百三十三小
日野第四百三十四小
日野第四百三十五小
日野第四百三十六小
日野第四百三十七小
日野第四百三十八小
日野第四百三十九小
日野第四百四十小
日野第四百四十一小
日野第四百四十二小
日野第四百四十三小
日野第四百四十四小
日野第四百四十五小
日野第四百四十六小
日野第四百四十七小
日野第四百四十八小
日野第四百四十九小
日野第四百五十小
日野第四百五十一小
日野第四百五十二小
日野第四百五十三小
日野第四百五十四小
日野第四百五十五小
日野第四百五十六小
日野第四百五十七小
日野第四百五十八小
日野第四百五十九小
日野第四百六十小
日野第四百六十一小
日野第四百六十二小
日野第四百六十三小
日野第四百六十四小
日野第四百六十五小
日野第四百六十六小
日野第四百六十七小
日野第四百六十八小
日野第四百六十九小
日野第四百七十小
日野第四百七十一小
日野第四百七十二小
日野第四百七十三小
日野第四百七十四小
日野第四百七十五小
日野第四百七十六小
日野第四百七十七小
日野第四百七十八小
日野第四百七十九小
日野第四百八十小
日野第四百八十一小
日野第四百八十二小
日野第四百八十三小
日野第四百八十四小
日野第四百八十五小
日野第四百八十六小
日野第四百八十七小
日野第四百八十八小
日野第四百八十九小
日野第四百九十小
日野第四百九十一小
日野第四百九十二小
日野第四百九十三小
日野第四百九十四小
日野第四百九十五小
日野第四百九十六小
日野第四百九十七小
日野第四百九十八小
日野第四百九十九小
日野第五百小
日野第五百一小
日野第五百二小
日野第五百三小
日野第五百四小
日野第五百五小
日野第五百六小
日野第五百七小
日野第五百八小
日野第五百九小
日野第五百十小
日野第五百十一小
日野第五百十二小
日野第五百十三小
日野第五百十四小
日野第五百十五小
日野第五百十六小
日野第五百十七小
日野第五百十八小
日野第五百十九小
日野第五百二十小
日野第五百二十一小
日野第五百二十二小
日野第五百二十三小
日野第五百二十四小
日野第五百二十五小
日野第五百二十六小
日野第五百二十七小
日野第五百二十八小
日野第五百二十九小
日野第五百三十小
日野第五百三十一小
日野第五百三十二小
日野第五百三十三小
日野第五百三十四小
日野第五百三十五小
日野第五百三十六小
日野第五百三十七小
日野第五百三十八小
日野第五百三十九小
日野第五百四十小
日野第五百四十一小
日野第五百四十二小
日野第五百四十三小
日野第五百四十四小
日野第五百四十五小
日野第五百四十六小
日野第五百四十七小
日野第五百四十八小
日野第五百四十九小
日野第五百五十小
日野第五百五十一小
日野第五百五十二小
日野第五百五十三小
日野第五百五十四小
日野第五百五十五小
日野第五百五十六小
日野第五百五十七小
日野第五百五十八小
日野第五百五十九小
日野第五百六十小
日野第五百六十一小
日野第五百六十二小
日野第五百六十三小
日野第五百六十四小
日野第五百六十五小
日野第五百六十六小
日野第五百六十七小
日野第五百六十八小
日野第五百六十九小
日野第五百七十小
日野第五百七十一小
日野第五百七十二小
日野第五百七十三小
日野第五百七十四小
日野第五百七十五小
日野第五百七十六小
日野第五百七十七小
日野第五百七十八小
日野第五百七十九小
日野第五百八十小
日野第五百八十一小
日野第五百八十二小
日野第五百八十三小
日野第五百八十四小
日野第五百八十五小
日野第五百八十六小
日野第五百八十七小
日野第五百八十八小
日野第五百八十九小
日野第五百九十小
日野第五百九十一小
日野第五百九十二小
日野第五百九十三小
日野第五百九十四小
日野第五百九十五小
日野第五百九十六小
日野第五百九十七小
日野第五百九十八小
日野第五百九十九小
日野第六百小
日野第六百一小
日野第六百二小
日野第六百三小
日野第六百四小
日野第六百五小
日野第六百六小
日野第六百七小
日野第六百八小
日野第六百九小
日野第六百十小
日野第六百十一小
日野第六百十二小
日野第六百十三小
日野第六百十四小
日野第六百十五小
日野第六百十六小
日野第六百十七小
日野第六百十八小
日野第六百十九小
日野第六百二十小
日野第六百二十一小
日野第六百二十二小
日野第六百二十三小
日野第六百二十四小
日野第六百二十五小
日野第六百二十六小
日野第六百二十七小
日野第六百二十八小
日野第六百二十九小
日野第六百三十小
日野第六百三十一小
日野第六百三十二小
日野第六百三十三小
日野第六百三十四小
日野第六百三十五小
日野第六百三十六小
日野第六百三十七小
日野第六百三十八小
日野第六百三十九小
日野第六百四十小
日野第六百四十一小
日野第六百四十二小
日野第六百四十三小
日野第六百四十四小
日野第六百四十五小
日野第六百四十六小
日野第六百四十七小
日野第六百四十八小
日野第六百四十九小
日野第六百五十小
日野第六百五十一小
日野第六百五十二小
日野第六百五十三小
日野第六百五十四小
日野第六百五十五小
日野第六百五十六小
日野第六百五十七小
日野第六百五十八小
日野第六百五十九小
日野第六百六十小
日野第六百六十一小
日野第六百六十二小
日野第六百六十三小
日野第六百六十四小
日野第六百六十五小
日野第六百六十六小
日野第六百六十七小
日野第六百六十八小
日野第六百六十九小
日野第六百七十小
日野第六百七十一小
日野第六百七十二小
日野第六百七十三小
日野第六百七十四小
日野第六百七十五小
日野第六百七十六小
日野第六百七十七小
日野第六百七十八小
日野第六百七十九小
日野第六百八十小
日野第六百八十一小
日野第六百八十二小
日野第六百八十三小
日野第六百八十四小
日野第六百八十五小
日野第六百八十六小
日野第六百八十七小
日野第六百八十八小
日野第六百八十九小
日野第六百九十小
日野第六百九十一小
日野第六百九十二小
日野第六百九十三小
日野第六百九十四小
日野第六百九十五小
日野第六百九十六小
日野第六百九十七小
日野第六百九十八小
日野第六百九十九小
日野第七百小
日野第七百一小
日野第七百二小
日野第七百三小
日野第七百四小
日野第七百五小
日野第七百六小
日野第七百七小
日野第七百八小
日野第七百九小
日野第七百十小
日野第七百十一小
日野第七百十二小
日野第七百十三小
日野第七百十四小
日野第七百十五小
日野第七百十六小
日野第七百十七小
日野第七百十八小
日野第七百十九小
日野第七百二十小
日野第七百二十一小
日野第七百二十二小
日野第七百二十三小
日野第七百二十四小
日野第七百二十五小
日野第七百二十六小
日野第七百二十七小
日野第七百二十八小
日野第七百二十九小
日野第七百三十小
日野第七百三十一小
日野第七百三十二小
日野第七百三十三小
日野第七百三十四小
日野第七百三十五小
日野第七百三十六小
日野第七百三十七小
日野第七百三十八小
日野第七百三十九小
日野第七百四十小
日野第七百四十一小
日野第七百四十二小
日野第七百四十三小
日野第七百四十四小
日野第七百四十五小
日野第七百四十六小
日野第七百四十七小
日野第七百四十八小
日野第七百四十九小
日野第七百五十小
日野第七百五十一小
日野第七百五十二小
日野第七百五十三小
日野第七百五十四小
日野第七百五十五小
日野第七百五十六小
日野第七百五十七小
日野第七百五十八小
日野第七百五十九小
日野第七百六十小
日野第七百六十一小
日野第七百六十二小
日野第七百六十三小
日野第七百六十四小
日野第七百六十五小
日野第七百六十六小
日野第七百六十七小
日野第七百六十八小
日野第七百六十九小
日野第七百七十小
日野第七百七十一小
日野第七百七十二小
日野第七百七十三小
日野第七百七十四小
日野第七百七十五小
日野第七百七十六小
日野第七百七十七小
日野第七百七十八小
日野第七百七十九小
日野第七百八十小
日野第七百八十一小
日野第七百八十二小
日野第七百八十三小
日野第七百八十四小
日野第七百八十五小
日野第七百八十六小
日野第七百八十七小
日野第七百八十八小
日野第七百八十九小
日野第七百九十小
日野第七百九十一小
日野第七百九十二小
日野第七百九十三小
日野第七百九十四小
日野第七百九十五小
日野第七百九十六小
日野第七百九十七小
日野第七百九十八小
日野第七百九十九小
日野第八百小
日野第八百一小
日野第八百二小
日野第八百三小
日野第八百四小
日野第八百五小
日野第八百六小
日野第八百七小
日野第八百八小
日野第八百九小
日野第八百十小
日野第八百十一小
日野第八百十二小
日野第八百十三小
日野第八百十四小
日野第八百十五小
日野第八百十六小
日野第八百十七小
日野第八百十八小
日野第八百十九小
日野第八百二十小
日野第八百二十一小
日野第八百二十二小
日野第八百二十三小
日野第八百二十四小
日野第八百二十五小
日野第八百二十六小
日野第八百二十七小
日野第八百二十八小
日野第八百二十九小
日野第八百三十小
日野第八百三十一小
日野第八百三十二小
日野第八百三十三小
日野第八百三十四小
日野第八百三十五小
日野第八百三十六小
日野第八百三十七小
日野第八百三十八小
日野第八百三十九小
日野第八百四十小
日野第八百四十一小
日野第八百四十二小
日野第八百四十三小
日野第八百四十四小
日野第八百四十五小
日野第八百四十六小
日野第八百四十七小
日野第八百四十八小
日野第八百四十九小
日野第八百五十小
日野第八百五十一小
日野第八百五十二小
日野第八百五十三小
日野第八百五十四小
日野第八百五十五小
日野第八百五十六小
日野第八百五十七小
日野第八百五十八小
日野第八百五十九小
日野第八百六十小
日野第八百六十一小
日野第八百六十二小
日野第八百六十三小
日野第八百六十四小
日野第八百六十五小
日野第八百六十六小
日野第八百六十七小
日野第八百六十八小
日野第八百六十九小
日野第八百七十小
日野第八百七十一小
日野第八百七十二小
日野第八百七十三小
日野第八百七十四小
日野第八百七十五小
日野第八百七十六小
日野第八百七十七小
日野第八百七十八小
日野第八百七十九小
日野第八百八十小
日野第八百八十一小
日野第八百八十二小
日野第八百八十三小
日野第八百八十四小
日野第八百八十五小
日野第八百八十六小
日野第八百八十七小
日野第八百八十八小
日野第八百八十九小
日野第八百九十小
日野第八百九十一小
日野第八百九十二小
日野第八百九十三小
日野第八百九十四小
日野第八百九十五小
日野第八百九十六小
日野第八百九十七小
日野第八百九十八小
日野第八百九十九小
日野第九百小
日野第九百一小
日野第九百二小
日野第九百三小
日野第九百四小
日野第九百五小
日野第九百六小
日野第九百七小
日野第九百八小
日野第九百九小
日野第九百十小
日野第九百十一小
日野第九百十二小
日野第九百十三小
日野第九百十四小
日野第九百十五小
日野第九百十六小
日野第九百十七小
日野第九百十八小
日野第九百十九小
日野第九百二十小
日野第九百二十一小
日野第九百二十二小
日野第九百二十三小
日野第九百二十四小
日野第九百二十五小
日野第九百二十六小
日野第九百二十七小
日野第九百二十八小
日野第九百二十九小
日野第九百三十小
日野第九百三十一小
日野第九百三十二小
日野第九百三十三小
日野第九百三十四小
日野第九百三十五小
日野第九百三十六小
日野第九百三十七小
日野第九百三十八小
日野第九百三十九小
日野第九百四十小
日野第九百四十一小
日野第九百四十二小
日野第九百四十三小
日野第九百四十四小
日野第九百四十五小
日野第九百四十六小
日野第九百四十七小
日野第九百四十八小
日野第九百四十九小
日野第九百五十小
日野第九百五十一小
日野第九百五十二小
日野第九百五十三小
日野第九百五十四小
日野第九百五十五小
日野第九百五十六小
日野第九百五十七小
日野第九百五十八小
日野第九百五十九小
日野第九百六十小
日野第九百六十一小
日野第九百六十二小
日野第九百六十三小
日野第九百六十四小
日野第九百六十五小
日野第九百六十六小
日野第九百六十七小
日野第九百六十八小
日野第九百六十九小
日野第九百七十小
日野第九百七十一小
日野第九百七十二小
日野第九百七十三小
日野第九百七十四小
日野第九百七十五小
日野第九百七十六小
日野第九百七十七小
日野第九百七十八小
日野第九百七十九小
日野第九百八十小
日野第九百八十一小
日野第九百八十二小
日野第九百八十三小
日野第九百八十四小
日野第九百八十五小
日野第九百八十六小
日野第九百八十七小
日野第九百八十八小
日野第九百八十九小
日野第九百九十小
日野第九百九十一小
日野第九百九十二小
日野第九百九十三小
日野第九百九十四小
日野第九百九十五小
日野第九百九十六小
日野第九百九十七小
日野第九百九十八小
日野第九百九十九小
日野第一千小
日野第一千一小
日野第一千二小
日野第一千三小
日野第一千四小
日野第一千五小
日野第一千六小
日野第一千七小
日野第一千八小
日野第一千九小
日野第一千十小
日野第一千十一小
日野第一千十二小
日野第一千十三小
日野第一千十四小
日野第一千十五小
日野第一千十六小
日野第一千十七小
日野第一千十八小
日野第一千十九小
日野第一千二十小
日野第一千二十一小
日野第一千二十二小
日野第一千二十三小
日野第一千二十四小
日野第一千二十五小
日野第一千二十六小
日野第一千二十七小
日野第一千二十八小
日野第一千二十九小
日野第一千三十小
日野第一千三十一小
日野第一千三十二小
日野第一千三十三小
日野第一千三十四小
日野第一千三十五小
日野第一千三十六小
日野第一千三十七小
日野第一千三十八小
日野第一千三十九小
日野第一千四十小
日野第一千四十一小
日野第一千四十二小
日野第一千四十三小
日野第一千四十四小
日野第一千四十五小
日野第一千四十六小
日野第一千四十七小
日野第一千四十八小
日野第一千四十九小
日野第一千五十小
日野第一千五十一小
日野第一千五十二小
日野第一千五十三小
日野第一千五十四小
日野第一千五十五小
日野第一千五十六小
日野第一千五十七小
日野第一千五十八小
日野第一千五十九小
日野第一千六十小
日野第一千六十一小
日野第一千六十二小
日野第一千六十三小
日野第一千六十四小
日野第一千六十五小
日野第一千六十六小
日野第一千六十七小
日野第一千六十八小
日野第一千六十九小
日野第一千七十小
日野第一千七十一小
日野第一千七十二小
日野第一千七十三小
日野第一千七十四小
日野第一千七十五小
日野第一千七十六小
日野第一千七十七小
日野第一千七十八小
日野第一千七十九小
日野第一千八十小
日野第一千八十一小
日野第一千八十二小
日野第一千八十三小
日野第一千八十四小
日野第一千八十五小
日野第一千八十六小
日野第一千八十七小
日野第一千八十八小
日野第一千八十九小
日野第一千九十小
日野第一千九十一小
日野第一千九十二小
日野第一千九十三小
日野第一千九十四小
日野第一千九十五小
日野第一千九十六小
日野第一千九十七小
日野第一千九十八小
日野第一千九十九小
日野第一千一百小
日野第一千一百一小
日野第一千一百二小
日野第一千一百三小
日野第一千一百四小
日野第一千一百五小
日野第一千一百六小
日野第一千一百七小
日野第一千一百八小
日野第一千一百九小
日野第一千一百十小
日野第一千一百十一小
日野第一千一百十二小
日野第一千一百十三小
日野第一千一百十四小
日野第一千一百十五小
日野第一千一百十六小
日野第一千一百十七小
日野第一千一百十八小
日野第一千一百十九小
日野第一千一百二十小
日野第一千一百二十一小
日野第一千一百二十二小
日野第一千一百二十三小
日野第一千一百二十四小
日野第一千一百二十五小
日野第一千一百二十六小
日野第一千一百二十七小
日野第一千一百二十八小
日野第一千一百二十九小
日野第一千一百三十小
日野第一千一百三十一小
日野第一千一百三十二小
日野第一千一百三十三小
日野第一千一百三十四小
日野第一千一百三十五小
日野第一千一百三十六小
日野第一千一百三十七小
日野第一千一百三十八小
日野第一千一百三十九小
日野第一千一百四十小
日野第一千一百四十一小
日野第一千一百四十二小
日野第一千一百四十三小
日野第一千一百四十四小
日野第一千一百四十五小
日野第一千一百四十六小
日野第一千一百四十七小
日野第一千一百四十八小
日野第一千一百四十九小
日野第一千一百五十小
日野第一千一百五十一小
日野第一千一百五十二小
日野第一千一百五十三小
日野第一千一百五十四小
日野第一千一百五十五小
日野第一千一百五十六小
日野第一千一百五十七小
日野第一千一百五十八小
日野第一千一百五十九小
日野第一千一百六十小
日野第一千一百六十一小
日野第一千一百六十二小
日野第一千一百六十三小
日野第一千一百六十四小
日野第一千一百六十五小
日野第一千一百六十六小
日野第一千一百六十七小
日野第一千一百六十八小
日野第一千一百六十九小
日野第一千一百七十小
日野第一千一百七十一小
日野第一千一百七十二小
日野第一千一百七十三小
日野第一千一百七十四小
日野第一千一百七十五小
日野第一千一百七十六小
日野第一千一百七十七小
日野第一千一百七十八小
日野第一千一百七十九小
日野第一千一百八十小
日野第一千一百八十一小
日野第一千一百八十二小
日野第一千一百八十三小
日野第一千一百八十四小
日野第一千一百八十五小
日野第一千一百八十六小
日野第一千一百八十七小
日野第一千一百八十八小
日野第一千一百八十九小
日野第一千一百九十小
日野第一千一百九十一小
日野第一千一百九十二小
日野第一千一百九十三小
日野第一千一百九十四小
日野第一千一百九十五小
日野第一千一百九十六小
日野第一千一百九十七小
日野第一千一百九十八小
日野第一千一百九十九小
日野第一千二百小
日野第一千二百一小
日野第一千二百二小
日野第一千二百三小
日野第一千二百四小
日野第一千二百五小
日野第一千二百六小
日野第一千二百七小
日野第一千二百八小
日野第一千二百九小
日野第一千二百十小
日野第一千二百十一小
日野第一千二百十二小
日野第一千二百十三小
日野第一千二百十四小
日野第一千二百十五小
日野第一千二百十六小
日野第一千二百十七小
日野第一千二百十八小
日野第一千二百十九小
日野第一千二百二十小
日野第一千二百二十一小
日野第一千二百二十二小
日野第一千二百二十三小
日野第一千二百二十四小
日野第一千二百二十五小
日野第一千二百二十六小
日野第一千二百二十七小
日野第一千二百二十八小
日野第一千二百二十九小
日野第一千二百三十小
日野第一千二百三十一小
日野第一千二百三十二小
日野第一千二百三十三小
日野第一千二百三十四小
日野第一千二百三十五小
日野第一千二百三十六小
日野第一千二百三十七小
日野第一千二百三十八小
日野第一千二百三十九小
日野第一千二百四十小
日野第一千二百四十一小
日野第一千二百四十二小
日野第一千二百四十三小
日野第一千二百四十四小
日野第一千二百四十五小
日野第一千二百四十六小
日野第一千二百四十七小
日野第一千二百四十八小
日野第一千二百四十九小
日野第一千二百五十小
日野第一千二百五十一小
日野第一千二百五十二小
日野第一千二百五十三小
日野第一千二百五十四小
日野第一千二百五十五小
日野第一千二百五十六小
日野第一千二百五十七小
日野第一千二百五十八小
日野第一千二百五十九小
日野第一千二百六十小
日野第一千二百六十一小
日野第一千二百六十二小
日野第一千二百六十三小
日野第一千二百六十四小
日野第一千二百六十五小
日野第一千二百六十六小
日野第一千二百六十七小
日野第一千二百六十八小
日野第一千二百六十九小
日野第一千二百七十小
日野第一千二百七十一小
日野第一千二百七十二小
日野第一千二百七十三小
日野第一千二百七十四小
日野第一千二百七十五小
日野第一千二百七十六小
日野第一千二百七十七小
日野第一千二百七十八小
日野第一千二百七十九小
日野第一千二百八十小
日野第一千二百八十一小
日野第一千二百八十二小
日野第一千二百八十三小
日野第一千二百八十四小
日野第一千二百八十五小
日野第一千二百八十六小
日野第一千二百八十七小
日野第一千二百八十八小
日野第一千二百八十九小
日野第一千二百九十小
日野第一千二百九十一小
日野第一千二百九十二小
日野第一千二百九十三小
日野第一千二百九十四小
日野第一千二百九十五小
日野第一千二百九十六小
日野第一千二百九十七小
日野第一千二百九十八小
日野第一千二百九十九小
日野第一千三百小
日野第一千三百一小
日野第一千三百二小
日野第一千三百三小
日野第一千三百四小
日野第一千三百五小
日野第一千三百六小
日野第一千三百七小
日野第一千三百八小
日野第一千三百九小
日野第一千三百十小
日野第一千三百十一小
日野第一千三百十二小
日野第一千三百十三小
日野第一千三百十四小
日野第一千三百十五小
日野第一千三百十六小
日野第一千三百十七小
日野第一千三百十八小
日野第一千三百十九小
日野第一千三百二十小
日野第一千三百二十一小
日野第一千三百二十二小
日野第一千三百二十三小
日野第一千三百二十四小
日野第一千三百二十五小
日野第一千三百二十六小
日野第一千三百二十七小
日野第一千三百二十八小
日野第一千三百二十九小
日野第一千三百三十小
日野第一千三百三十一小
日野第一千三百三十二小
日野第一千三百三十三小
日野第一千三百三十四小
日野第一千三百三十五小
日野第一千三百三十六小
日野第一千三百三十七小
日野第一千三百三十八小
日野第一千三百三十九小
日野第一千三百四十小
日野第一千三百四十一小
日野第一千三百四十二小
日野第一千三百四十三小
日野第一千三百四十四小
日野第一千三百四十五小
日野第一千三百四十六小
日野第一千三百四十七小
日野第一千三百四十八小
日野第一千三百四十九小
日野第一千三百五十小
日野第一千三百五十一小
日野第一千三百五十二小
日野第一千三百五十三小
日野第一千三百五十四小
日野第一千三百五十五小
日野第一千三百五十六小
日野第一千三百五十七小
日野第一千三百五十八小
日野第一千三百五十九小
日野第一千三百六十小
日野第一千三百六十一小
日野第一千三百六十二小
日野第一千三百六十三小
日野第一千三百六十四小
日野第一千三百六十五小
日野第一千三百六十六小
日野第一千三百六十七小
日野第一千三百六十八小
日野第一千三百六十九小
日野第一千三百七十小
日野第一千三百七十一小
日野第一千三百七十二小
日野第一千三百七十三小
日野第一千三百七十四小
日野第一千三百七十五小
日野第一千三百七十六小
日野第一千三百七十七小
日野第一千三百七十八小
日野第一千三百七十九小
日野第一千三百八十小
日野第一千三百八十一小
日野第一千三百八十二小
日野第一千三百八十三小
日野第一千三百八十四小
日野第一千三百八十五小
日野第一千三百八十六小
日野第一千三百八十七小
日野第一千三百八十八小
日野第一千三百八十九小
日野第一千三百九十小
日野第一千三百九十一小
日野第一千三百九十二小
日野第一千三百九十三小
日野第一千三百九十四小
日野第一千三百九十五小
日野第一千三百九十六小
日野第一千三百九十七小
日野第一千三百九十八小
日野第一千三百九十九小
日野第一千四百小
日野第一千四百一小
日野第一千四百二小
日野第一千四百三小
日野第一千四百四小
日野第一千四百五小
日野第一千四百六小
日野第一千四百七小
日野第一千四百八小
日野第一千四百九小
日野第一千四百十小
日野第一千四百十一小
日野第一千四百十二小
日野第一千四百十三小
日野第一千四百十四小
日野第一千四百十五小
日野第一千四百十六小
日野第一千四百十七小
日野第一千四百十八小
日野第一千四百十九小
日野第一千四百二十小
日野第一千四百二十一小
日野第一千四百二十二小
日野第一千四百二十三小
日野第一千四百二十四小
日野第一千四百二十五小
日野第一千四百二十六小
日野第一千四百二十七小
日野第一千四百二十八小
日野第一千四百二十九小
日野第一千四百三十小
日野第一千四百三十一小
日野第一千四百三十二小
日野第一千四百三十三小
日野第一千四百三十四小
日野第一千四百三十五小
日野第一千四百三十六小
日野第一千四百三十七小
日野第一千四百三十八小
日野第一千四百三十九小
日野第一千四百四十小
日野第一千四百四十一小
日野第一千四百四十二小
日野第一千四百四十三小
日野第一千四百四十四小
日野第一千四百四十五小
日野第一千四百四十六小
日野第一千四百四十七小
日野第一千四百四十八小
日野第一千四百四十九小
日野第一千四百五十小
日野第一千四百五十一小
日野第一千四百五十二小
日野第一千四百五十三小
日野第一千四百五十四小
日野第一千四百五十五小
日野第一千四百五十六小
日野第一千四百五十七小
日野第一千四百五十八小
日野第一千四百五十九小
日野第一千四百六十小
日野第一千四百六十一小
日野第一千四百六十二小
日野第一千四百六十三小
日野第一千四百六十四小
日野第一千四百六十五小
日野第一千四百六十六小
日野第一千四百六十七小
日野第一千四百六十八小
日野第一千四百六十九小
日野第一千四百七十小
日野第一千四百七十一小
日野第一千四百七十二小
日野第一千四百七十三小
日野第一千四百七十四小
日野第一千四百七十五小
日野第一千四百七十六小
日野第一千四百七十七小
日野第一千四百七十八小
日野第一千四百七十九小
日野第一千四百八十小
日野第一千四百八十一小
日野第一千四百八十二小
日野第一千四百八十三小
日野第一千四百八十四小
日野第一千四百八十五小
日野第一千四百八十六小
日野第一千四百八十七小
日野第一千四百八十八小
日野第一千四百八十九小
日野第一千四百九十小
日野第一千四百九十一小
日野第一千四百九十二小
日野第一千四百九十三小
日野第一千四百九十四小
日野第一千四百九十五小
日野第一千四百九十六小
日野第一千四百九十七小
日野第一千四百九十八小
日野第一千四百九十九小
日野第一千五百小
日野第一千五百一小
日野第一千五百二小
日野第一千五百三小
日野第一千五百四小
日野第一千五百五小
日野第一千五百六小
日

多摩平の森を活用した授業実践

第４学年　総合的な学習の時間「見て触れて調べよう　多摩平の森」

１．教材化の意図

学校の近くには、「多摩平の森」という団地内緑地がある。旧多摩平団地時代には、森林公園として、住民に親しまれてきた場所であった。老朽化に伴い、10 年ほど前から建て替え作業が始まった。住民の願いもあり、自然との調和を図りながら、団地が建設された。この場所は、もともと畑地が広がっていた台地であったため、栄養豊富。緑地内には、約 350 本、20 種を超える高木があり、関東でも珍しいモミの木もあるという。ここが団地の敷地内であるとは思い難いほど立派な自然が残っている。これらは、先人が残した貴重な遺産であり、これからも守っていくべきものである。

児童に、「日野のいいところは？」と聞くと、「おいしい給食」「新撰組のふるさと」と、いった「２～３」の事柄は挙がる。しかし、「自然が多い」「公園が多い」といったよさに気付いている児童は、ほとんどいない。

また、学校の中にも、四季により変化する樹木や草花があるが、進んで調べたり自然に触れたりしようとする児童は、少ないように感じる。校章には「メタセコイア」の葉が使われているが、その由来までは知らないようである。そこで、校章を取り上げて、そこに込められた願いを知ることから、自然愛や学校への愛着をさらに深めたい。

児童は、第３学年社会科「わたしたちの日野」で、日野市の土地の様子や使われ方について学習してきた。第４学年社会科「くらしと土地の様子」では、資料をもとに、東京都の地形と土地の使われ方について考える学習をした。今回、総合的な学習の時間で、航空写真や地図を提示したり、身近な地域の自然と歴史に触れたりする活動を行う。そこで新たな関心や疑問が芽生え、児童の主体的な探求活動につながるのではないかと考える。自分たちの住んでいる多摩平のよさに気付かせたい。子どもたちが、地域の身近な自然や歴史を知り、触れたり自分で調べたりする活動を行うことで、多摩平のことを大切にする心、郷土を愛する心が育まれると考え、身近な多摩平の自然を教材化することとした。

２．指導計画

(1) 単元のねらい

地域の身近な自然（多摩平の森）や歴史について自ら課題を見つけ、自然の様子や人の関わりについて自分で調べる活動を行うことで、自然を大切にしていこうとする心を育む。

(2) 単元の指導計画（全 21 時間）

	主な学習活動	○支援　◇評価
課題を把握する	**１．校章から身近な木について関心を高める。（１時間）** ・校章のデザインを想起して描く。 ・実際のものと比べて修正する。 ・校章の由来について感じたことを話し合う。	○「校章」のデザインをもとに、いつ、だれがどのような思いで表現したのか情報を提供する。「校歌」にも触れる。 ◇デザインに込められた願いに触れて、メタセコイアと学校との関係について書けたか。

	２．自然体験活動をする。〔１〕（１時間） ・多摩平や六小には、どのような植物があり、どんな様子か観察する。	○目立つ樹木や草花に着目させる。
	３．地図や航空写真から、多摩平の土地の変化について考える。（１時間） ・航空写真を見て、土地の変化を考える。 ・20 年ごとの土地の変化に着目しながら、正確に地図を読む。 ・考えたことをワークシートに書く。※資料①	○地図を正しく読み、森林の変化に気付くことができるよう、視点を提示する。 ◇身近な自然の変化に着目して、学校開校時（昭和 41 年）から 20 年ごとの地図を調べることができる。
課題を明確にする	**４．自然体験活動をする。〔２〕（２時間）** ・紙芝居を聞き、ストーン牧師について知る。 ・多摩平の森の自然に触れる。 ・多摩平の森に触れた感想や知りたいことについて、アンケートに書く。※資料②	○交通マナーを守って安全に行動する。 ○ストーン牧師が多摩平の森を愛した点を中心に扱う。 ○多摩平の森について詳しい自治会の方に案内していただき、森についての説明を受ける。 ○アンケートは、教師があらかじめ準備しておく。 ◇自然について関心をもち、調べたいことが見つけられたか。
	５．自然体験活動をふまえ、疑問や知りたいことを整理し、課題を決める。（１時間）＜本時＞ ・調べてみたいことを出し合い、課題を決める。 ・調べてみたい内容ごとにグループを作る。 ・掲示用カードに、グループ名・課題名・メンバーを書く。※資料⑤	○あらかじめ同じ内容の課題ごとにおおまかにグループ分けしておくが、できるだけ児童同士で決めさせるようにする。 ○意識付けのためカードは掲示する。 ◇自然体験活動をふまえ、疑問や知りたいことを整理し、課題を決められたか。
	６．課題解決の方法を考える。（１時間） ・グループごとに課題について調べる方法を話し合い、取材計画カードを作成する。※資料⑥	○取材計画カードを書き終えたグループから見て、調べる方法について、助言する。 ◇取材計画カードを作り終えられたか。
追究する	**７．調べ学習をする。（４時間）** ・前時までに自分で決めた課題を解決するのに、必要な情報を収集する。 ・「多摩平の森」のよい点を見つける。 ・樹木や草花等について図鑑で調べる。 ・多摩平団地の歴史について調べる。 ・取材メモを作る。 ・木の太さや森の広さを測る。 ・種類ごとに木の本数を数える。	○意欲的に調べられるように、調べ方について助言する。（インターネット、図書資料、社会科副読本）その他、郷土資料館の出前授業やデリバリー博物館の活用、地域に関わる植物や自然に関わる標本があれば活用したい。 ○調査に必要な物は、できるだけ自分たちで準備しておくよう声をかける。 ◇調べたい事柄の情報を集めることができたか。

	８．多摩平自治会の方に質問したり、取材したりする。（２時間） 大事なことを落とさず、取材用ワークシートにメモをとりながら聞く。※資料⑦	○あらかじめ児童の質問事項をまとめておき、自治会の方に送っておく。 ○内容のまとまりごとに、効率よく質問できるよう配慮する。 ○大事なことを落とさないよう、メモをとりながら聞くよう助言する。 ◇調べたい事柄の情報を集めることができたか。
深める	**９．取材したことをまとめる。（４時間）** ・どのような形にまとめるのか、グループで話し合って決める。 ・役割分担をする。 ・まとめる中で、分からないことや新たな疑問については調べを進め、協力して完成させる。	○まとめ方について例を出し、グループごとに助言する。 〔まとめ方の例〕 ・壁新聞　・ガイドブック　・紙芝居 ・絵本　　・パワーポイント
	10. 多摩平の森についての発表会を行う。（３時間） ・発表練習をする。 ・地域の人に、多摩平の森について調べてまとめたことを発表する。工夫した点を述べる。 ・感想を伝え合う。 〔対象〕保護者 〔時間〕練習１時間、発表２時間 〔会場〕教室	○発表方法について提示する。 ○地域の方に伝えたいことが伝わるよう工夫させる。 ○友達の発表のどのような点が良いか見つけながら聞くことができるよう、聞く観点を示したシートを活用する。 ※資料⑧ ◇多摩平の森について伝えたいことを分かりやすく発表することができたか。
まとめる	11. 学習を振り返り、感想を交流する。（１時間） ・これまでの学習の感想を書く。 ・感想を伝え合う。 ・取材に協力してくださった方に、手紙を書く。	○グループで感想交流し、まとめる。 ◇身近な自然や歴史に対する自分の考えを深めることができたか。

３．本時の指導

(1) 本時のねらい

多摩平の森での自然体験活動をふまえ、疑問に感じたことやもっと知りたいことを整理し、課題を決めることができる。

(2) 本時の展開（６／21 時間）

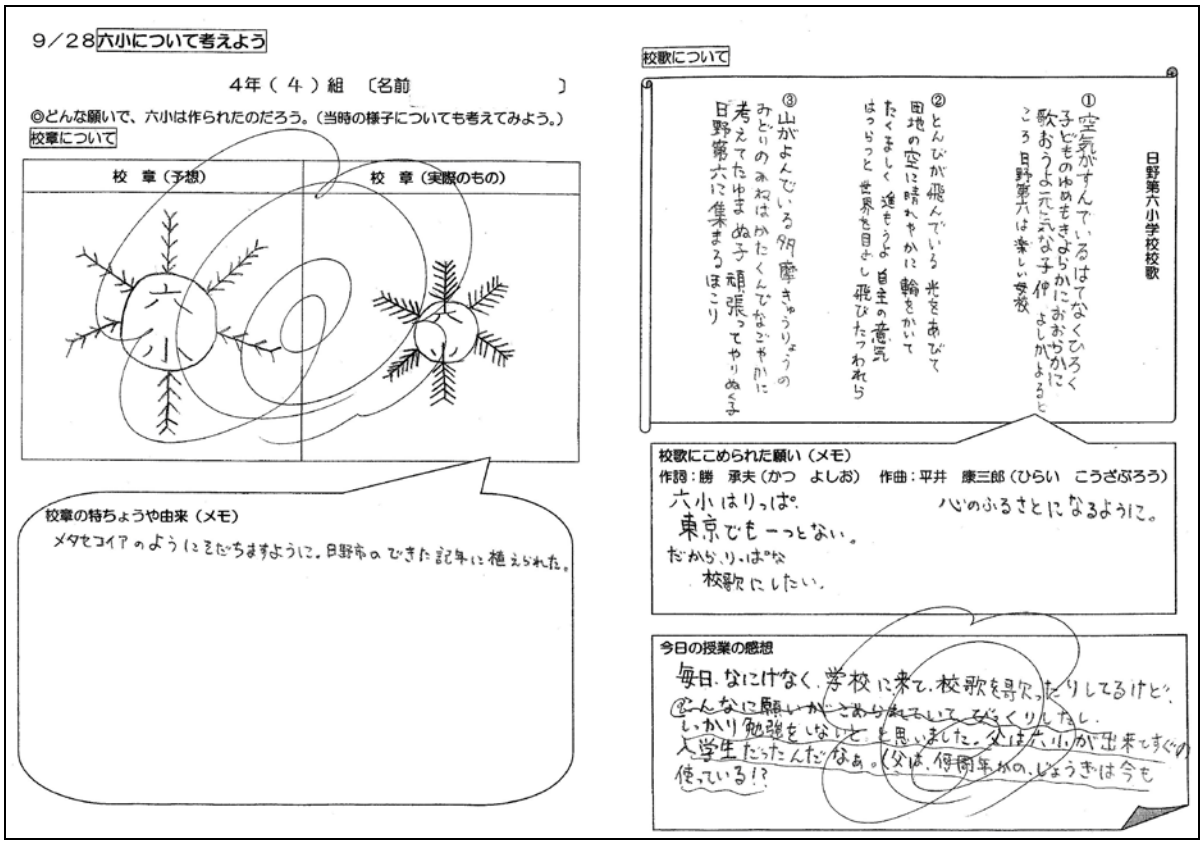
	学習活動	○支援　　◇評価
導入７分	**１．前時までの活動を振り返る。** ・どんな自然体験をしたか、印象に残っていることはどんなことか発表し合う。 ・拾ってきた落ち葉を紹介する。 **自然体験活動をふまえ、疑問や知りたいことを整理し、課題を決めましょう。**	○前時撮った画像や葉を見せ、自然体験活動の様子を想起させる。 〔準備〕ｅ黒板、プロジェクター、デジタルカメラ、書画カメラ、パソコン

展開30分	**２．本時の学習内容について知る。** **３．多摩平の森について、調べたことを発表し合い、課題を決める。** **４．調べたい課題ごとにグループを作る。** ・掲示用カードに、 グループ名・課題名・メンバーを書く。※資料⑤ **５．グループごとに決めた課題を発表し合う。** ・課題を発表し合い、それぞれのグループがどのようなことを調べるのか把握する。	○児童のアンケートをもとに、あらかじめ同じ内容の課題ごと、おおまかなグループ分けをしておく。 ○グループの人数が多くなったときは、その中で小グループに分ける。 ○常に課題意識がもてるように、掲示用カードは掲示する。 ○なぜ、その課題にしたのか理由も述べるよう助言する。
まとめ8分	**６．まとめ** ・課題の内容について、お互いにアドバイスする。	◇多摩平の森での自然体験活動をふまえ、疑問に感じたことやもっと知りたいことを整理し、課題を決めることができたか。

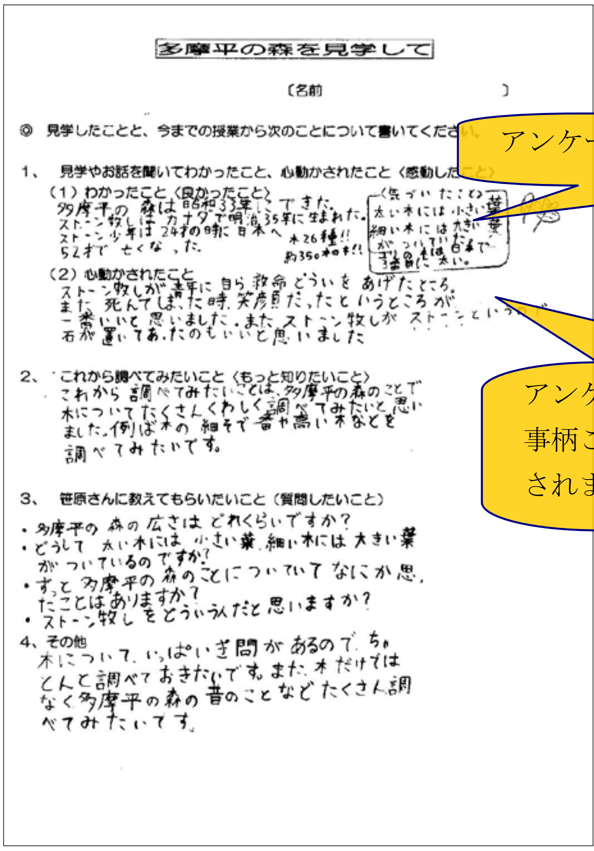
〈資料〉

〈学習活動の実際〉

資料①ワークシート



資料②自然体験後アンケート



多摩平の森を見学して

〔名前　　　　　　　　〕

◎　見学したことと、今までの授業から次のことについて書いてください。

1、　見学やお話を聞いてわかったこと、心動かされたこと〈感動したこと〉

（1）わかったこと〈良かったこと〉

多摩平の森は昭和33年にできた。
ストーン牧しはカナダで明治35年に生まれた。
ストーン少年は24才の時に日本へ
52才でなくなった。
木26種!!
約350本の木!!

〈気づいたこと〉
太い木には小さい葉
細い木には大きい葉
がついていた。日本で
3番目に太い。

（2）心動かされたこと

ストーン牧しが青年に自ら救命どういをあげたところ。
また死んでしまった時、笑顔だったというところが
一番いいと思いました。またストーン牧しがストーンという
石が置いてあったのもいいと思いました

2、　これから調べてみたいこと〈もっと知りたいこと〉

これから調べてみたいことは、多摩平の森のことで
木についてたくさんくわしく調べてみたいと思い
ました。例えば木の細そで一番高い木などを
調べてみたいです。

3、　笹原さんに教えてもらいたいこと（質問したいこと）

- 多摩平の森の広さはどれくらいですか？
- どうして太い木には小さい葉、細い木には大きい葉がついているのですか？
- ずっと多摩平の森のことについていてなにか思ったことはありますか？
- ストーン牧しをどういう人だと思いますか？

4、その他

木についていっぱいぎ問があるのでちゃんと調べておきたいです。また木だけではなく多摩平の森の昔のことなどたくさん調べてみたいです。

アンケートが、課題作りに貴重な資料となります。

アンケートに一通り目を通し、課題になりそうな事柄ごとに分けておきます。グループ作りに生かされます。

③多摩平の森自然体験活動後の児童アンケートより

「多摩平の森を見学して」質問したいこと　〔児童 36 名〕

〔歴史について〕

- 建替えの歴史について教えてください。
- 多摩平の森は、何か賞をもらったことがありますか。
- 森ができて、何年たちますか。

〔団地に住む方の願い〕

- 笹原さんにとって、多摩平の森の一番よいところはどこですか。この森がこれからどのようになってほしいですか。（願い）
- 多摩平の森に住んでよかったことは何ですか。
- 笹原さんは、もっと木を増やしたいと思いますか。
- 笹原さんは、なぜ団地の自治会の人を続けているのですか。

〔森について〕

- 広さは、どのぐらいですか。
- 多摩平の森にある木の平均寿命はどのくらいですか。
- 多摩平の森を生かした遊びはありますか。
- いつできましたか。
- なぜ作ったのですか。
- 木を切っている人は誰ですか。

〔木について〕
- ユリノキの樹齢は何年ですか。(何才)
- どうしたら、木の年齢が分かるのですか。
- なぜ、秋になると、色が赤や黄色になるのですか。
- なぜ木は秋になったら花や葉は散るのに、春になると花が咲くのですか。
- ユリノキを植えたのは、何年ですか。
- 最初は、誰が育てていたのですか。
- ユリノキは、世界で何番目ですか。
- 一番古くて太い木は、何ですか。
- 一番大きい木の高さはどのくらいですか。
- 一番大きい葉は、何ですか。
- どうして、太い木には小さい葉、細い木には大きい葉がついているのですか。
- 木は、全部で何本あるのですか。
- 多摩平の森にユリノキよりも大きな木はあるのですか。
- 一番多い種類の木は何ですか。

〔石について〕
- 遊び道具の石の名前があれば教えてください。
- 重さと大きさはどのくらいですか。

〔生き物について〕
- どのような昆虫がいるのですか。
- どのような鳥がいるのですか。
- 生き物の種類は何種類ですか。

〔植物について〕
- どのような花があるのですか。
- 植物の種類は何種類ですか。

〔ストーン牧師について〕
- どのような気持ちで、男に救命道具を渡したのですか。
- 笹原さんは、どういう人だと思いますか。
- なぜ、ユートピアを作ろうとしたのですか。

④多摩平の森見学資料より（多摩平の森自治会長　笹原　武志氏　作成）

１．多摩平団地と多摩平の森との比較

(1) 多摩平団地について

①昭和 33 年管理開始

②総戸数 2792 戸

③中層４階建てを中心にテラス住宅（平屋・２階建て）

④敷地面積　約 29 ヘクタール

⑤団地内施設　店舗（37 店)、スーパー（１店)、事務所、幼稚園、派出所、倉庫、児童図書館、郵便局、郵便作業室等

(2) 多摩平の森について

①平成９年３月から平成 20 年３月にかけて建て替えた。

②名称を「多摩平の森」とする。

③総戸数 1528 戸

④中高層建て　６階から 13 階建て。

⑤敷地面積　約 11 ヘクタール（残った用地はまちづくりに利用した。）

⑥団地内施設は、ふれあい館、幼稚園等がある。

２．多摩平物語

東京都の埋蔵文化財遺跡調査によると、多摩平の森では、縄文時代の住居跡や奈良・平安時代の住居跡も発見され、「山王上遺跡」と命名された。江戸時代の日野は、徳川幕府の直轄地でしかなく、「追いはぎ」が出たらしい。明治に入ると八王子織物をささえる桑畑になり、絹糸は横浜から船に乗ってアメリカ、ヨーロッパに運ばれた。大正 11 年、多摩平の森は宮内庁の御料林となった。大正 12 年の関東大地震のとき、御料林から多くの木材が切り出された。その後植えられた木に、モミの木やユリの木がある。けやき通り集会所前にあるユリノキは、日本で３番目に太いもの（１番が新宿御苑、２番が東大小石川植物園、いずれも宮内庁と関係が深い場所)。戦後（昭和 20 年)、御料林は国の管理に移り、昭和 22 年「林野庁試験場」と名を変えた。昭和 23 年、カナダ教会に所有権が移った。長野県とこの教会で農村伝道を行ったのがストーン牧師で、この話は自治会が紙芝居にして上演を続けている。昭和 30 年、日本住宅公団がこの地を取得。豊田区区画整理に着手する。中心に多摩平団地を配し、周りの土地を分譲（戸建て）とした。昭和 33 年、多摩平団地が誕生。昭和 38 年、これを契機に日野町から日野市に発展。平成９年３月に建て替えが始まる。11 年後の平成 20 年３月に建て替えが終わる。多摩平団地誕生から約 50 年経過して「多摩平の森」が完成した。

３．建て替えの経過

(1) 昭和 61 年、日本住宅公団は建物が使いづらくなったとして現代社会に適合するために建て替え事業を始めた。

(2) 多摩平団地へは、平成２年 12 月ごろ日野市を通して建て替えをしたい旨の打診があった。公団は、高層住宅を建てるのに、日野市の協力が必要だったためである。ただ、この時代はバブルで家賃が急騰していた時代でもあり、住民は反対運動を続けた。

(3) 約６年後、平成９年３月、多摩平団地の建て替えが始まった。

(4) 建て替え事業を始めるにあたり、公団、日野市、自治会（住民）の三者からなる「建て替え三者勉強会」が立ち上げられた。そして、立ち上げ建て替え問題はこの話し合いのテーブルで解決することを約束した。この「建て替え三者勉強会」は、12 年経過した現在も引き続き 112 回を数える。

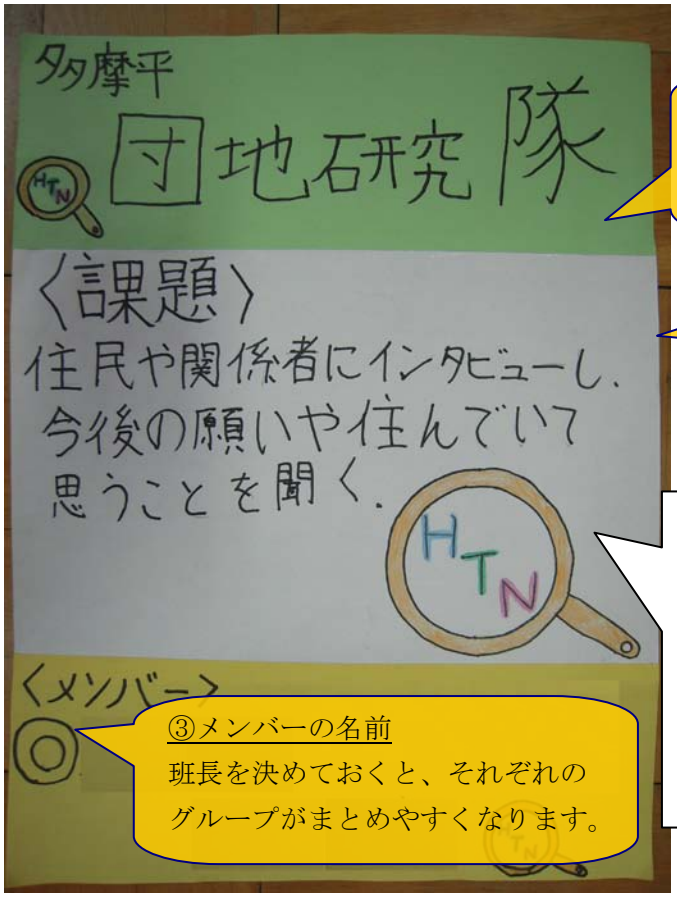
(5)　三者勉強会で具体的な成果となったものは次のとおりである。緑を残すこと、多摩平の森を整備すること、 ユリノキ通りを作り直すこと、高齢者の家賃を減額すること、間取りを修正すること、集会所を目的に合わせて作ること、住民が管理する花壇を作ること、団地の外周を木曽石の石垣で作ること。

(6) 社会の動きがめまぐるしく、法改正によって公団が独立法人・都市再生機構に変わり、住宅

建設から手を引くことになった。当初 4400 戸を目標に始まった建て替えは、1528 戸を建てて終わった。余った用地は民間に売却され「まちづくり」として検討されることになった。
(7) 現在は、日野市の「豊田駅前周辺まちづくり協議会」と整合性を取りながら、議論が進められている。その中には「旧第４団地」内に、学校用地を残す問題も検討されている。

４．多摩平の森について
(1) 多摩平の森は公園ではない。団地内にある約１ヘクタールの庭。従ってこれを残す努力は、並大抵のものではなかった。まず、庭に愛称を付けた。以前は、自然公園と呼ばれていたが、公園ではないことから「多摩平の森」と命名された。後に、団地そのものの名称を決める時、この森の名前と団地の名前が同じになってしまったため、戸惑うこともある。
(2) 森は公園ではないため、管理の費用として日野市の税金は使えない。全て、住民が毎月家賃と一緒に支払っている共益費から計画的に賄われている。
(3) 樹木について
　○針葉樹：ヒノキ、アカマツ、クロマツ、モミ
　○広葉樹：クヌギ、カツラ、ケヤキ、ホウ、イチョウ、クリ、エゴノキ
(4) 建て替え・森などに関しての受賞について
　○2002（平成 14）年４月　環境大臣賞・・・緑の承継に関する取り組み
　○2005（平成 17）年 11 月　緑の都市賞・・・都市の緑の保全と美しいまちづくり
　○「リブコム」国際コンクール銀賞、「環境配慮型プロジェクト賞」

資料⑤掲示用カード



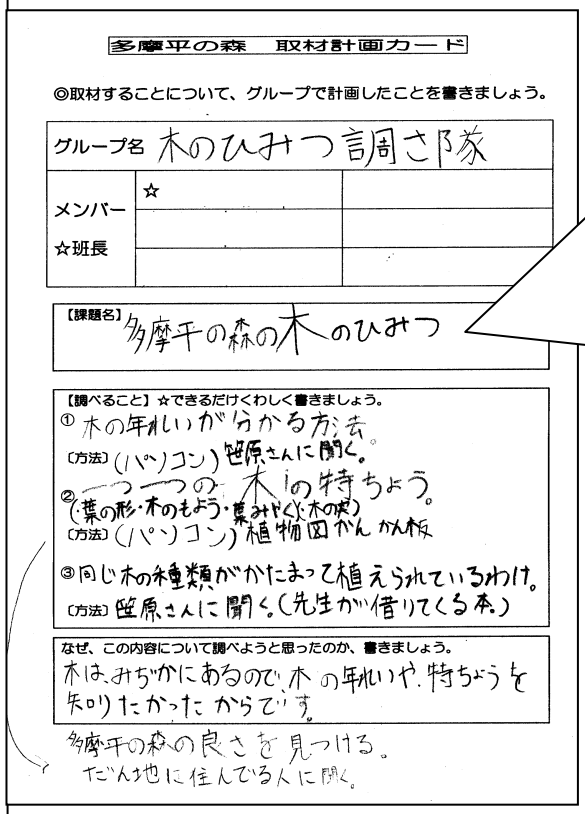
①グループ名
課題に沿った名前にすることで、より課題が明確になります。

②課題
何をどのように解決するのか、具体的に書きます。

③メンバーの名前
班長を決めておくと、それぞれのグループがまとめやすくなります。

① グループ名
② 課題
③ メンバーの名前
の３点を書きます。
教室の目のつく所に掲示することにより、課題を常に意識することができます。

資料⑥取材計画カード



多摩平の森　取材計画カード

◎取材することについて、グループで計画したことを書きましょう。

グループ名	木のひみつ調査隊	
メンバー ☆班長	☆	

【課題名】多摩平の森の木のひみつ

【調べること】☆できるだけくわしく書きましょう。
① 木の年れいが分かる方法。
〔方法〕(パソコン)笹原さんに聞く。
② 一つ一つの木の特ちょう。
(葉の形・木のもよう・実みやく・木の皮)
〔方法〕(パソコン)植物図かん かん板
③ 同じ木の種類がかたまって植えられているわけ。
〔方法〕笹原さんに聞く。(先生が借りてくる本。)

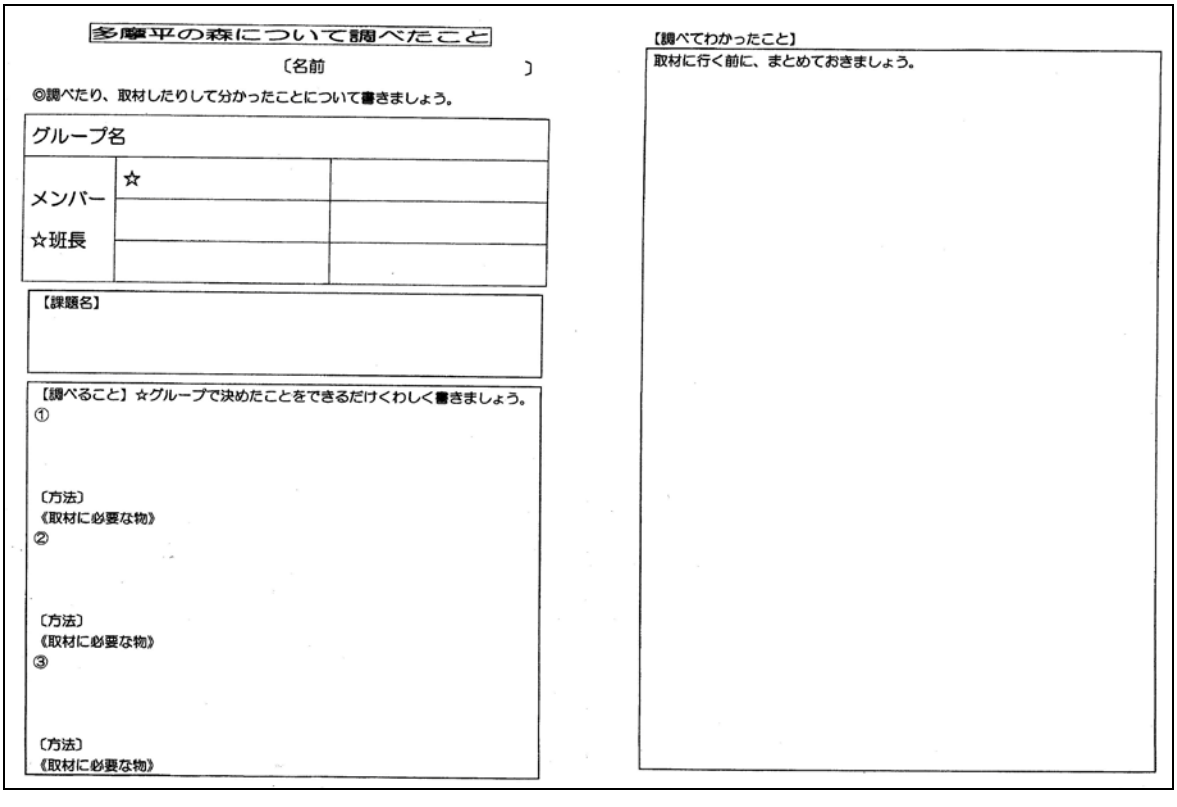
なぜ、この内容について調べようと思ったのか、書きましょう。
木は、みぢかにあるので木の年れいや、特ちょうを知りたかったからです。

多摩平の森の良さを見つける。
だん地に住んでる人に聞く。

〈課題名の例〉

① 多摩平の森の歴史調査
② アルフレッド・ラッセル・ストーンの一生
③ 多摩平の森の木といろいろな木を比べてみよう
④ 多摩平の森の植物の種類を調べよう
⑤ 葉っぱの秘密を解明しよう
⑥ 木の本数を調べよう
⑦ 多摩平の森の秘密
⑧ 多摩平の鳥や虫について
⑨ 多摩平の森の団地について
⑩ 多摩平のユリノキとほかの木々について調べよう
⑪ 多摩平の森にある木と学校にある木を比べてみよう

資料⑦取材用ワークシート



多摩平の森について調べたこと

〔名前　　〕

◎調べたり、取材したりして分かったことについて書きましょう。

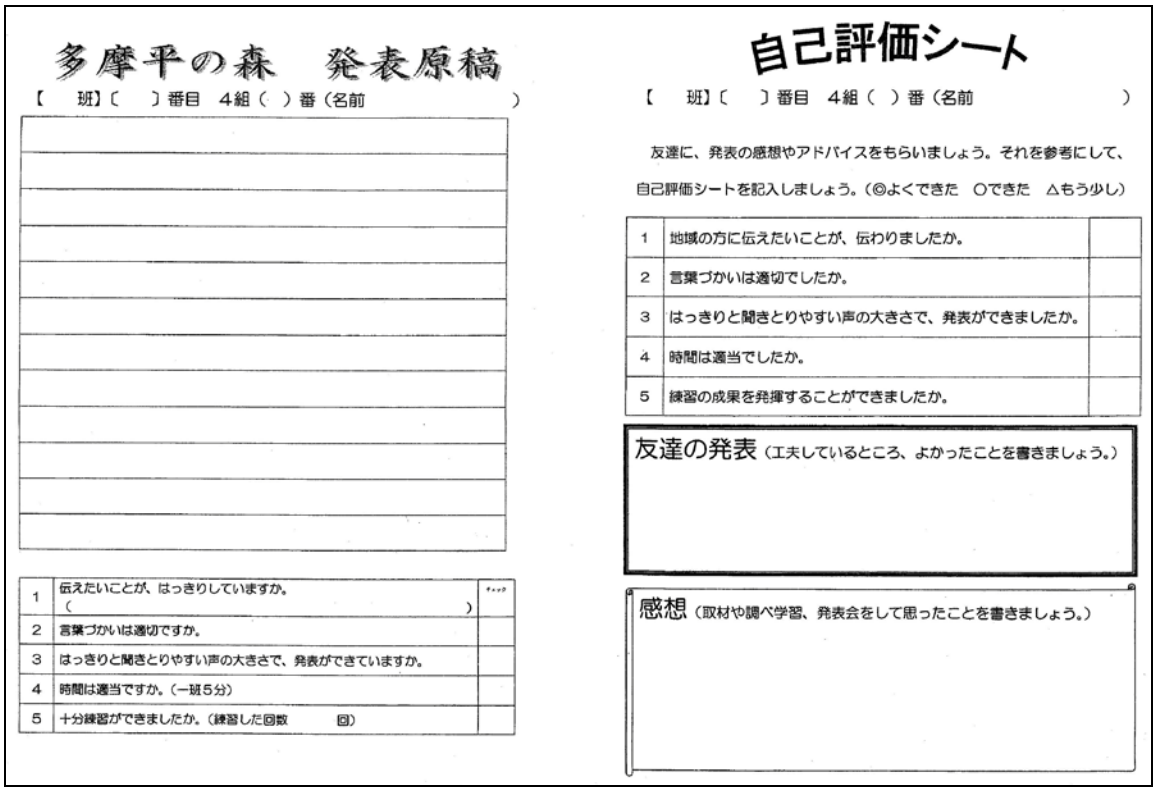
グループ名		
メンバー ☆班長	☆	

【課題名】

【調べること】☆グループで決めたことをできるだけくわしく書きましょう。
①
〔方法〕
《取材に必要な物》
②
〔方法〕
《取材に必要な物》
③
〔方法〕
《取材に必要な物》

【調べてわかったこと】
取材に行く前に、まとめておきましょう。

資料⑧聞く観点を示したワークシート



多摩平の森　発表原稿

【　班】〔　〕番目　4組（　）番（名前　　）

1	伝えたいことが、はっきりしていますか。（　　）	･･･
2	言葉づかいは適切ですか。	
3	はっきりと聞きとりやすい声の大きさで、発表ができていますか。	
4	時間は適当ですか。（一班５分）	
5	十分練習ができましたか。（練習した回数　　回）	

自己評価シート

【　班】〔　〕番目　4組（　）番（名前　　）

友達に、発表の感想やアドバイスをもらいましょう。それを参考にして、自己評価シートを記入しましょう。（◎よくできた　○できた　△もう少し）

1	地域の方に伝えたいことが、伝わりましたか。	
2	言葉づかいは適切でしたか。	
3	はっきりと聞きとりやすい声の大きさで、発表ができましたか。	
4	時間は適当でしたか。	
5	練習の成果を発揮することができましたか。	

友達の発表（工夫しているところ、よかったことを書きましょう。）

感想（取材や調べ学習、発表会をして思ったことを書きましょう。）

資料⑨

【多摩平の森について】

大正 11 年に、「御料林」（宮内省帝室林野局林業試験場）として、実験的に様々な木が植えられたこともあり、緑地内には、同種の木がまとまって植生している。森は、「四季の森」「遊びの森」「ストーンの森」「マツボックリの森」と、４つのエリアに別れている。ここには、日本で３番目に大きいユリノキや樹齢「７0~80 年」程経つモミの木など、関東でも珍しく貴重な木々がある。林の中に木道を造ってモミを保護したり、木の根元に枝を集めて生き物を呼んだりする工夫をしている。「遊びの森」には広場があるが、子どもたちに自然に親しんでもらいたいという願いから遊具は大きな石「ストーンの石」のみ。広場は、団地のイベント会場として使われることもある。

多摩平団地の立替事業では、住民・日野市・ＵＲ都市機構の三者が話し合いを重ね、緑の保全や将来について検討されている。

資料⑩　【ストーン牧師について】

多摩平の森には、「ストーンの森」があるように、アルフレッド・ラッセル･ストーン牧師が実際に訪れている場所である。森の様子が、母国であるカナダの森に非常に似ていたことに、大変感動したことが伝えられている。それほど緑豊かな土地だったことがうかがえる。緑地内には、ストーン牧師の紹介が分かりやすく描かれた紙芝居のモニュメントがある。自然体験活動の際に触れてもよいが、彼が多摩平の森を愛した点を中心に扱うとよい。

資料⑪　ストーン牧師の功績

1926（大正 15）年、カナダ合同教会の宣教師として来日したストーン牧師は、東京で２年間日本語を学んだ後、長野県に派遣される。当時、国民の多くが苦しい生活を送っていた。そこで、ストーン牧師は、貧しい人々を救うために、農村更正と農業改良のために運動を始めた。その他、地域の社会教育活動や文化の発展にも貢献した。1946（昭和 21）年、再び来日したストーン牧師は、日本の復興のため全国を回り、力を尽くした。1954（昭和 29）年、函館から青函連絡船「洞爺丸」に乗った。しかし、台風 15 号の影響により、洞爺丸の転覆事故に遭う。そのような状況の中、身に着けていた救命胴衣を日本人の青年にゆずり渡し、荒れ狂う海に姿を消した。現在、野尻湖畔には、彼の功績をたたえる記念碑が建立されている。

資料⑫　【多摩平の森の学習を終えて】（児童の感想）

〇多摩平の森には、たくさんの木々や花や草など、とても身近にたくさんの自然があってびっくりしました。中でも一番びっくりしたのは、日本で３番目に太いユリノキがここにあったことです。これからも、多摩平の自然を守っていきたいと思います。

〇わたしは、多摩平の森にこんなきれいな場所があったなんて知りませんでした。わたしが多摩平の森で学んだことは、団地の人が自然を大切にしているということです。これからも多摩平の森を守っていきたいです。

〇最近は、建物ばかりなので、植物はなかなか見られませんでした。でも、こういう機会があってたくさんの植物が見られました。わたしが見た植物は、初めて見たものばかりでした。なので、こんなにたくさん植物があるのだなと思いました。多摩平の森に来て、森や植物は、大切にしなければならないと思いました。

〇わたしは、多摩平団地の事について調べました。私の家の前は、団地で（あそこは多摩平団地なんだ～。）ぐらいしか知りませんでした。でも、調べてみると、いつ建てられたかなどたくさん団地の事を知れました。団地や森の歴史、住人の思いなどに心を動かされました。

〇わたしの班は、お花の事について調べました。 多摩平の森に『エリカホワイトディライト』という長い名前の花があるなんてびっくりしました。わたしのおばあちゃんは、お花が大好きなので、ぜひ、教えてあげようと思いました。

〔引用・参考文献〕

〇小杉博司監修　日野市教育委員会発行「ひのっ子新選組探検隊」平成 21 年
〇日野市立日野第六小学校「開校 40 周年記念誌」平成 17 年
〇日野市観光協会「サイトマップ」
〇日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会「平成 18 年度郷土日野」指導事例　第２集
〇財団法人地域活性化センター「伝えたいふるさとの 100 話」
〇「公園探訪横浜線沿線散歩」
〇多摩平の森緑地内にある紙芝居「ストーン牧師の功績」

多摩動物公園の昆虫園

１．多摩動物公園と昆虫園の概要

(1)　多摩動物公園

昭和 33(1958)年 5 月 5 日、恩賜上野動物園の混雑を緩和するため、その分館として多摩動物公園が開園した。こどもの日の開園ということもあって、この日だけで約 25 万人が訪れた。広大で起伏に富む多摩丘陵という地形を生かして、当時としては最新の無柵放養式展示を採用し、動物たちが自由に動く様子を見せるようにした。また、動物の繁殖を目指し、トキ、ニホンコウノトリ、キリン、チンパンジー、オランウータンなどの繁殖に成功し、保全活動にも大きく寄与している。平成 18 (2006)年、指定管理者制度の導入に伴い、現在は恩賜上野動物園、葛西臨海水族館、井の頭自然文化園とともに財団法人東京動物園協会が運営している。ボランティアの解説員がゾウなどの動物の生態などを現地で説明してくれることから、４年の理科学習「動物のからだのつくりと運動」に適している。

(2)　昆虫園本園

昭和 44(1969)年開園、平成 14(2002)年にリニューアル・オープンする。トンボをイメージした建物で、内部には昆虫の生体や標本、動きや体の仕組みのわかる模型を展示している。平成 17(2005)年には、キノコを育てる「ハキリアリの飼育と展示」で高碕賞を受賞している。

※高碕賞:動物園の発展振興に尽力した東京動物園協会の第２代会長高碕達之助氏(1885～1964、経済企画庁長官、通産相) を顕彰して 1965 年に制定され、「どうぶつと動物園」に掲載された記事・写真の中から優秀なものに授与される。

(3)　昆虫生態園

明治 13(1881)年、世界で初めて生きた昆虫を展示する昆虫園がロンドンに設けられ、その後動物系統学的発想にもとづいて、ヨーロッパ各地の動物園に類似施設が作られた。但し、その展示は小規模で飼育箱を並べたり、水族館のようであったりした。日本では、戦前に標本展示を中心として昆虫館はあったが、昭和 32(1957)年豊島園昆虫館でヨーロッパスタイルの生態展示を初めて行った。

昭和 36(1961)年、水族館方式の初めての公立の昆虫館が多摩動物園に造られ、昭和 42(1967)年「バッタとチョウの温室」としてスタートした。さらに、昭和 63(1988)年、昆虫生態園ができる。チョウをイメージした建物(1989 年日本建築学会賞を受賞)の中に、水の流れや林などを再現し､温度を調節することによってチョウやタガメ､カブトムシなどを 1 年中放し飼いにしている。この展示の特徴は、①観客と昆虫が同一の区間で観覧するパススルー展示で、②昆虫を 1 年中飼育し展示する周年展示にある。特に、チョウの通年飼育は日本初である。建物は、採光と通風面から南向きの谷間の地形を巧みに利用して造られ、昆虫の活動しにくい冬場を考えて温室構造にしている。鉄構造、一部コンクリート造りで地上 1 階、地下 1 階の 2300 ㎡(建築面積)である。温室のガラスの厚さは 5㎜ で一番高いところは地上から 16m、昆虫ユートピアの広さは 1140 ㎡になる。左エリアはチョウ関係施設で、育成されたチョウが供給されている。右エリアは、バッタ類の育成･展示のスペースになる。

２．昆虫園の活用

３年の理科では「野外にいる昆虫をはじめとした身近な動物に興味をもち、それらをさがして食べ物とすみかを調べ、動物には植物を食べたり、それをすみかにしたりして生きているものがいることをとらえることができるようにする。また、いろいろな昆虫のからだのつくりを調べるとともに、先に学習したチョウの育ちかたと比較し、昆虫には幼虫から蛹をへないで成虫になるものがいることをとらえることができるようにする」ことをねらいとしている。昆虫園の活用は、このねらいを押さえるのに適している。

(1)　解説員による昆虫を触る体験活動

1960 年代を中心とする高度経済成長期を契機に、多摩地区は東京のベッドタウンとして住宅が増え続け自然環境は減少している。日野市も同様で、児童の日常生活でも昆虫と触れ合う機会は少なくなっている。近くに多摩川や浅川があっても、そこで遊ぶ体験が少ないことから、虫を怖がったり嫌がったりする児童が見られる。このような児童に、昆虫に関する興味・関心を持たせるためには、昆虫に「触れる」ことが大きな契機になる。昆虫園では、事前に申し込むと解説員が昆虫のからだのしくみを説明しながら、虫嫌いの子でも虫に触れるよう指導してくれる。

対象となる昆虫は季節によってやや異なるが、例えばナナフシ、コオロギ、カマキリ、オオゴマダラ、ゴキブリなどである。ナナフシの場合「ナナフシはつかまり名人です。木につかまったまま、餌も食べるしフンもする。枝を振ったらどうなるかな(実演してみせる)。落ちないね。ナナフシを手の上にのせて観察してみようか。胸や背中を持って引っ張ってはいけません。足が取れてしまいます。顔の方に手を出して。お尻をなでると歩いてきます。頭の上に来たナナフシは自分で取らないで、友だちに取ってもらいます。」と、解説員から昆虫を触るコツについて指導・助言があり、さらに「昆虫は子どもの時と親とでは、形の違うものとよく似たものがあります。ナナフシは親も子もとてもよく似ています。木につかまったまま卵を地面に落します。赤ちゃんは自分で歩いて木に登り、餌の葉を食べます」と学習内容の説明がある。

(2)　昆虫園の見学

昆虫園本館の２階の展示は、ミツバチのからだの仕組みや昆虫の動き、呼吸の仕方のわかる模型、外国の昆虫の実物などが展示してある。児童の人数が多い時は、クイズ形式にして自分たちでポイントを見学できるようにするとよい。次に、クイズ例の一部を示す。

①　昆虫の動き(説明を読んでから答えてね)

・カブトムシが空を飛ぶときに使うものは？（　　）

・ゲンゴロウが泳ぐときに使うものは？　　（　　）

②　昆虫の一生

チャイロコメノゴミムシダマシという名前の昆虫がいます。

・幼虫は、何色ですか？（　　）・さなぎは、何色ですか？（　　）

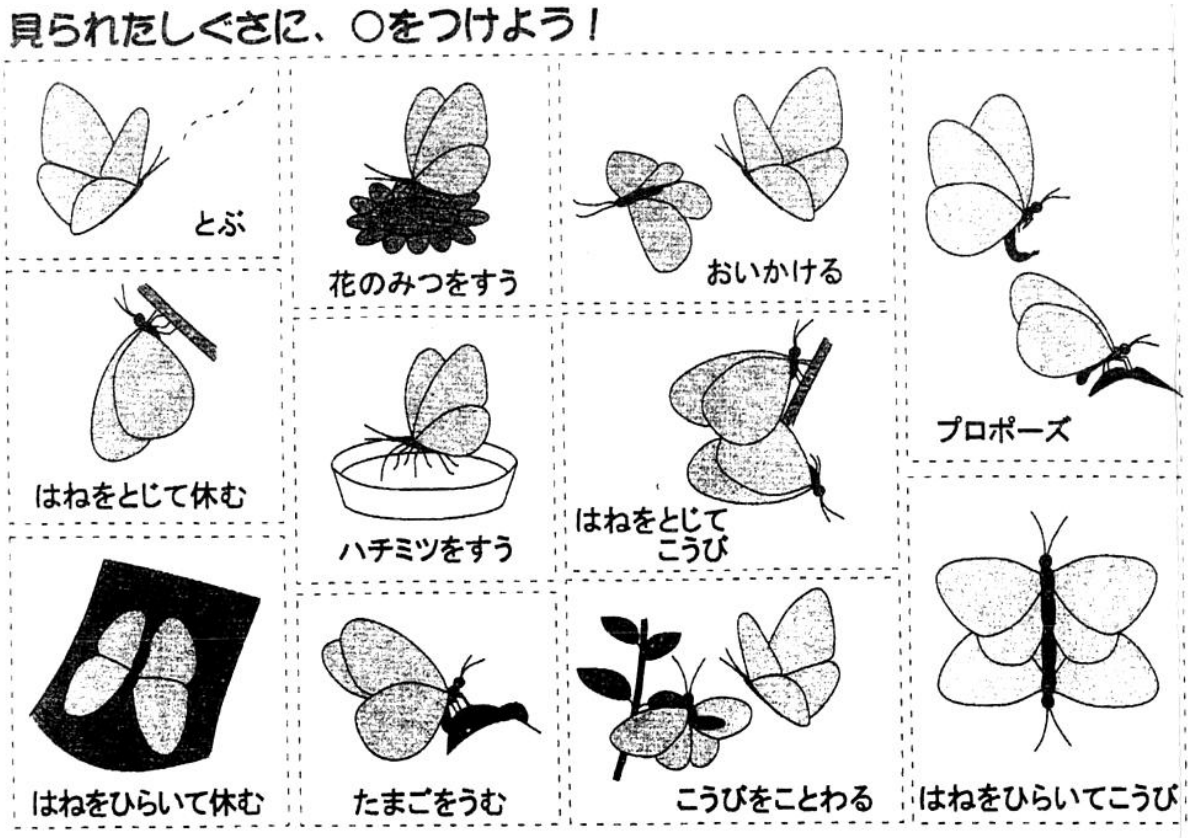
・成虫は何色ですか？　（　　）

(3)　昆虫生態園の見学

イラスト入りの「チョウのしぐさチェックシート」が昆虫園で用意されている。その解説を次に引用する。

「約 20 種類のチョウを常時卵から飼育し羽化させ、大温室に放しています。これらのチョウたちは自由に蜜を吸い、異性と出会い、交尾をし、食草(幼虫が食べる植物)に卵を産んでいきます。どれだけのしぐさが見られるかは、観察する時刻(チョウは午前中に活発に動く種類が多いのです)、天気(曇や雨天時は動きが鈍くなります)によって異なります。」

この他にイラスト入りの「こん虫せいたいえんで見られるチョウ」や、『昆虫の楽園インセクトピアー舞い飛び泳ぐ昆虫たちー』という小冊子が用意されている。



カブトムシの幼虫を触る子どもたち

虫の苦手な子でも触りやすいナナフシ

駅は郷土学習の改札口（日野駅の活用）

第３学年総合的な学習の時間「資料と聞き取りから深めて伝えよう　わたしたちのまち」

１．教材化の意図並びに教材の概要

日野市はそれほど広くはない(27.53 ㎢)。隣の八王子市に比べると６分の１以下である。それにもかかわらず、JR 中央本線と京王線、京王多摩動物公園線、多摩都市モノレールと４つの鉄道路線が縦横に走っている。駅は 10 駅を数える（高幡不動駅を１つと数える)。それらの駅は、児童・生徒にとって一番身近な交通機関の入り口だろう。市内各学校を見渡しても、それぞれに最寄りと呼べる駅が存在し、市内のどこからでも近くの駅まで歩いてそれほど時間がかからないというのが、日野市の大きな特長の一つと言えるだろう。

しかし、その身近な駅でさえ、歴史であったり、概要であったりについて、くわしく知る児童・生徒は多くはない。それでも、駅は自分たちのまちとよそのまちをつなぎ、新しい世界への橋渡しとなる拠点である。それがゆえに、魅力ある場所であることも間違いない。

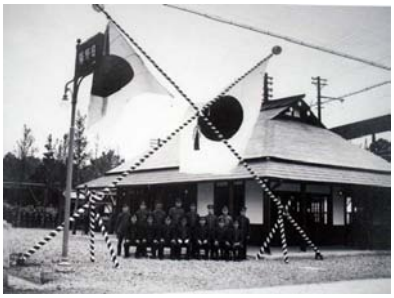
日野市内を走るもっとも古い路線は中央本線である。この中央本線は、明治 22(1889)年に甲武鉄道として開通した。そしてすぐ翌年の明治 23(1890)年１月には日野駅が開業している。中央本線の中でも古い駅である。平成 22(2010)年には、開業 120 周年を祝し、記念式典が開かれただけでなく、あらためて駅周辺の歴史を振り返る催しが執り行われた。

この機会に、日野駅並びに中央本線の歴史、周辺のまちの変遷、そこに暮らす人々の願いに思いを巡らし、郷土のよさについて気付かせる教材ができると考えた。

なお、ここでは小学校３年生を例にして教材化を提案しているが、中学生に至るまで、どの学年でも発達段階に応じて学習を深めることができると考える。

その際、時間軸を追って日野駅や甲武鉄道そのものの歴史を探究する事も可能であるし、また平面軸を追って日野駅周辺のまちの様子を探究する活動もできる。その両軸を追って宿場町の歴史、周辺の農業の変遷などを探究するのも学習を深めるよい取り組みだといえよう。児童・生徒の興味・関心にあわせ、資料も多く用意できる。

２．指導計画



（１）関連単元　第３・４学年社会科

「学校のまわりをしらべよう」
「日野市のようす」
「人びとのしごととわたしたちのくらし」
「きょう土につたわるねがい」
「地域の発展につくした人びと」
「むかしのくらし」

（２）単元のねらい

写真や地図といった資料から、地域の歴史や暮らしについて自ら課題を見つけ、地域に暮らす人々から話を聞くことで、郷土を愛し、大切にしようという心を育む。

（３）単元の指導計画（全 10 時間）

	主な学習活動	○支援　　◇評価
課題を見つける	１.昭和 12 年現在地に移った日野駅駅舎と駅員の記念写真から、昔の日野のまちについて興味をもつ。（１時間） §ここはどこだろうか、話し合う。 §何の記念写真だろうか、話し合う。 §周囲の様子を観察して、現在との違いを話し合う。	○写真を加工し、「驛野日」の文字を隠す。 ◇現在との共通点や相違点を見つけることができる。
	２．明治時代の日野駅の写真を見て、その位置の違いに気付き、各自で学習課題を見つける。（１時間） §最初はどこにあったのだろうか？ §どうして駅は場所を移したのだろうか？ §新しい駅舎はどうして民家風にしたのだろうか？	○最初の頃の日野駅の写真と、その位置がわかる現在の地図を提示する。 ◇現在とのギャップから疑問をもつことができる。
追究する	３．調べ学習をする。（５時間） ［前の時間に自分で決めた課題を解決するために、必要な情報を収集する］ §昔の日野駅があった場所はどんな所だったのか調べる。 §新しく駅を移した時代、日野のまちには何か変化があったのか調べる。 §新しい駅舎を民家風にしたが、周囲にはどんな建物（家や店）があったのか調べる。 §新しい日野駅や周辺の特徴を調べる。 §甲武鉄道施設に使われた日野煉瓦の歴史を調べる。 §今も残る昔の日野の施設を調べる。 等々	○児童の課題を解決するために必要な資料を提示し、また必要に応じてインタビュー取材ができるように人材を紹介する。 ○必要に応じて、調べることができる図書館・郷土資料館を紹介する。 ◇課題解決のために役立つ適切な資料を収集することができる。
深める	４．日野駅やその周辺について調べたことを新聞にまとめ、クラスの友だちに紹介する。（２時間）	○焦点を絞った内容になるように簡潔にまとめさせる。 ◇自分の課題が解決できている。 ◇友だちにわかるようにまとめることができている。
	５.学習を振り返り、感想を出し合う。（１時間） §これまでの学習の感想を書く。 §感想を伝え合う。	◇日野駅やその周辺について興味・関心を深めることができる。 ◇さらに新しい課題をもつことができる。

2　地域を知る指導者の育成

平成 21 年度は、今までの郷土資料を収集し新たに郷土教材化し、学校現場に提供したり、郷土に関わる関係諸機関の利用法を紹介したりする活動に加えて、新たに先生方の研修の機会を設定し、好評を得た。郷土教育推進のためには、指導者自身が地域の歴史や自然、人材などに触れ知識のみでなく、実感を通して地域への愛着や誇りを持つ必要がある。その土台に立って具体的な教材化を図り、指導に向かう時、子供たちの心は動かされ、郷土への関心は高まっていく。指導者自身が、「このことを伝えたい」「気付かせたい」との郷土への愛着と誇りを持って指導に当たってこそ、子供たちの郷土愛は育っていくと考える。

「より深く」「より広く」日野市や学区域について知り、具体的実践が図れる指導者を育成するため、今年度は、「日野本町・仲田地区」「東光寺地区」のフィールドワークを実施した。このフィールドワークは、市教委と郷土教育推進委員会の共同事業として、本推進研究委員会の委員が講師となって実施した。

フィールドワークを通して郷土資料をどのように教材化するか、また、どのように提示し、実践化していくかを考えていった。「日野本町・仲田地区、東光寺地区を知ろう」をテーマに、蚕糸試験場跡地・精進場・第一中学長屋門・日野レンガモニュメント・日野駅鉄橋・よそうの森堀・水車公園・神明社・七ツ塚遺跡・東光寺地区の畑などを１日かけて研修した。

蚕糸試験場跡の探索

日野蚕糸試験場は,明治 44 年高円寺蚕糸試験場の支場として桑供給の日野桑園が拡大され、桑の改良・育成の研究部がおかれた。

現在，当時の第一蚕室、第六蚕室が残っている。第一蚕室は昭和初期の貴重な建築遺産といえるもので、１階は鉄筋,２階は木造からなり、広いデッキも設けられている。

日野宿の探索

「日野図書館前、問屋場・高札場」ここは、日野宿の中心で、本陣の前にあった役所の跡である。

名主の上佐藤家と下佐藤家が交互に荷物や物資の輸送、旅行者の宿泊の世話、渡しの管理等の業務にあたった。この石碑の隣に、日野第一小学校の前身、日野小学校の正門礎石が展示してある。２００８年日野宿発見隊により、旧跡地から発掘された。

日野煉瓦を使用した場所（ＪＲ　日野駅北）

明治２１年１月、日野に煉瓦工場が設立された。これは甲武鉄道誘致の一貫として行われた。明治２２年７月、日野の人々は、煉瓦工場の支配人土淵英を中心に日野停車場(現在の日野駅)誘致運動を始めた。停車場用地と寄付金の提供、煉瓦工場の貢献が実って、明治２３年１月、日野停車場が開設された。その後２６年には、日野宿に町制が施行され、日野町になる。

よそうの森堀

江戸時代から、日野は「日野三千石」と呼ばれて、東光寺の地域は、昭和 40 年代頃までは,「八丁田んぼ」と呼ばれる実り豊かな、広い田んぼがあった。この田んぼの隅々まで水を流すため網の目のように細かい用水路が作られていた。東光寺小学校のすぐそばにある「よそうの森堀」は、コンクリートで固めることをせず土を掘っただけの形で残されている。昔ながらの用水路は、草や水草が生え、水の汚れをきれいにする力も強く,自然と地下にしみこむ水は地下水となって利用される。

伝説の紹介

「神明神社のお告げ」

東光寺村(日野市)と粟の須村(八王子市)の境界に谷地川がある。洪水のたびに境界がわからなくなり、争いが起きた。村人は困って「神明様のお告げ」を聞くことになった。

「暁の一番鳥が鳴いた時、両方の村の馬を競走させ、買ったほうの村の言い分を聞くことにする。」とのお告げがあった。さて、それぞれの村の作戦は？子供たちに予想させると、大変盛り上がる好教材となる。

水路橋

谷地川の上を渡っている水路橋の中は、日野用水が流れている。谷地川は、以前は西方を屈曲して流れ、大雨が降るとよく溢れた。当時は、日野用水を谷地川にいったん合流させ、その後分岐させていたが、改修に伴って立体交差する水路橋にした。かつての分岐は石川堰で行い、その下流の水路（日野用水）は、地形の高い所を通している。このようにして、遠くまで水を流すようにしている。

七ツ塚古墳の一つ

東光寺上と呼ばれる所で大小七つの古墳が発見された。昔は、日奉氏の墓といわれていたが、実際は古墳時代にこの地を治めていた氏族の首長を葬った墓だろうと思われる。明治時代初期と昭和に入って一基ずつ調査され刀や矢じり、女性の埴輪，曲玉等も発見されている。七ツ塚あたり一帯は、石器や土器の破片が散乱し、発掘調査によって縄文時代の住居跡が多数発見されている。

郷土資料を教材化するための視点

(1) １枚の写真から読み取る

・子供たちの様子
・何をしているのか
・前に立っている人は
・子供の服装
・どこの場所か
・周りの様子
・子供の人数等

(2) 新旧の写真を並べてみる

・用水の高さ　・周りの様子　・生活とのつながり
・用水の護岸の違い等・・・時代による変化

（３）古い場所をたずねてみる。

・諸感覚を生かす
　見る　さわる　聞く　嗅ぐ　書く等・・・
・遺物から課題を見つける
　時代　役割　構造
　価値　働いていた人　等・・・

（４）古地図と現在の地図を比較してみる。〔多摩平の森の事例参照〕

参加者アンケートから

〇地形、とくに、川、用水、丘陵地と人が住む地域が関連していることを実際に歩いて体感しながら確認できたことが意義深かった。今まで、仲田の蚕糸試験場の中を見る機会がなかった。今回、初めて森や蚕室の中に入り、お話を伺いながら学習ができよかった。
〇川南の学校なので、日野駅周辺のことは知らないことが多く、新たな発見の連続だった。３年生以上の社会科、日野市の歴史、生産、工業等、役立つものがあった。デジカメで収めたものをもとに、教材が作れると思う。とくに、講師の先生の詳しい説明を聞きながら、興味深く楽しく研修ができた。子供たちにも、楽しく日野の学習ができるようにしたい。
〇とても内容が濃いものばかりであった。先人の知恵や工夫をこの目で見ることができてよかった。土器を拾うことができたのがとてもよかった。
〇効率よく、たくさんの見学場所を回れてよかった。とくに、用水のことがよくわかった。平山地区にもたくさんの用水があるが、うまく教材化できていないので、今後の課題にしたいと思う。
〇２年前にも参加したが、今回、日野市の北側の方面のコースでぜひ参加したいと思っていた。精進場、よそうの森堀などが印象的だった。
〇よかった。とくに、最後の高台から見た地形がよかった。ずーっと歩いた場所、話が一つにつながった。

3　郷土教育を推進する視点の拡大

（1）新教材の開発

「日野桑園・蚕糸試験場」ゆかりの地と自然体験広場

1．教材化の意図

市民の森スポーツ公園、道路をはさんだ向かい側の自然体験広場一帯は、昭和 54 年までは農林省蚕糸試験場日野桑園のあったところである。市民の森スポーツ公園内にある蚕糸研究ゆかりの地碑、自然体験広場の一角に残っている２棟の建物（第二蚕室と第六蚕室）や礎石、そして、“仲田の森”自然体験広場は、開港以降の近代産業発展に重要な役割を担う“生糸生産”を支えた日野桑園・蚕糸試験場の跡地であることを伝える貴重な遺産である。スポーツ公園や体験広場で学び、遊ぶ日野の子どもたちが、また、周辺の人々も、こうした歴史的遺産を見過ごしてしまうのは残念なことである。

また、大正から昭和 40 年代にかけての日野の地形図からは、桑の木が広域にわたって植えられていて、養蚕業のさかんだったことを読み取ることができる。

指導内容の差異はあっても小学校・中学校の社会科学習で近代日本が、富国強兵・殖産興業・文明開化を柱に邁進していたことを学習する。そこで、当時の日野の土地利用の変遷をもとにして、「殖産興業と、扶桑社の設立」、「“輸出ナンバー１”を誇った生糸生産と、日野桑園」を郷土に見られる具体的事象として学習することは、政府の保護育成のもとに発展する近代産業（軽工業） のしくみを考え、知る手がかりとなり、学習の基礎となる郷土教材である。

自然体験広場は、桑園閉門から 30 年たった現在、今後貴重となっていく植物や昆虫などの小動物、また、当時この蚕糸研究所で品種開発・改良された桑の木（一の瀬）、そして、正門から続く銀杏やケヤキ並木が鬱蒼と茂っていて、ワイルド感に富む自然の森となっている。木登りなど工夫でいろいろな遊びができ、四季の変化に合わせた自然観察や造形活動が楽しめる郷土教材を提供する地である。

なお、平成 22 年、広場の敷地半分に「市民の森ふれあいホール（体育館複合施設）」の開館が予定されていたが、平成 21 年 5 月の段階では延期となっていて、今後について確かなことはわからない。新たな施設建設にともない、平成 20 年の 2 月には第 1 回体験広場の「植物移植会」が、同年 12 月には「植物の引越大会」など、さまざまなイベントが行われてきていて、引き続き平成 22 年 3 月にも植物の移植が予定されている。

2．指導計画　＜中学校歴史学習の事例　「産業革命の進展」＞

（1）小単元のねらい

- 政府の富国強兵、殖産興業の下で進展した我が国の近代産業が産業革命を経て発展したことと、都市や農山漁村の生活に大きな変化があったことを理解させる。
- 特に、日野地域においては、扶桑社設立と当時の人々の熱心な蚕糸研究が行われたこと、その後、政府により日野桑園・蚕糸試験場が設立されたという具体的事象をもとにして、政府の保護育成のしくみや、蚕が「オコさま」と呼ばれ、大切に扱われるようになった人々の養蚕への願い等から、農業のあり方が大きく変化していったことに関心をもつ。

（２）小単元の指導計画（６時間）

①欧米列強の侵略と条約改正
②日清戦争
③日露戦争
④韓国と中国
⑤産業革命の進展
⑥日野の養蚕業の発展（本時６／６）

※小単元の指導計画６時間扱いが無理な場合は、５時間目の「産業革命の進展」の指導に“ワンポイント”資料として、「日野桑園・蚕糸試験場」を導入したい。

（３）本時

① 開港後の生糸輸出高の変化（安い生糸価格と欧州の国々に広がる蚕の微粒子病）を読む。

② 明治 15 年、大正 10 年、昭和 15 年の地図から日野の桑畑の広がりを読み、養蚕が盛んになったその理由を考え、調べる。（地図・年表）

・政府の積極的指導（粗製濫造防止、養蚕指導機関としての養蚕伝習所をつくる）
・農家にとっては現金収入が得られる（畑→桑畑）。
・明治 22 年町村合併で桑田村（豊田、川辺堀之内、宮、上田、石田、新井、万願寺、下田）という村ができる。
・日野宿の天野清による、蚕病予防の指導と扶桑社の発足(明治 29 年)、その研究成果。

③ 「蚕糸研究ゆかりの地」碑を見て、蚕糸研究の目的を考え、調べる。

・研究の目的（桑の葉の品種改良、桑園の土壌、蚕の育種方法、生糸の品質向上）
・全国的に蚕糸試験場がおかれたことを分布図で読み取り、国の方針であったことを知る。
・日野桑園・蚕糸試験場の規模、設計上の工夫、昭和 3 年の設立から筑波移転までの概要、養蚕農家の様子を調べる。

④ 養蚕戸数の割合（大正 10 年)、養蚕収入の割合（大正元年)、「河野清助日記」や、「祖父の日記」、「浅川の畔から」（伊藤稔編）等から戦前の日野の養蚕農家の様子を理解し、養蚕業が発展していったしくみをまとめる。

＜資料１＞農林省蚕糸試験場日野桑園について

昭和 3 年に開園し、昭和 55 年に筑波に移転するまでのおよそ 50 年の間、桑の木の品種改良、生糸の品質向上のための研究にあたっていた。

建物と蚕室

日野市において他に類をみない規模をもち、近代的設備を整え、日野市の近代化遺産、近代建築の代表にふさわしい。

一階が鉄筋コンクリート、二階が木造で造られていて、鉄筋コンクリート造りは関東大震災以降に普及した構造である。

スチーム式の暖房器具、床下換気、棟換気があり、「一派温暖育法」を採用。

屋根の上のもう一つの屋根は室内の湿気を放出するためのもの。

天井の開口部は桑の葉を一階から二階に持ち上げるためのもの。

［文献］

「日野桑園要覧」（試験場の分布図）
「多摩のあゆみ」第 128 号　財団法人たましん地域文化財団　（蚕糸試験場の建築様式等）

＜資料２＞地図
日野市における桑畑の拡大されていく様子を年代で追って見ていく。
「明治 15 年」、「大正 10 年」、「昭和 15 年 、「昭 和 24 年 、「昭和 40 年」

＜資料３＞養蚕農家の割合（当時の農業戸数からみた割合）
大正 10 年末　　日野町 63.4%　　七生村 68.5%　　小宮村 68.4%
昭和初期　　日野町、七生村合わせて 74.5%
○　養蚕収入の割合（大正元年末）
日野町　第 1 位　穀物類 40.6%　第 2 位　養蚕 23.7%　第 3 位　小作料 13.5%　第 4 位蔬菜類 6.7%
七生村　第 1 位　穀物類 43.5%　第 2 位　養蚕 27.1%　第 3 位　小作料 8.5%　第 4 位蔬菜類 6.0%
［文献］
「日野市史　近代Ｉ」
「祖父の日記」「浅川の畔から―紅葉山御養蚕所見学の記―」伊藤稔編　（養蚕農家の様子）
「河野清助日記」河野清助編（養蚕農家の様子）

＜資料４＞養蚕指導養成機関「扶桑社」の設立
扶桑社設立の目的は、国内の養蚕業者とともに養蚕業の発達を図り富国に役立つことであった。明治初年、政府は生糸の粗製濫造防止について積極的に指導。各地に養蚕指導機関としての養蚕伝習所がつくられていった。
○扶桑社設立に至る歩み
1874（明治 7）年　　はじめて、日野に桑の木が植えられた。
1877（明治 10）年頃　養蚕が盛んになり、飼育法の技術への関心が高まる。
○日野宿の天野清
蚕病予防の必要性から、南多摩郡蚕糸業組合取締の谷合弥七に相談、農商務省の技師を招いて顕微鏡の使用法を学ぶ。さらに、北豊島郡（現北区）の蚕糸試験場に入所、養蚕飼育の改良、蚕病予防について学び、多摩の各地で指導にあたる。
1895（明治 28）年　11 名の署名により設立を申請する（扶桑社設立届）。内 3 名（日野義順、佐藤信氏、土方元吉）は自由民権家としても活躍する。
1896（明治 29）年　扶桑社が発足する。伝習教師の養成、巡回教師の派遣、模範飼育の嘱託
同年 9 月　　大昌寺において第 1 回研究成果発表（共進会）を開催、繭・蚕種・蚕具の発明が発表された。
［文献］
「日野市史　近代１」

＜資料５＞NBC 株式会社
中央図書館に隣接。昭和９（1934）年、日本篩絹株式会社として製粉用篩網（ふるい）の国産化を目指し設立されている。日野の養蚕業との関連性から設置をとらえることができる。
現在は篩網の技術を軸にスクリーン印刷の刷版やフィルター、防虫網などの製品提供、自動車・通信・家電・医療分野への技術関与と、あらゆる産業界への関わりをもち、約 50 か国に製品を輸出している。製品工場は山梨県に移り、日野（豊田）は、製品開発の研究が主になっている。

日野の縄文時代のくらし
－学芸員（出前いっちょう）を活用して－

１．教材について

平成 23 年度の小学校学習指導要領では、６年生で縄文時代を扱うようになった。また、現行の教科書、例えば東京書籍では「まちの遺跡を探検しよう」というテーマで福岡市の板付遺跡を例にして、弥生時代のくらしを調べることを導入にしている。

一般に縄文時代から弥生時代さらに古墳時代と続くが、東京都西部では同一遺跡から縄文土器に続いて弥生土器ではなく、古墳時代の須恵器が出土する場合がある。似たような傾向は日野市でも見られ、全体的に弥生土器より縄文土器の出土の方が、はるかに多い。このことから、縄文時代を導入にして取り上げる方が地域の実態に合っている。また、神明上北遺跡(日野第一小学校体育館付近)では、多摩川の河原の石を材料にした石器を多量に作り、他地方の物品(例えば黒曜石など)と交換した形跡も見られる。

そこで、遺跡調査会の成果を踏まえ、地域の特性を生かした縄文時代の教材を作成する。さらに、日野市には、地域で出土した縄文土器などの遺物や写真を学芸員が学校に持参して説明してくれる“出前いっちょう”という制度がある(『「郷土日野」指導事例第１集』参照)。これや資料館を活用し、児童に縄文時代の人々のくらしを調べさせることによって、歴史を身近に感じるよう指導を工夫する。これらの活動を通して縄文時代の特徴を知り、地域に愛着がもてるようにしたい。

２．指導計画

社会科　第６学年　小単元名「おおむかしのくらし」

(1)　ねらい

・身近なところに歴史的な遺跡や文化財があることを知り、地域の昔や当時の人々の様子を詳しく調べたいという意欲をもつことができる。
・縄文土器の実物やイラストなどをもとに、縄文時代の人々が狩猟や採集のくらしをしていたことが理解できる。

(2)　指導計画(全３時間)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気づく	◆ **土器片**に触れながら、土器や当時の様子について想像して話し合う。 ・　土器が作られたのは、いつ頃か。 ・　土器の模様。 ・　何に使われたのか	・**市内で出土した土器片や石器**など、児童が触れることのできる実物を学芸員の協力を得て用意する。それができない時は、レプリカや実物大の写真を用意したり、ICT を活用したりする。

気づく 1	◆ 土器や石器は何に使われたのか考え、発表する。 ・ **石皿と磨り石**は何に使われたのかな。 ・ **黒曜石の矢じり**は、獲物を捕るために使った。 ◆ この**土器片**は、南広　　遺跡から発掘されたものであることを知り、感想などを発表し合う。 ・ 税務署の近くで、大昔の人が生活していた。 ◆ 学芸員に聞きたいことをワークシートに書き、発表する。 学校の近くの大昔(縄文時代)の様子を調べてみよう。 ・ どんなものを食べていたのかな。 ・ どんな所に住んでいたのかな。	・道具の名称については知らせ、その使用法を考えさせる。 ・道具の使い方をもとに、どのようにして食料を得ていたのか気づかせる。 ○道具の使い方について、興味をもって自分なりに考えることができたか。 ・**学区域の地図**を用意し、自分たちの住んでいる地域に縄文時代の遺跡があることを知らせ、興味・関心を高める。 ・次時に学芸員が縄文時代の遺物などを持って学校に来ることを伝え、どんなことを調べたいのか考えさせる。衣食住などを中心に話を聞く視点を明確にする。 ○地域の昔や当時の人々の様子を調べたいという意欲をもつ。
調べる 1	◆ **市内の出土の縄文時代の遺物や写真パネル、イラスト**を見たり、学芸員から縄文時代の特長について話を聞いたりする。 ・ 当時の人々のくらしの様子 (衣・食・住・自然の様子など) ・ 狩猟や採集をして食料を得ていた(縄文時代の集落の想像図)。 ・ 当時の社会状況と各地のつながりなど（物々交換)。 ◆ 質問をしながら調査・取材を進める。	・児童の疑問に応える形で、狩猟・採集が主であった縄文時代の特長が理解できるように、事前に学芸員と綿密に打ち合わせをする。 ・自分の課題にそって話を聞くようにアドバイスする。 ・理解しにくい語句や事物に関しては、補足説明する。 ○自分の調べたい観点にそって調査(取材)することができたか。 ・時間の都合で学芸員に質問できない時は、ファックスなどで後日依頼する。
まとめる 1	◆ 縄文時代について、話を聞いてわかったことなどを中心に、新聞形式でまとめる。 ・ 紙面の構成を工夫する。 ・ 取材メモをもとにし、自分の考えも入れて書く。 ・ 補足資料やパンフレットなども参考にして書く。	・自分の印象に残ったことを中心に、見出しや自分の考えなども入れて、簡単な新聞形式でまとめさせる。 ・当時の様子を補足させるために作成した**児童用資料や縄文時代の地図**なども活用させる。 ・衣食住や道具などの項目を決めさせる。 ○話を聞いたり、調査したりしてわかったことを中心に、工夫してまとめることができたか。

※2 時は、“出前いっちょう”を利用するが、可能なら資料館の見学をする。また、近くで遺跡調査を行っている場合、見学できることがあるので事前に問い合わせておくとよい。

３．本時の指導

(1)ねらい

身近なところに歴史的な遺跡が残っていることを知り、地域の昔や当時の人々の様子を詳しく調べようという意欲をもつことができる。

(2)展開(1/3 時)

主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
◆ **土器片**に触れながら、土器や当時の様子について想像して話し合う。 ・ 土器が作られたのは、いつ頃か。 ・ 土器の模様は、どのように付けたのか。 ・ 全体はどのような形なのか。	・**日野市内で出土した土器片や石器(石皿、磨り石、矢じり、石斧)**など児童が触れることのできる実物を学芸員の協力を得て用意する。それができない時は、レプリカを用意する。 ・土器の模様については、粘土とヘラ・貝殻・撚った紐などを用意し実際にやらせて、考えさせる。 ・縄目の模様から「縄文土器」と名づけられたことを知らせる。 ・
◆ **土器や石器**は何に使われたのか考え、発表する。 ・ **石皿と磨り石**は何に使われたのかな。 ・ **黒曜石の矢じり**は、獲物を捕るために使った。 ・ **石斧**は木を切るのに使ったのではないか。 ◆ この**土器片や石器**は、税務署の近くの南広町遺跡から発掘されたものであることを知り感想などを話し合う。 ・ 税務署の近くで、大昔の人が生活していたんだ。 ・ この辺の昔の様子をもっと知りたい。	・道具の名称については知らせ、現存する道具を見せ、使い方を理解させる。 ・道具の使い方をもとに、どのようにして食料を得ていたのか気づかせる。 ○道具の使い方について、興味をもって自分なりに考えることができたか。 ・**学区域の地図**を用意し、自分たちの住んでいる地域に縄文時代の遺跡があることを知らせ、興味・関心を高める。
◆ 学芸員に聞きたいことをワークシートに書き、発表する。 学校の近くの縄文時代の様子を調べてみよう。 ・ どんなものを食べていたのかな。 ・ どんな所に住んでいたのかな。	・次時に学芸員が縄文時代の遺物などを持って学校に来ることを伝え、どんなことを調べたいのか考えさせる。 ・衣食住や道具などを中心に、話を聞く視点を明確にする。 ○地域の昔や当時の人々の様子を調べたいという意欲をもつ。

児童用資料

＝地域の歴史を知ろう＝

縄文時代(じょうもんじだい)

今から約１万５千年前から２千年前ぐらいまでの間を縄文(じょうもん)時代と言います。この頃の人々は、日本の各地で縄文土器を使って生活していました。縄文土器というのは、縄(なわ)などを転がして模様をつけた土器のことです。日野市でも、平山遺跡(いせき)、吹上(ふきあげ)遺跡、神明上遺跡、南広間地(みなみひろまち)遺跡、七ツ塚遺跡などから、住居の跡や縄文土器、石器(せっき)などが発掘されています。

(立川市歴史民俗資料館資料)

◎ 縄文時代の家：竪穴式住居(たてあなしきじゅうきょ)

縄文時代の家は、わき水の出る崖(がけ)の上に作られることが多く、坂を登ったり降りたりするのはやや大変でしたが、水の得やすい所が選ばれました。また、南向きの日当たりのよい場所に多く作られました。この家は竪穴式住居(たてあなしきじゅうきょ)と呼ばれ、まず地面を３０cm ぐらい丸い形に掘り下げました。次に、地面に穴を掘って柱を埋め込んで立て、屋根は草などを利用したようです。家の真ん中に炉(ろ)があり、そこで火を燃やして食べ物を焼いたり、土器を使って煮(に)たりしました。床(ゆか)には、草をしいて５～６人で生活したようです。

◎ 縄文時代のくらし

縄文時代は、水田で米を作る農業(のうぎょう)はおこなわれていません。イノシシやシカをつかまえたり、魚などをつったり、木の実などを集めたりして食べていました。

高幡台遺跡(たかはただいいせき)からは、動物をつかまえるための落とし穴(あな)が見つかっています。また、多摩動物園を作る工事中にけものを取るのに使った石やりの先の方が出てきました。吹上(ふきあげ)遺跡からは、弓矢の矢の先(矢じり)が見つかりました。この矢じりは、黒曜石(こくようせき)で作られていますが、この石は日野市では取れません。長野県の和田峠(わだとうげ)から運ばれてきたものです。吹上遺跡や平山遺跡からは、魚をとる網(あみ)のおもりが出てきました。

落とし穴(おとしあな)

矢じり

集石炉(しゅうせきろ)

土偶(どぐう)

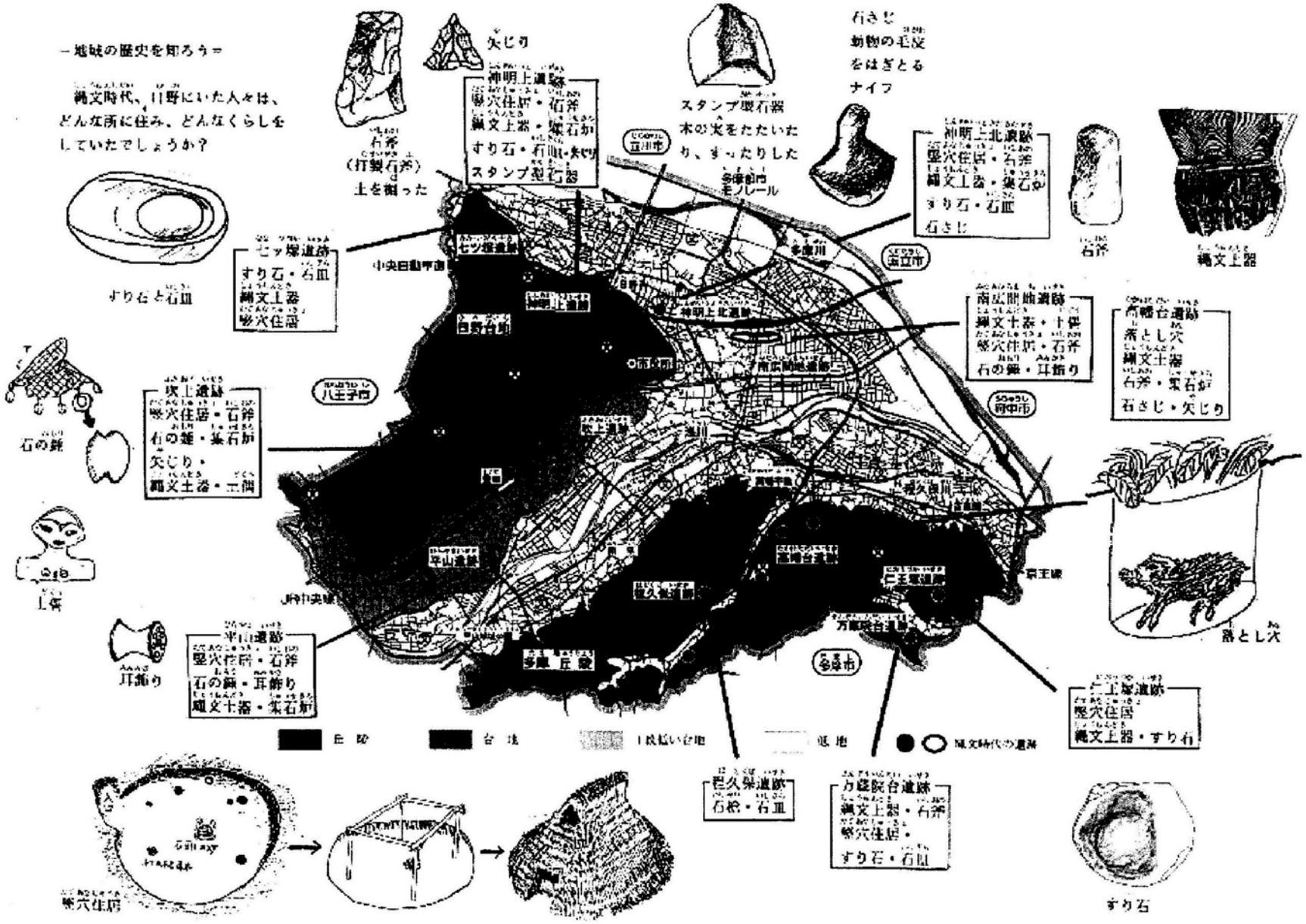
石斧(いしおの)

さらに、日野第一小学校の体育館の下(神明上北遺跡)からは、石斧(いしおの)が１００個以上も見つかりました。多摩川の河原の石を使って石斧を作り、和田峠の黒曜石と交換したようです。石斧は木を切るのではなく、カタクリやクズなどの根や球根を掘り食用にしたり、竪穴式住居を掘ったりしたようです。

縄文時代の人々は、仲間と力を合わせて食べ物を手に入れ、それをみんなで分け合ったと考えられています。また、取ってきた食べ物は、蒸(む)し焼きにすることもありました。まず、石をたくさん集め、その上でたき火をします。石が焼けたら、木の葉などに包んだ食べ物を置いて、土などをかぶせました。この跡(集積炉：しゅうせきろ)が神明上北遺跡や平山遺跡から出ています。また、子どもが元気に生まれたり、病気やけがが早く治ったりするように、お祈りやまじないの道具として使われたと思われる土偶(どぐう)も吹上遺跡から出ています。

このように、縄文時代の人々は日野市内の各所に竪穴式住居を作って住み、えものや魚、木の実などをさがして歩きまわって生活したので、今みなさんが住んでいる土地も歩いたことでしょう。

日野市内の縄文遺跡と遺物



女子教育に力を尽くした秋間為子

１．教材化の意図と概要

明治新政府は近代国家として発展していくために国民全体の知識水準と教養を高めるために、教育の普及と振興に力を入れた。女子については、日常的な生活技術教育を治める良妻賢母教育の教育であった。

渡米から帰国した津田梅子は、日本の女性に独立の精神が必要であることを痛感して、女子の教育に力を尽くすことを自分の使命と考え、後には津田塾大学を創設する。日野にもほぼ時を同じにして、平山出身である秋間為子(1861-1933)が女子教育者として活躍していたことを子どもたちに伝えることは、郷土の日野の誇りでもある。

為子は帝国医科大学の看護婦養成に入学、その後、東京本郷に看護学校をつくり、明治３４年には同じ東京本郷に錦秋女塾を開設、明治４２年には錦秋実用女学校に発展させ、女子教育に力を注ぎ、大きな業績を残している。

ところで、明治政府の教育についての一貫した方針は、初等教育の普及、中等教育の普及、大学制度の充実、実業専門教育及び特殊教育の進展、私立学校の設立といったように、我が国の教育を大いに発展させたところであり、「明治時代における教育の普及、自然科学・人文科学等の学問の発達」等に関係する授業を展開する時には、「秋間為子」の名前を出して、当時の日野の進取の精神・先進性について気付かせたい。

平山小学校では、副読本「ひらやま」を作成し、その中に、秋間為子を“郷土平山”の人として、平山陸稲の名を全国に広めた林丈太郎と合わせて取り上げている。副読本「ひらやま」は、日野市立教育センターの図書資料室「郷土教育コーナー」の「平山小学校記念誌」ファイルに保管されているので、教材としての取り上げ方を、教育センターに出かけた折に覗いていただき参考にされたい。

なお、為子は明治・大正にかけての女子教育者として知られるとともに、教育以外に社会運動にも尽力し、明治４０年、平山に七生村平山報徳会をつくり、地方改良運動を推進している。

参考文献「日野市史　近代１」

２．指導計画

第３・４学年社会科　単元名「地いきのはってんにつくした人々（事例：秋間為子)」(７時間)

（１）単元の目標

地域の教育や生活の発展に尽くした先人の働きや苦心について理解し、関心を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

（２）単元の展開

①　写真（秋間為子像・墓碑）を見て、わかったこと、思ったこと、疑問を話し合い、いつ頃の人か、どんなことをした人なのかを考える。

地図から、どこで生まれた人かを読み取り、生家のある周辺の様子を話し合い、自分の生活の中との関わりで感じたことをまとめる。(１時間)

②　明治 15 年頃の地図から生家のある周辺の様子を読み取り、平山の今と昔のくらしについ

ての違いを考える。（１時間）

③　秋間為子についての略歴を読み、わからないことを聞いたり、調べたりして、為子の行った仕事をまとめ、感想を発表し合う。（１時間）

④　看護婦になったことや、学校をつくった為子の考えを、為子の「略歴自叙伝」をもとに調べ、まとめる。（１時間）

　為子のつくった報徳会のことについてお話を聞き、秋間為子が平山に報徳会をつくったわけや、人々の取り組みを知る。（１時間）

⑤　秋間為子の生家、墓碑を見学し、為子の生まれた当時の平山の様子を思い描き、平山に生まれた秋間為子について感想文を書く。（２時間）

３．資料

（１）秋間為子の略歴

1861 年　　代々名主の秋間家に生まれる。
　　（秋間家は武田信玄家臣 24 将の一人であった秋間氏の後裔）
1867 年　　６歳で寺子屋に入る。
1873 年　　１２歳より裁縫教習所で学ぶ。
1876 年　　１５歳より豊田学校初代校長であった大沢教之助について学ぶ。
1880 年　　埼玉県の貫井家に嫁ぐ。
1889 年　　離婚。社会国家のために尽くすことを決心、患者の天使になることを志し、帝国医科大学の第１回看護婦養成に入学。
1891 年　　東京本郷に看護婦学校をつくる。
1894-5 年　日清戦争の従軍看護婦として働く。宝冠勲章。
1901 年　　東京本郷に錦秋女塾を開設。
1904-5 年　日露戦争
　　日露戦争後の婦人の家事経営について勤倹貯蓄を実行することを力説。
1905 年　　大日本婦人農芸会を設立、自費で東京府・千葉県・群馬県を遊説。
1906 年　　日清戦争に篤志看護婦として国事に尽くされた為子は、大日本赤十字社より特別社員に抜擢され、外に金３５円を贈られた。
1907 年　　平山に七生村平山報徳会設立。
1909 年　　錦秋実用女学校、錦秋高等女学校に発展させる。
1923 年　　関東大震災では、罹災者の救護に尽力（学校に収容・水の提供等）。

―この後、女子教育の発展を目指すとともに、地方改良運動に尽力する。―

1928 年　　多年の教育に貢献した功績により賞勲局より表彰状、銀杯を賜る。
1934 年　　73 歳で他界、平山の宗印寺に墓碑を建立。

※　錦秋の意味…元群馬県知事石坂昌孝氏が名付けたもので、将来は必ず錦を着る秋間であるとの考えから錦秋が生まれたのであろう。「秋間為子女史の足跡」（昭和 17 年日統社）より

（２）報徳会について　＜参考文献　日野市史　近代（一）＞

明治 40 年（1907）8 月に秋間為子指導のもとに設立。七生村平山報徳会は戸主と青年によって

組織され、二宮尊徳の遺訓を守り、父母・先祖の徳には自らの徳で報いることとし、事務所を平山小学校に設置。七生村平山報徳会規則（明治 42 年）に、

「本会は本来設置せられたる大日本婦人農芸会（婦人の家事経営ついて勤倹貯蓄を力行することを標語とし、設立者・秋間為子は幹部として大なる活躍をされている）と一致の行動をとり勤倹貯蓄を計り以て国家の富強を図ること」としている。

農業の発展、その他の産業振興の道の開発、慈善事業、公衆衛生事業に全力を尽くすことを目的とした組織である。報徳会運動の一つの特色である講話会では、修身講話、研究、新知識の交換を行った。具体的な活動として、桑園では秋蚕専用の桑園２反歩をつくり、収穫を競売にしてそれを会費にあて、残金を貯蓄して必要に応じて支出することとしている。

また、畑１反歩を借り入れて肥料試験を行い、毎晩縄綯をして売却し貯蓄債権を購入している。種子購入ではレンゲソウの種子１石を購入して会員に配布している。そして、この運動を七生村全村に広げることを考え、潤徳校において、報徳会発会式（当時の村長・森久保作蔵が発会の要旨を述べたことが五十子敬斉の日記に記されている）が行われている。

（３）「昭和４年 12 月　秋間校長自叙伝略歴筆記」　＜抜粋＞刊行　秋間校長古希祝賀会

①家系と生い立ち

その頃の学科は至って少なく手習いが重でありました。半紙１帖 20 枚の紙を綴じて１冊となしたものを５帖位作って置き、毎日毎日、交る交るその習字帳を日向に乾して、黒光りになるまで用いたものです。只今のように、一々白紙に書くことなどはありませんでした。

②離婚後の奮闘

折角此の世の中に生まれてきた以上は、何か身を粉にしても、社会国家にお尽くししたいという信念が沸いてまいりました。

ちょうど下女に使っていたものが看護婦になっておりましたが、私の心の中を察して、私に話すに、「看護婦はなかなか尊い使命をもっております。今後の心得のないものが知識もなく、経験もなく、徒に患者に接することは大変間違っています。一旦比丘尼になるまでご決心なさったのだから、此の心を以て、患者の天使になっては如何ですか。丁度帝国医科大学で第１回の看護婦養成が募集されますから、そこへ応じては如何ですか。」と、言われた言葉に励まされまして、明治 21 年 12 月これに応じて入所し、同 22 年 12 月に卒業しましたが、此の間の苦心は想像の外でありました。

③看護婦事業

自分の素志としては看護婦として女子を養成する傍ら、主婦としても適当なる婦人を教養したいということであったから、（此のときに）看護婦養成の事業を中止して、小学校卒業以上の女子の教育を行うために、錦秋女塾を開くことにしました。

④日清日露両役に従軍

赤十字社より、状箱入の手紙がまいり、直ぐに出頭せよとのお使いがありました。そこで早速伺いまして佐野社長に御面会を致しますと、…その時、社長は私に向かって貴女はどうしても従軍したいかとお尋ねになりましたから、此の儘戦争が引き続きますものならば、是非従軍させていただきたいと申しますと、社長はそれは結構なことである、…すべての準備ができた由であるから、是非その縄（注：事前に準備しておいた荷づくりの縄のこと）を解かずに待ってくれとのことでした。…

広島へ出発せよとの御沙汰に接しました。此の戦争のときは広島が臨戦地となっておりましたから…

凱旋後、その功績によりて、賞勲局より勲８等宝冠章、及び赤十字社より特別社員に列せられ、金品をもいただきました。この宝冠章は、まだ民間に下賜されたものはありません。…此の宝冠章をいただいて後、佐野社長がわざわざ私をお召しになりまして、貴女はまだ年の若いことである故、将来品性よく保ち、此の勲章に対して恥ずる行為がないようになさい。とのご注意がありました。

⑤公共慈善事業

報徳会は明治 40 年８月に設立しました。この動機は、…戦後国運の発展に連れて、人心漸く奢侈に流れんとする時運に際しておりましたので、この点について大いに憂えておりました。

折柄、二宮尊徳翁の著書を読み、報徳の教えに大いに感激いたしまて、故郷の平山に帰りまして、村の人たちと相謀りまして報徳会をつくり、勤倹貯蓄を奨励いたしました処、非常に効果を奏しました。

⑥教育事業

ア　錦秋女塾

明治 34 年５月､同塾を開き､元の看護婦養成所の後を受けて､地方遊学の女子を預かり」､父兄母姉に代わりて監督し、日常の作法、家事等を教え、将来主婦として適当なる婦人を養成いたしました。

イ　錦秋実用女学校

明治 42 年２月、東京府の認可を得て、女塾を改めて女学校となして設立。自身校長として教養経営の任にあたりました。時代の進運に伴いまして実用女学校を錦秋中等実業女学校及び錦秋高等女学校の２校に分けて教育することにいたしました。

ウ　錦秋中等実業女学校

大正 15 年３月、その筋の認可を得て設立、夜間女子の勉学のために、女子に必要なる学術技芸及び独立自営のために要する商事等を教えております。

エ　錦秋高等女学校

大正元年、文部大臣の認可を得て設立し、校長として経営教養の任にあたりました。校運の発展に伴いまして、校舎の増築は４回に及び、現今定員 800 名、在籍は定員に満ちています。

（４）平山小学校副読本「ひらやま」p22-23＜秋間為子＞の活用

問題解決学習型の授業展開にそって、秋間為子像（写真）、錦秋高等女学校の校舎（建物）、秋間為子の生家（地図）、為子の年表、女学校・報徳会についての説明文があり、中学年の児童にわかりやすくまとめられています。地域の先人を教材化する際の手引になります。

（２）校長講話例

うなぎを食べない四谷の人々

私が校長先生として東光寺小学校に来た時のことです。２学期に台風がやってきました。台風が東京を直撃するというので、とても心配になりました。夜から大雨になり、多摩川の堤防が壊れて川の水があふれないか、用水の水があふれないか、子供たちの通学路は大丈夫か、学校の裏の崖が崩れないのか、気になって寝られませんでした。朝早く、カッパを着て自転車に乗って、学区の多摩川・日野用水、学校の周りをまわりました。途中、何人もの地域の人と出会いました。ある、おばあちゃんが、「校長先生、心配しなくても大丈夫ですよ。多摩川の水はあふれませんよ。ウナギが守ってくれています。私が生まれてから一度も多摩川は洪水になっていませんよ。」と言いました。「ありがとうございます」とお礼を言って、学校に戻りました。

中央線をはさんだ多摩川沿いの仲田小から東光寺小の学区は、昔は四谷村と言いました。今は、日野本町、栄町となっています。私は、この地域に残っているウナギ伝説のお話を調べて、おばあさんが、「大丈夫ですよ」と言った意味がわかりました。ウナギのお話をします。

ある年、この多摩川が氾濫し、大水が出て、堤防があぶなくなりました。村人は、土のうを積んで、一晩中見張っていましたが、水は増える一方です。そして、ついに土手に穴があき、水がもれ始めました。村人は必死になって穴を埋めようとしましたが、もう人の力ではどうにもならなくなりました。その時、どこからともなくウナギの大群が泳ぎつき、その穴へぎっしり入り込んで土手を守りました。四谷の鎮守様は、日野宮神社です。日野宮には、虚空蔵菩薩という仏像があります。四谷の人々は、虚空蔵菩薩がお使いのウナギに命じて、四谷村の人々を助けてくれたのだと思いました。この仏像の着物の袖は、ウナギそっくりに見えます。このあと、四谷村の人々は、決してウナギを食べないことにしたそうです。

このウナギのお話は、昔話ではなく、今でも四谷地区ではウナギを食べません。四谷は、400年前に、天野、加藤、小島、宮原の四家が山梨県から移ってきた時から始まったといわれています。昔の記録に「四谷」の他に、「四家」「四屋」と書いた文字が見られます。だから、昔から四谷地区に住んでいる、天野さん、加藤さん、小島さん、宮原さんは、今でもウナギを食べていません。

ウナギのほかに、とうもろこしを食べない人、きゅうりを輪切りにして食べない人がいます。東光寺小のまわりには、昔話がたくさん残っています。是非、調べてください。

年末･年始の伝統行事

１．どんど焼き

12 日の成人の日、宮で「どんど焼き」がありました。昔は「サイノカミ」と呼ばれ子ども達の行事でした。子ども達が、一軒一軒家を回り門松やお正月のお飾りを集めて回りました。そのご褒美にお金やお餅、みかんなどをもらいました。藁やカヤで小屋を作って、その中でお餅を食べたり、遊んだりしました。小正月の日に小屋を燃やします。繭玉という団子を焼いて食べると風邪をひかないといわれています。燃やした書初めの灰が高く舞い上がると字が上手になると言われています。お手伝いしてくれたお友達、参加したお友達、ありがとう、よかったですね。参加できなかったお友達は、校長先生が代表して皆さんのことお願いして来ました。

２．書初め

どんど焼きで「書初め」がよく燃えました。そして、皆さんが冬休みに一生懸命練習したので一小の子どもは字が上手です。「書初め」はお正月の２日に書きます。「初夢」も２日です。初めて見る夢を初夢と言って、めでたい夢は「一富士、二鷹、三なすび」の順だとされています。皆さんはどんな夢を見ましたか。17 日（土）・18 日（日）は日野市の書初め展でした。一小の子供は字が上手です。素晴らしい賞もたくさんいただきました。一中の先輩も上手です。皆さんの先輩の書初めがたくさん展示されていました。今日から 1 週間、一小で校内書初め展です。お友達の素晴らしい書初めを１年生から６年生まで、よく見てください。来週の月曜朝会で表彰します。

３．その他の行事（２年生の日記から）

その他、一小の子どもはどんな行事に参加したでしょう。２年生の日記を見せてもらいました。

・Ｔさん　　今日は大晦日です。大晦日なので「年越しそば」を食べにそばやさんに行きました。私はおそばとカレー丼を食べました。なぜ、おそばを食べるのでしょう？

・Ｆさん　　夜、紅白歌合戦を見ました。一番気にいったのは「がけの上のポニョ」と「しゅう恥心」です。紅白を見終わってから無事 1 年が過ごせてよかったなと思ったので、心も体もぽかぽかになりました。

・Ｏ君　　今日除夜の鐘をつきに大昌寺に行きました。最初におしょうさんに手を合わせて、力いっぱいつきました。次にお賽銭を投げて願い事をしました。なぜ、108 つ鐘をつくのでしょう？

・Ｔさん　　今日は（1 月 11 日）かがみもちを食べました。四つあって、私は一つ、お姉ちゃんは二つ、11 日の鏡開きは、お正月に供えた鏡餅を割って、お雑煮やお汁粉にして食べます。包丁を使って切ってはいけないのです。

・Ｔさん　　今日、昼から家族でどんど焼きに行きました。どんど焼きで大きな音がして少しこわかったです。お餅を焼いたときは熱かったです。

４．まとめ

日本には、春・夏・秋・冬の季節があって、季節ごとにたくさんの行事があります。行事は一人ではできません。家族で、地域で、みんなが協力しないとできません。大変な仕事がたくさんあります。でも、協力することにより、家族や地域が楽しくなり、みんな仲良しになります。だから、どんどん行事に参加してほしいのです。

（3）各機関との連携

① 物事はつながる

いつも目にしている小さな事柄が、実は地域社会の動きや、日本の歴史とかかわっていた…。関係ないと思っていた事柄が、実はみんなかかわりあっていた…。…そうしたことに気付いたならば、その人の探究心は限りなく広がっていきます。例えば、“郷土学習の改札口”である日野駅を訪ねた小学生が、ふと一片の煉瓦を見つけたとします。改札口を抜けたその子供の目の前には、郷土日野の歩みを、日本の歴史の中で辿る、煉瓦色の列車が待っています。

○疑問１　日野煉瓦って何？

日野駅の近くには、線路が用水を越えるための煉瓦のトンネルがあり、また、日野第一中学校のポケットパークには、日野煉瓦のモニュメントがあります。

日野煉瓦とは、明治 21～22 年に日野煉瓦工場で作られた煉瓦で、現在も中央線多摩川鉄橋で使われています。日野の人たちはこの煉瓦を鉄道省に納めることで、日野駅を誘致しました。

多摩川鉄橋を見に行った帰りに、日野宿交流館に立ち寄ると、日野宿の歴史の展示の中で、日野煉瓦が紹介されています。日野煉瓦工場を作ったのは日野宿の人たちであり、彼らは新選組を支援して、明治新政府と戦った人たちでした。その彼らが、明治維新からわずか 20 年後には、明治政府が建設する鉄道を、地域の発展に利用しようと考えていたのです。

そこには「日野の人たちは、時代の動きに柔軟に対応し、先進的な産業を興し、日野を発展させていった」というメッセージが込められています。

○疑問２　日野自動車があるから日野市なの？

ところで、「日野市は日野自動車があるから日野市なの？」と聞かれたことはないでしょうか。図書館で日野自動車の歴史などを調べてみると、昭和初期に日野に作られた分工場が独立して日野重工業、日野自動車になったことや、日野五社と呼ばれる大工場が、みなこの時期に立地したことがわかります。あわせて、日野という地名が中世・古代にまで遡ることもわかります。

昭和初期に日野に立地した大工場は、昭和 5 年に始まる昭和恐慌の打開策として、また昭和初期の軍需品の増産政策の中で、当時の日野町が誘致したものです。これら大工場があったために、戦後になると、さらに新しい工場を誘致し、大規模な団地を作って、新しい“衛星都市”を日野に作ろうとする国の計画が立てられ、多摩平団地や旭が丘の工業団地が建設されました。

つまり、町が誘致した日野自動車などの大工場があったために、多摩平に団地が建設されたのです。

○物事はみな関連している

新選組を支えた日野宿の人たちが煉瓦工場を作り、日野駅を誘致したこと。昭和恐慌を切り抜けるために工場を誘致し、それを基盤に多摩平団地や旭が丘の工業団地が形成されたこと。　…この二つの事柄は一見関係が無いように見えます。

しかし、「日野の人たちは、昔から、時代の変化に柔軟に対応して、新しい道を切り開きいてきた」という共通点を見出したならば、新選組や日野煉瓦、日野自動車、多摩平団地は、一連の流れの中で、相互にかかわり合う事柄として理解することができます。郷土への興味や理解は、大きく広がるのではないでしょうか。

例えば、日野自動車ができる前の日野台地は、一面の桑畑でした。殖産振興政策の中で、日野では明治 20 年代から養蚕が盛んになり、日野台地は桑畑に変わりました。仲田の蚕糸試験場はそうした時代背景の中で作られました。しかし昭和恐慌で生糸の価格は暴落し、桑は栽培されなくなります。そこへ、日野自動車などの大工場が誘致されました。

新宿を出て南北に分かれて走っていた甲州街道と中央線は、日野駅で初めて交差します。地形を調べると、日野台地をなるべく緩やかに登るには、台地に入り込んだ谷戸を利用できるこの場所が最も適していることがわかります。すると、甲州街道と中央線を関連した事柄としてとらえることができ、日野の地域特性を理解する手がかりとすることができます。

郷土を学ぶ上で大切なことは、このような物事のかかわりや広がりに気付く眼を育むことではないでしょうか。

図書館では、資料のレファレンスのほか、「日野宿発見隊」や「日野写真散歩」などで地域の方たちと一緒に資料の収集と活用を行っています。郷土資料館では、昔の道具、古文書、動植物や化石の標本などの資料を展示し、文献や写真など様々な資料を収蔵しています。 また、文化スポーツ課（文化財係）では、様々な文化財の掘り起こしを行っています。出張授業の「出前いっちょう」や「火起し体験」など、実物に触れ、体験する事業も、文化スポーツ課や郷土資料館により行われています。

私たちはこのような取り組みを通して、一問一答のＱ＆Ａ方式ではなく、物事のかかわりや広がりを大切にしながら、情報や資料を提供していきたいと考えています。そして、「小さな発見から、大きな世界が見えてくる」ことを、子供たちに伝えるお手伝いをしたいと願っています。

日野市立図書館

郷土資料館

日野第市中学校にあるポケットパーク

日野宿交流館

② 郷土教材としての「七生丘陵」

１　七生丘陵とは

日野市の浅川南部に横たわる丘陵の姿は、日野の人々にとっては馴染み深い風景です。豊かな自然の中には住宅地が広がり多くの人々が暮らしています。この丘陵地域は多摩丘陵の一部ですが、かつての七生村に属していたことから、日野市では「七生丘陵」とも呼んでいます。平山・南平・高幡・程久保・三沢・落川・百草の七つの村と西長沼の一部が合併し明治 22 年（1889 年）に「七生村」は誕生しました。昭和 33 年（１958 年）日野町との合併、昭和 38 年（1963 年）の市制施行を経て現在に至っています。

２　身近な自然を感じる場所としての七生丘陵

現在七生丘陵には、住宅と近接した場所に雑木林があり、多摩動物公園、七生公園、南平丘陵公園などの公園や緑地、七生丘陵ハイキングコースが整備され、身近に自然を楽しむ場所として親しまれています。ちょっと歩くと別世界が広がっているのです。学校教育にとっても、七生丘陵が郷土を知るための教材として、幅広い活用の可能性があるのではないでしょうか。動植物、地形や地質、人々の暮らしといった様々な要素がつめこまれています。以下にあげる２件の事例は、七生丘陵を理科の教材として活用した事例を想定していますが、社会科、生活科、図工 での活用も考えられます。特に生活科ならば、地域の人々や自然とのふれあい、四季の移り変わりを、公共の場所でのマナーや安全、生命の尊重、持続可能な社会、遊びの工夫・・・など、野外にでかける体験を通して実感し、子どもが繰り返し経験を積み重ねることができます。

３　七生丘陵を知るための基礎知識と理科での活用

（１）多摩丘陵の地形と地質

小学校５年「流れる水の働き」　　雨水が地面をけずる様子

小学校６年「土地のつくりと変化」　地層や化石

中学校「大地の変化」地層や化石、地質年代、地層の広がり

多摩丘陵は、八王子市南部から日野市・多摩市・町田市・稲城市などを経て、横浜市まで連なっています。

日野市南部の「七生丘陵」と呼ばれる地域は、多摩丘陵西部にあたります。丘陵西部は稜線の高さが 220m から 100m で、日野市域の稜線は高さ 180m から 120ｍほどです。多摩丘陵は、前期更新世の上総層群が土台となっています。上総層群は関東の広い範囲が海だった時代に堆積し、日野市域の丘陵や河川で見られる平山層、小山田層、連光寺層、稲城層が上総層群に属しています。それらの地層が堆積したのはおよそ 100 万～150 万年前です。当時の環境は、河口・浅海～陸化と海水面の上下に応じて変化していました。そして、貝、ヒゲクジラ、アケボノゾウなどの化石が発見されています。地層は東下がりに 1～5° ほど傾き、おおまかに言えば、東に行くほど新しい地層が露出することになります。その後約 50 万年前に陸化し、古相模川が流れて御殿峠礫層を堆積させました。さらにその上部には富士・箱根などからの火山灰が降り関東ローム層となりました。新たな地層が堆積するのと並行して、地表を流れる水が長い時間をかけて大地

を削り、湯沢や程久保川のほか小さな谷が樹木の枝のように入り組む現在のような丘陵の地形がつくられました。地形図や空中写真で丘陵全体の地形を見ることができます。

野外では地層の観察が可能であり、資料館ではアケボノゾウの牙や足跡化石レプリカ、ヒゲクジラの化石を展示しているほか、貝化石を収蔵しています。産地は多摩川・浅川ですが､丘陵地とつながる上総層群の地層から発見されています。

（2）人と自然をつなぐ雑木林

小学校３年、４年「身近な動植物の観察」

中学校「自然と人間」身近な自然、学校周辺の環境、自然環境と人間の生活

七生丘陵の雑木林は、コナラやクヌギを中心とした落葉広葉樹で構成され、かつては薪炭、肥料などの資源を得る林として利用されていました。人々は樹木を10～15年のサイクルで伐採し、下草刈りや落ち葉はきなどの管理を行ってきました。切り株からは新しい萌芽枝が育ち林は若返ります。また、周期的に場所を変えて伐採を行うため、伐採直後・生育中・育った林といった多様な環境が同時に存在し、落葉樹中心の雑木林には季節に応じた変化も生じます。人が樹木を選択し林の手入れすることにより、多様な動植物が生存できる環境ができたのです。

昭和30年代、40年代の時代の変遷とともに人々の生活様式も大きく変化し、雑木林は燃料資源の林としての役割を終えて多くは宅地や団地などに姿を変えていきました。そのような現在でも、雑木林は人々の文化であり、野生生物の生息場所であることには変りはありません。緑地保全活動や農業での利用、自然保護や観察会などの活動など地域の人々は自然を関わりながら活躍しています。

（3）七生丘陵の見方・使い方のヒント。訪問するだけでなく、遠方からの利用も考えられます。

７７・　　する（動植物や地層の観察、美術作品などの題材や素材、体験する実感する）

７７・ 遠方から見る（四季の変化、丘陵の地形、郷土の景観）

７７・ 丘陵からまちを見る（日野市の姿を見渡すことができる）

７７・ 地図とともに見る（丘陵、河川、台地のちがいや土地利用など）

（4）　七生丘陵を知るために参考となる資料

- 日野市七生地区の地名と昭和の高幡　日野の昭和史を綴る会編
- リーフレット「村絵図を楽しむ」（１三沢・程久保）（２南平・程久保②）（３百草）
  日野の歴史を綴る会編　日野市郷土資料館発行
- リーフレット「七生丘陵の自然とくらし」日野市郷土資料館発行
- 平山をさぐる「鮫陵原とその時代」ひらやま探検隊編　日野市生活課発行
- 土地分類基本調査　八王子・藤沢・上野原　１９９５年版
  東京都労働経済局農林水産部農地課発行

※そのほかにも、七生地域の情報を知る発行物が各種あります。学習団体の研究や日野市発行のものなどは一般販売の図書より探しにくいかもしれません。資料については郷土資料館にお尋ねください。図書館なら郷土史のコーナーで探すとよいでしょう。

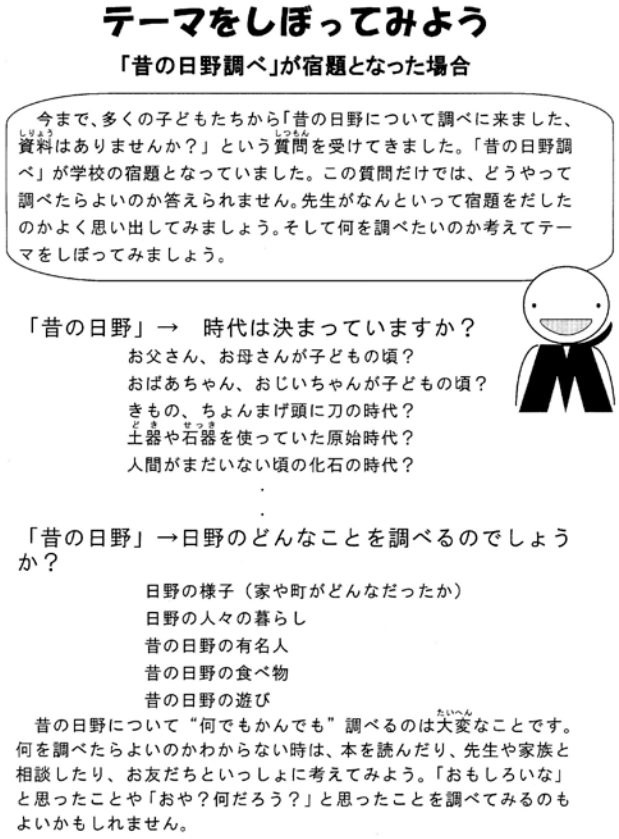
③　調べてみよう・夏休み自由研究

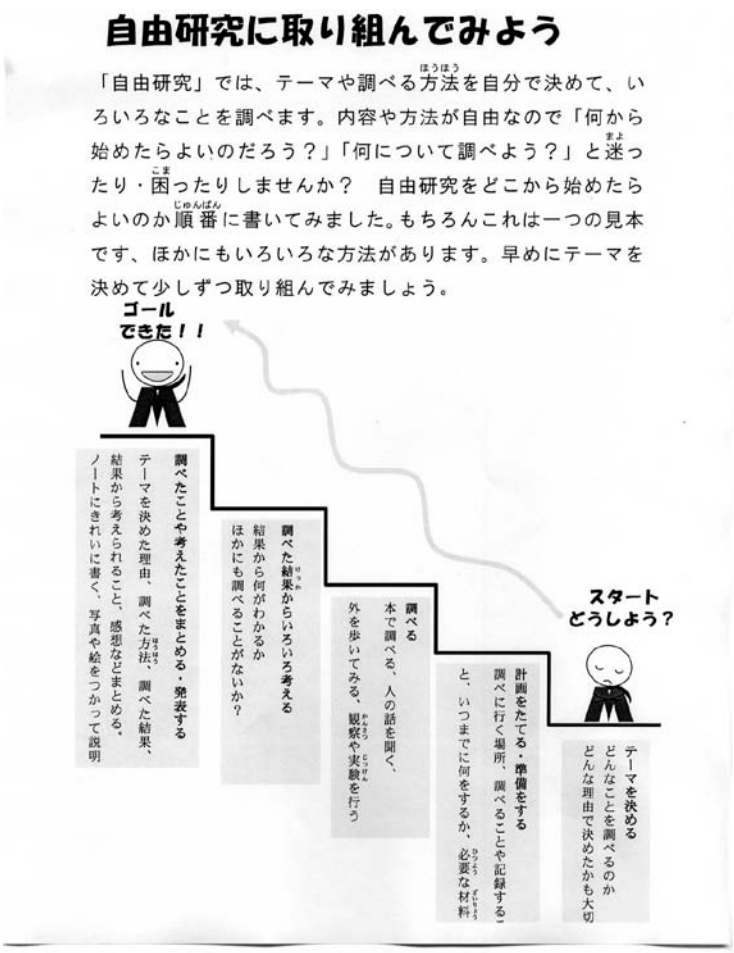
郷土資料館は、平成 19 年に企画展示「調べてみよう！自由研究応援します」を、夏休みを含む 7 月 14 日（土）～9 月 2 日（日）の期間に開催しました。毎年夏休みには、自分で興味のあることを調べたり、宿題に取り組んだりする児童生徒が郷土資料館に来館します。知りたい・調べたい、何をどうやって調べたらいいのかわからない、といった希望や疑問をもつ児童生徒を応援するために、郷土資料館では「調べてみよう！　自由研究応援します」と題した展示に取り組んだのです。この展示では「学校の宿題」という枠だけでなく、児童生徒から大人まで、調査方法やその結果をご覧いただくことで、地域を調べて知ることの大切さを紹介しました。

具体例としては、市民と共に行った郷土資料館の「真慈悲寺」や「勝五郎生まれ変わり物語」の調査活動、“大人の自由研究”として日野の昭和史を綴る会が取り組んだ七生の地名、石田散薬について調べた中学１年生や化石について調べた小学６年生の研究などについて、関連する実物資料とともに紹介しました。

今回の郷土日野事例集では、来館者とのやりとりを元にして作成した展示パネルを一部手直しして「昔の日野について調べにきました」を紹介します。郷土資料館の通常業務として地域を調べるために来館する児童生徒や大人に情報を提供したりして、相談に応じています。

（郷土資料館企画展示　「調べてみよう！自由研究応援します」から）





昔の日野について調べにきました

どれくらい昔のことを調べたいの？

う～んと、日野の歴史ならなんでも、一番古いことについて調べようかな？？　ここにあるもので一番古いものは何？

何だと思う？

収蔵展示室には、おなべやアイロンとか昔の道具がいろいろあったけど、そんなに古くないよね・・・

昔の道具は、昭和の初めころまで使っていた道具が多いです。今は展示していないけれど、日野でみつかったもので一番古い人間の道具は石器かな。１万年くらい昔。

もっと、もっと昔は？？　恐竜はいたの？

恐竜の化石は日野では発見されていません。恐竜の化石がみつかる地層はふか～く深く掘らないとでてこないのです。日野で表面にでている一番古い地層は100万年から200万年の間くらい昔の地層です。恐竜はいなかったけど、ゾウやクジラの化石が発見されて、収蔵展示室に展示しているので、ぜひ見てね。

日野の化石について調べてみようかな。

調べるための資料
- 本物の化石
- 化石や地質について書かれた“論文”
- 化石について調べるための本
  （日野のことだけでなければ、子ども向けの本もたくさんあります）
- 日野の化石や地質についてわかる地図や写真

そのほか野外にでかけて観察することも大切です。

昔の日野について調べにきました

どれくらい昔のことを調べたいの？

いつかわかんないけど「日野市」の始まりを調べたいんだ。昔は日野町だったんでしょう？

よく知っているね。学校で習ったの？

先生に聞きました。「わたしたちの日野」（副読本）にも書いてあるよ。もっと詳しく調べたいんだ。どうやって調べたらいいのだろう・・？

大昔のことではないから、調べるための方法や資料がありますよ。

日野市が誕生したのは昭和38年（1963年）のことです。子どもたちにとっては昔のことですが、大人にとってはそんなに昔の話ではありません。時代が新しいほど調べるためのヒントが身近な場所でみつかります。

- 人の話を聞いてみる
- 当時の新聞
- 本で調べる
  - 日野の歴史が書いてある本「日野市史」
  - 人口などの数字から調べる「とうけい日野」
  - 市政施行２０周年記念写真集「日野のあゆみ」
  - 「ひのふるさと歳時記」など
- 地図で調べる
  - 当時の地図、今の地図との比較
- 歩いてみる
  - 町の広さを実感、地名（七生など）

昔の日野について調べにきました

どれくらい昔のことを調べたいの？

どれくらい昔かな？？　新選組のころ

新選組が活躍したのは江戸時代の終わりころです。

そう！　江戸時代の日野について

新選組について知りたいのかな？　それとも江戸時代ということ？

まだ　決まってないんだ。どうしようか友だちと相談しよう。

「江戸時代の日野」といっても、甲州道中、日野宿、新選組、米作り、人々の暮らしなどいろいろなテーマが考えられるのでテーマをしぼってみましょう。

例えば「新選組」について調べると決めたらば、さらに新選組についてテーマをしぼって、詳しく調べてみましょう。

本
→日野市立図書館では新選組に関係する本のリスト「新選組を読む・調べるために」をまとめています。
「ひのっ子新選組探検隊」は子ども向けでわかりやすいです。

歩いて調べる
→日野には新選組の歴史を語る建物や寺社などの史跡があります。そのような史跡や新選組隊士ゆかりの資料館をたずねて調べてみましょう。

Ⅲ. 研究のまとめ

郷土日野の自然･歴史･文化に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成を目指して、平成 21 年度は以下の３点を取り組んだ。

１　地域を知る指導者の育成

地域を知る指導者を育成するために、日野市教育委員会教員研修の教育課題研修においてフィールドワークの研修を実施した。予定していた人数を上回る応募があった。参加者から「初めて知った」「郷土についてほかのことも紹介してほしい」といった感想があり、これは郷土教育への関心の高さを示している。今後、受講者が研修で学んだことを生かして、参加者自らが郷土資料を教材化するための情報を提供することが課題である。また、『「郷土日野」指導事例』を活用した授業実践の記録を蓄積することも必要である。

２　新たな郷土教材の発掘と、新しい郷土教材を活用した学習活動の実践

これまでの郷土教育推進研究から、日野市内には郷土資料が豊富に存在していることは明白である。市内のどの学校にも身近に郷土の資料があるといえる。また、都市化が進み、市内の状況は年々と変化していることから、今後も授業で活用することができる郷土資料は増える。本推進研究委員会において取り上げていない郷土教材もまだあるため、今後継続して調査・授業実践資料の作成に取り組みたい。

３　郷土教育推進の視点の拡大

(1) 関係機関を活用した教材研究の推進

図書館・郷土資料館等の施設には郷土教育に関する情報が数多くある。日野市は図書館や郷土資料館などの施設に郷土教育に関する情報を多数そろえている。また、文化スポーツ課では文化財の調査を実施している。これらの中に授業で活用することができる良質の資料が多い。今後、授業等で活用しやすいように整備していくことが課題である。

(2) ICT を活用した郷土資料の電子化

日野市は ICT を活用した教育活動を実践するための環境が充実している。「郷土日野」資料を電子化し、素材等を授業に活用することができるように整備することが必要である。日野市立教育センターの web ページから過去の「郷土日野」資料を閲覧することができる。今後、セキュリティー等の諸条件が解決できたところで、資料やデータ等の素材をデータベース化して授業で活用できるよう整備したい。

(3) 教育活動全般を見渡した指導機会の拡大

今年度は校長講話を取り上げた。子供に郷土への関心を高めることや、教員にも郷土資料を活用した授業を実践するための意識を高めることができた。さらに、教育活動全般において郷土を生かした指導を実践する機会を追究することが課題である。

資　料

資料１　日野の民話・伝承

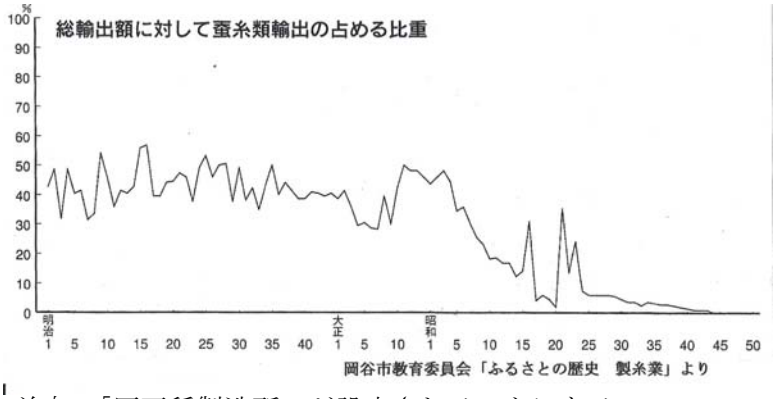
No.	題　　名	地区名等	出　　典	備　　考
1	白馬に乗った別府太郎	宮別府神社（一小）	日野の歴史と文化 17	分倍河原の合戦・蘭沼
2	元木の不動様	宮（一小）	日野の歴史と文化 17	大欅・三体のお不動様
3	駒方神社に祀られた駒	堀の内（二小）	日野の歴史と文化 17	駒比べ・馬の死
4	首塚	日野っ原（三小）	日野の歴史と文化 17	古戦場？　遊行僧の祟り
5	神明様のお告げ	東光寺（東光寺小）	日野の歴史と文化 17	地境の争い・馬の空腹
6	とうもろこしを食べない人々	東光寺（東光寺小）	日野の歴史と文化 17	和田義盛最期の場所
7	上人塚の狐	日野自動車（三小）	日野の歴史と文化 17	佐藤隼人の塚・化け狐
8	胡瓜の輪切りを食べない人々	日野宿（一小）	日野の歴史と文化 17	横もっこの紋章
9	えんどうと松を植えない話	豊田堀の内(二小)	日野の歴史と文化 17	村境の争い
10	金丸四郎兵衛ととうのいも	宝泉寺（一小）	日野の歴史と文化 17	芋畑の死，江島・生島
11	はたかけの松	高幡不動（潤徳小）	日野の歴史と文化 17	鑓水機織女，源氏の旗
12	キツネに化かされた話（一）	日野っ原・宮(六小他)	日野の歴史と文化 17	八王子への買い物
13	キツネに化かされた話（二）	日野っ原(六小他)	日野の歴史と文化 17	夏蚕の繭代金と狐
14	おしゃもじさま（石神）	宮・別府神社(二小)	日野の歴史と文化 17	はしか・安産
15	ウナギに救われた話	四谷(東光寺・仲田小)	日野の歴史と文化 17	洪水を防いだウナギ
16	松連寺の夢のお告げ	百草園(七生緑小)	日野の歴史と文化 17	怪しい光・戦いの歴史
17	高幡金剛寺のはだか竜	高幡不動（潤徳小）	日野の歴史と文化 17	公実の絵
18	宝泉寺のもちあげ観音	宝泉寺（一小）	日野の歴史と文化 17	六部の石仏
19	御山の松（お久松）	鹿島台（南平小）	日野の歴史と文化 17	お久の失恋・三抱えの松
20	トンガラシ地蔵	北原(仲田小)	日野の歴史と文化 17	眼病信仰
21	藤治権現由来	高幡（潤徳小）	日野の歴史と文化 17	青年義人・高幡饅頭
22	恩返しをしたつばめ	万願寺（四小）	日野の歴史と文化 17	毒キノコ
23	むじなのちょんぴらりん	平山（平山小）	日野の歴史と文化 17	ちょんぴらりんの掛け合い
24	平山ゴルフ場	平山（平山小）	日野の歴史と文化 17	日本初のゴルフ場
25	つり堰用水と水車	平山（平山小）	日野の歴史と文化 17	馬力街道・精米・水車等
26	そうばんはり	東平山（平山小）	日野の歴史と文化 17	あほだら経
27	ヤンメ地蔵	日野(一小)	日野の歴史と文化 17	眼病の信仰
28	大木島の伝説	宮(一小・潤徳小)	日野の歴史と文化 17	万願寺・武蔵国造の争い
29	とうかん森	石田(四小)	日野の歴史と文化 17	土方一族の鎮守様
30	安産薬師	東光寺(東光寺小)	日野の歴史と文化 17	日奉氏居館鬼門よけ。安産
31	生まれ変わった勝五郎	程久保（夢が丘小）	日野の歴史と文化 18	江戸・八王子で生れ変わり
32	ころがり落ちたお不動様	高幡不動（潤徳小）	日野の歴史と文化 18	お堂の再建・鼻井の井戸
33	ぬすっと薬師	宮（一小）	日野の歴史と文化 18	道端薬師の荒廃
34	百草園の子育地蔵	百草園（七生緑小）	日野の歴史と文化 18	娘、トキの死
35	普門寺の八幡石	日野本町（一小）	日野の歴史と文化 18	和尚の夢、氏照の八幡宮
36	三沢のお諏訪さま	三沢（七生緑小）	日野の歴史と文化 18	茂右衛門の幽霊
37	坂下地蔵	日野駅（東光寺小）	日野の歴史と文化 18	旅の難所の守り地蔵
38	つらかった年期奉公	仲井（一小）	日野の歴史と文化 18	鍛冶屋の少年の死
39	お茶屋の松	東光寺（東光寺小）	日野の歴史と文化 18	鎌倉古道の立派な松
40	七ッ塚古墳と日奉氏館址	日野っ原（三小）	日野の歴史と文化 18	古刀比羅宮と日奉氏
41	波除稲荷	北原（仲田小）	平成 20 年仲田小研究	多摩川洪水からの命拾い
42	イネ女の呪文	日野宿（一小）	とんとん昔話(菊地正)	偉い学者に勝ったイネ女

注：平成 21 年度末現在、調査中のものを表にまとめている。

資料２　日野桑園・蚕糸試験場の歴史

１　蚕糸試験場設立の状況

フランス・イタリアなどのヨーロッパは、絹産業の中心地であった。しかし、1852 年以降,蚕の微粒子病が流行し、1860 年代には壊滅的な打撃を受けた。幕末の開港に伴い、微粒子病に犯されていなかった日本の蚕種・繭・生糸への需要が急速に拡大していった。日本各地で養蚕が盛んになり、生糸を八王子から横浜の港へ運ぶ「絹の道」も生まれる。富岡製糸場による模範工場設立、熟練工女育成などを通して、全国的に養蚕・製糸業が広まり、盛んになっていった。輸出額の表にもあるように、養蚕・製糸業は、日本の殖産興業・富国強兵を支える基盤となっていた。当初、ヨーロッパ中心だった輸出は、その後のヨーロッパの養蚕業の回復、中国の台頭などにより、輸出の中心地はアメリカに移った。しかし、日本の生糸は製法上や蚕種の不統一等から、品質の面で劣悪なものが多く、苦情が多数寄せられ、問題となっていた。品質向上を目指すことは国家的課題であった。そのような中で、いろいろ変遷を経ながら、明治 44 年、杉並村高円寺に蚕糸試験場の前身、「原蚕種製造所」が設立されることになる。その支場として桑供給の目的で、「日野桑園」・後の「日野蚕糸試験場」が誕生した。



岡谷市教育委員会「ふるさとの歴史　製糸業」より

２　関連年表

江戸時代　安政年間(1854~1859 年)輸入品の主なもの，綿花，綿製品。輸出品の主なものは生糸と蚕種,茶であった。1859 年の横浜開港によって、すでに養蚕,製糸を行っていた地方にはますます拡大し、また、新しい地帯にも蚕糸業を勃興させる契機となった。

1859 年　それまで緩やかな発展を遂げていた養蚕・蚕糸業は，横浜開港以降，市場を海外に依存し，内外の諸情勢に揺られながらも、近代日本の基幹産業となって著しい発展の道をたどった。明治政府は蚕糸業を発展させ,また国際信用を確保するため、,様々な手厚い保護・奨励策をとった。

1874 年（明治 7 年）内藤新宿試験場(新宿御苑)に蚕業試験掛をもうけた。(内務省勧業察管轄）・・・産業に関する試験と伝習の開始。

1877 年（明治 10 年）蚕業試験掛が勧業局試験場となる。２年後廃止(明治 12 年)。

1884 年（明治 17 年）蚕病試験場設置。(農商務省農務局の 1 文課）場所は東京麹町区(現在の日比谷公園脇・帝国ホテルのある所)　明治 19 年西ヶ原に移転。

1887 年（明治 20 年）蚕病試験場を蚕業講習所と改称。教育を主とする機関となる。

1899 年（明治 32 年）蚕業講習所は、京都蚕業講習所(現在の京都工芸繊維大学)と、東京蚕業講習所(現在の東京農工大学)となった。

1906 年（明治 39 年）外山亀太郎博士が、蚕の 1 代雑種の有利性を提唱。

1909 年(明治 42 年)生糸の輸出量は 8300 トンとなり、それまで世界一だった中華民国(7500 トン）を抜く。輸出量が急増するこの間、わが国の生糸の品質の雑駁なことが絶えず問題となっていた。

原蚕種製造所

1910 年（明治 43 年）上田蚕糸専門学校（現在の信州大学繊維学部）が設立され蚕糸専門の高等教育機関が 3 つとなるが、蚕糸専門の国立研究機関はなくなった。

農商務省設置の蚕糸業生産調査会が、政府の諮問に対し蚕品種を改良し統一することが必要で、そのために国家が原産種製造業務を行うことが必要でそのための機関の設立を建議した。

1911 年（明治 44 年）蚕糸業生産調査会の建議に基付き商務省原蚕種製造所が設立される。3ｈａの敷地。洋風建物。中野東高円寺に桑を供給するため日野桑園開設（万願寺)。

1912 年（明治 45 年）日野桑園整地・植え付けに着手。

1928 年（昭和 3 年）日野桑園に蚕糸試験場が設立。高円寺本場の栽桑部・育種部が日野に移り、霜害・育種・蚕の品種改良研究室が置かれる。

1930 年（昭和 5 年）日野に第 1 蚕室ができる。これ以降順次、第 6 蚕室まで建設。

1937 年（昭和 12 年)「蚕糸試験場」と改称。製糸及び絹繊維に関する部門の充実を図った。

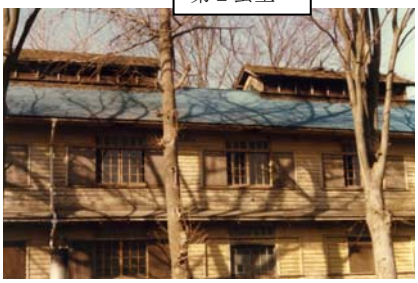
1965 年（昭和 40 年）絹（和装）ブームとなる。生糸の国内消費は急速に高まった。生糸・絹は輸出品ではなく、輸入品となった。

1969 年（昭和 44 年）　生糸の国内需要量 40 万俵, 前年度比 10 パーセント増となり生糸・絹織物・野蚕糸等、蚕糸類の通関輸入額 329 億円に達する。

1971 年（昭和 46 年）生糸自給率 82%となる。生糸の和装ブーム 48 年頃まで続く。昭和 50 年代になり、和装ブーム一気に去り,世界的な生糸・絹過剰基調となる。

1978 年（昭和 55 年）日野蚕糸試験場筑波へ移転。

第５蚕室


第２蚕室

３　蚕糸試験場概要

（１）施設　　庁舎　　日野市北原 1952 番地

蚕室　　第 1 蚕室～第 6 蚕室　温度調整蚕室　冷蔵庫棟　冷凍実験室　網ガラス室　農機具小屋　採種室　土壌水分調節圃場(移動ドーム屋根)　洗浄池　消毒室　　肥料舎　園長宿舎（仲田小学校正門）独身寮　家族寮

（２）桑園

第１桑園　本庁と同じ所在地　11.2ｈａ

第２桑園　石田 509a　第３桑園　谷戸上（昭和 23 年、廃止）

（３）仕事・研究内容

当初は高円寺蚕糸試験場への桑供給の役割…荷馬車で運搬、

後に車に変る。

荷馬車の車輪

昭和３年以降、昭和１２年、昭和３３年の組織改正により、研究内容が増え、蚕育種、桑育種、採桑、桑災害　蚕品種改良、桑の品種改良等の業務となる。

◎成果　蚕の温暖飼育法、桑の品種改良　①あっぱみどり　暖地用　②わせみどり・稚蚕用　③かんまさり・寒冷地用　③あさゆき・中雪地用　④ふかゆき・中雪地用　⑤しんいちのせ　ときゆたか　等

（４）　設立経緯と立地条件

大正の後半、農林省で多摩地区に蚕糸試験場を設置する計画を決める。その際、立川町・日野町等が誘致の希望を出す。国は陳情書を受け、気候等の調査を行った。日野仲田地区は、多摩川の沖積層にあり、桑・蚕の研究に適していること、また、立川には既に府立農事試験場があったことなど考慮し、当地に決定した。当地は、多摩川の近くにあり、土地が砂や砂利の層で作られ、水はけが良く、また、川風により風通しも良いことから、繭の大敵・カイコウジバエの発生を防ぐことができる立地条件に恵まれていた。（カイコウジバエ・・・桑の葉の裏に卵をうみつける。卵のついた桑の葉を、蚕が食べると、カイコウジバエは蚕の中で幼虫となり、成長すると繭を食い破り、外に出てくる。穴のあいた繭は不良品となってしまう。キョウソ病）

（５）ケヤキ並木

開園時、立川農事試験場長より、樹齢およそ 10 年程のケヤキを寄贈された。ケヤキ並木は、蚕室への直射日光を遮断し、蚕室の温度上昇を防いだ。また、ケヤキの芽ぶきの様子で桑の成長の予測をしていたとのことである。

（６）昭和２０年代～５０年代

職員は、変動はあったがおよそ６０人位であった。長野の旧制蚕糸専門学校（今の信州大学）や、農工大、蚕糸講習所などで教育を受けた専門の人たちであった。５月、９月の蚕の育つ時期には、日野市内や近隣から大勢の人を臨時に雇っていたとのことである。昭和 24 年頃は、高い建物がなくて日野駅から、蚕糸試験場のケヤキやイチョウの並木がよく見えたとのことである。

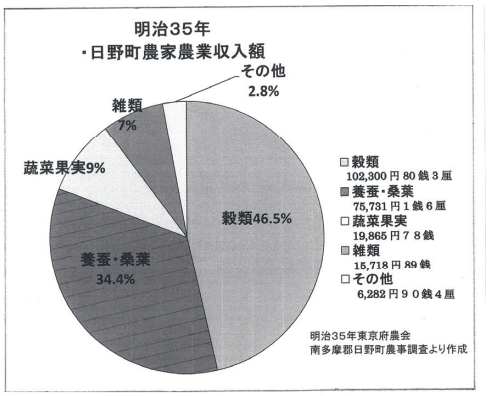
（７）関連写真

第１桑園

日野蚕糸試験場・本庁

第１蚕室外観と内部　　第６蚕室とケヤキ並木　　桑摘みかご

資料３　日野の養蚕の発展



１．日野の養蚕の発展

養蚕は、幕府の開国によって飛躍的な発展を見た。三多摩でも開国に伴い、八王子、羽村、五日市、拝島などで養蚕が盛んになってきた。江戸の米所と言われた日野においては、明治当初は養蚕は盛んではなかった。明治１５年頃は次ページの①図に示すように桑畑も少なかった。しかし、明治１７・８年頃から養蚕が盛んになった。右に明治３５年の「南多摩郡農事調査」による日野町の農家の作物による農業収入の額と割合が示されている。養蚕は桑葉の収入と合わせると、全体の 34.4%にもなっている。「南多摩郡農事調査」では農家の副業として、養蚕・製糸・蚕種製造等があげられている。この時点で日野の農家にとって養蚕は大事な収入源となっていた。また、同調査によると、総農家戸数７１９戸に対し、養蚕農家は６８０戸で、73.9%に及んでいる。 大正１０年頃になると、②の地図のように桑畑が急激に増えている。また、日野市史・続地誌編の大正９年の資料では、養蚕による収入 107,822 円、蚕糸による収入 57,812 円 と二つの合計でも 165,634 円と明治３５年の倍以上になっている。また、明治４１年の南多摩農事調査によると、日野町・七生村の蚕種製造業者は春蚕で２０戸、秋蚕で２４戸あり、製造枚数も 6、066 枚と,南多摩郡で首位を占めていた。これは、大正中期の最盛期でも大きな変化はなかった。

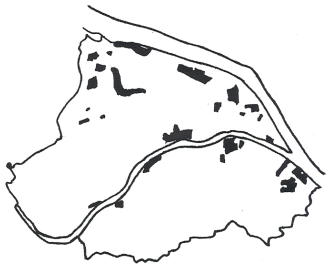
明治・大正期に、日野町の農家は、繭や生糸を八王子へ出していた。八王子は、「絹の道」で知られる鑓水商人の時代を経て養蚕に伴う製糸、織物業が栄えていた。とれた繭は、前述の農事調査によると、明治の末年まで、そのまま売る家もあったが、たいてい座繰りで生糸にとり、輸出品として八王子に売られていた。その後、八王子付近の島田系の織物業者に販売するようになったという。輸出品は高額であった。大正期になると、

機械どり機で製糸し、揚げ返したうえ、村周りの仲買人に売った。その後、繭のまま中神村の西川製糸や八王子の片倉製糸、小平の鴨下製糸所（明治33年創立）等に持参して売ったり、出荷する農家が増えていった。・・・（八王子とのかかわりを思わせる「キツネにだまされた話」という民話・伝承を後半に掲載）

２．日野の桑畑の変遷

①　1882年（明治15年）頃

桑畑は、多摩川・浅川沿いに点在しているだけである。



②　1921年（大正10年）頃

市の西部を中心に桑畑が増加し、養蚕の盛んな様子がわかる。

③　1940年（昭和15年）頃

大正期に引き続き、市の西部を中心に多くの桑畑が存在しているがその一部が工業用地になる等、早くもかげりがみられる。

④　１９４９年（昭和24年）頃

わずか10年あまりで激減している桑畑は、豊田駅周辺にはかなり残っている。

⑤　1991年（平成4年）頃

桑畑はほとんどなくなり、わずかに残っているにすぎない。

○明治以降、幾多の困難を乗り越え、我が国の養蚕業は発展し、日野の養蚕業も発展してきた。しかし、世界大恐慌,日華事変、そして太平洋戦争へと進む中で、日本の養蚕業は衰退していく。戦後は、政府の蚕業五カ年計画等も出され、復活の気配もあったが、安価な中国の生糸や、レーヨン・ナイロンの普及等、産業の変化により衰退の流れを止めることはできなかった。昭和50年、日野最後の１軒の養蚕農家がやめ、日野の養蚕は終わりとなる。

３．養蚕の発展に尽くした人々

多摩地域の中でも遅れてスタートした日野の養蚕が発展した裏には、先人の大きな働きがあった。

天野　清　　明治１９年、同志と共に、粗製濫造防止南多摩郡蚕糸業組合の頭取谷合弥七にはかり、農商務省技師を招き、顕微鏡の使用法を研究する。

明治２０年　蚕病予防のため、西ガ原蚕病試験場入所。１年後卒業。多摩の各地で顕微鏡の視術の普及と養蚕飼育の改良や蚕病予防に活躍する。

平　忠治郎　上野の共進会を見学後、微粒子病の恐るべきことを知り、日野で同志と顕微鏡購入。天野清に教授を受け、応用して蚕業界に一大光明を与える。

生沼金太郎　明治２０年頃　桑新品種「日野早星」を繁殖。生沼は、東京府より南多摩農事試作人に任命され、地方の農業者を対象に遊説し功績を残す。

下田伊佐衛門　明治２３年、養蚕伝習所成進社を設立。伊佐衛門は早くから養蚕の研究を志向し、全国各地の養蚕家を訪ね歩き、道をきわめる。成進社には明治２８年で日野町、桑田村、七生村で、合計９０人が学ぶ。

土方元吉、生沼金太郎、中村弥一郎、平忠治郎、土方栄蔵、土方喜久太郎、土方篠三郎、小宮弥一郎、古谷太助、佐藤信民、日野義順

明治２９年、扶桑社の設立。主な活動。各地の便利な所に、養蚕伝習所を設置し、生徒を募集して伝習教師を養成する。養蚕農家の求めに応じて、本社から巡回教師を派遣し、実業の講話を行って問題を解決する。伝習教師の派遣を行う。研究制度を規定する。社員中の篤志家を選んで、各種の試験を嘱託する。熱心なものには模範飼育を嘱託する等。

研究成果の発表の場として、繭・蚕種・蚕具の発明・意匠等の共進会を開設する。明治２９年９月、第一回共進会が開催。社員数３００余人。出品数３００種。明治３７年、３月の「南多摩郡日野町農事調査」によると、社員の数は６００人である。扶桑社の活動は、日野・三多摩の養蚕業の発展に大きな貢献をする。

４．養蚕の時代をしのぶ蚕影神社（南平）

七生村は､大正元年の農業収入額 240, 692 円の内、養蚕収入が 63,228 円で全体の 27.1%にあたるほど、養蚕が盛んであった。

養蚕の守護神で常陸国豊浦湊の蚕影神社を、江戸時代の初めか、明治初年の頃、南平田中の清水初五郎氏が勧請した。以来、同家前に祭られていたが、宅地化のため、昭和４９年に熊野神社境内に遷座した。養蚕は自然の力に影響され易かった。農家の人は神様に、祈りをささげ加護を祈った。清水家には、「蚕養由来縁記」（古文書）が残されている。

５．狐に化かされた話（二）

戦前の日野は米作りと養蚕の盛んな土地であった。その頃は買い物というと八王子の町へ行く人が多かった。中央線（昔は甲武鉄道といった）に乗るか、甲州街道を歩いてゆくかどちらかであったが、農家の男たちはたいてい日野の大坂を越えて日野っ原に出て、高倉を越えて八王子へたどりつくのであった。昔は日野っ原には一軒も家がなく昼間でもうす気味悪い程の畑と雑木林の続く道だった。

この雑木林にはタヌキやキツネが住んでいて、中でもキツネはよく人を化かした。年寄りたちに聞くと「キツネにたぶらかされて、おらあひでえ目にあっただよ。」と前置きしてはキツネに化かされた話をしてくれた。

ある時（大正の初め)、 となりのじいさんと二人で夏蚕（なつご）があがって繭（まゆ）を売った代金をふところにに、大和田の坂下の志村屋で一杯やってなあ、いい気持ちで、土産の酒まんじゅうを風呂敷（ふろしき）に包んで腰にぶら下げて、鼻歌を歌いながら、からの荷車を引っぱって日野っ原にさしかかっただよ。そこへ酒まんじゅうのにおいや酒飲みの二人の息をかぎつけてキツネが後になり、先になりしてついてきたが、いい気持ちになった二人は気が付かなかった。ところが二人の前にとつぜん川が現れたので、二人はてっきりキツネに化かされたのかなと思ったが、目の前に川があればわたらなければならないので、二人は着物やモモヒキをたくし上げ、ぞうりを腰にぶら下げて川を渡り始めた。ふたりは足を持ち上げながら「おお深い、おお深い。」と言いながら歩きまわっていた。するとたまたま通りかかった顔見知りの人が、この様子を見て、笑いをこらえながら大きな声で二人の名をよんだ。

「おめえたちや何してんだよ。水ったまりの中でよう」と呼ばれた二人は、はっとわれにかえり、水たまりの中をぐるぐる歩き回っている自分たちに気がついた。はっと思って酒まんじゅうの包みを探したが見つからない。

「なんちゅうめえめえしいことだんべ。キツネに化かされて酒まんじゅうを盗られちまっただよ。」と頭をかきかき話してくれた。キツネに化かされると思っているうちに自己暗示にかかってしまったのだろうか。こんな話を私はその後もたくさん聞くことができた。

・・・後半省略・・・

（故田中興吉談）日野史談会「日野の歴史と文化」より引用

参考図書

「農林水産省における蚕糸試験研究の歴史」・独立行政法人・農業生物研究所
「日野と養蚕」・日野市ふるさと博物館
「日野市史通史編三・近代一」・日野市史発行委員会
「日野市史資料集・続地誌編」・日野市史発行委員会
「多摩の歴史」・たましん地域文化財団
「伝承・わが街の歴史」南平田中の昔・清水守男著

資料３　アルフレッド・ラッセル・ストーン牧師（ぼくし）について

（新堀邦司著「海のレクイエム」等　参考）

（１）ストーン家のルーツと両親

ストーン家のルーツは、もともとアイルランドの農民（小作農家）であった。主食にしていたジャガイモが 2 年続いて不作となった 1822 年に祖先のジョンがカナダに移り住んだ。（移民）

（２）ストーンの誕生　1

1902 年 4 月 29 日、父ジョン・フランクリンと母ヘレナの長男として、カナダのハイゲート村で生まれた。小さい時は「アルフ」の愛称（あいしょう）で呼ばれていた。

お父さんは、トウモロコシ、小麦、野菜、オーツ豆を作る農民であった。ハイゲート村の教会の日曜学校長を務め、村の子供たちの指導にあたり、農業を愛し、教会を愛し、村人たちのためよくつくす人であった。お母さんは学校の先生であった。子供たちに慕（した）われ、物静かで、家庭思いで、喜んで隣人（りんじん）のためにつくす人であった。

（３）赤んぼうから小学生の時代

赤ん坊の頃は、弱々しく、発育がおそかった。６歳まではうことができず、体も小さかった。両親はアルフが無事に生きてくれるか大変心配した。

でも小学生になると体は小さかったが、元気な子供に成長した。アルフは小学校での成績は抜群（ばつぐん)」であった。成績はつねに一番であり、飛（とび）級をして、11 歳で卒業している。性格は明るく、いつも前向きで、社交的（しゃこうてき）で友だち付き合いも良かった。先生からの評判（ひょうばん）も良かった。弟は、お兄さんと比べられ、ずいぶんこまったらしい。

（４）中学生から高校生の時代

1913 年、小学校と同じ所にある、中学校に入学した。1918 年にとなり町のリッジタウンの高等学校に入学している。遠くから入学する子は寮に入るが、アルフはあまり豊かでなかった家庭のことを思い、費用の少ないバギー（兼用馬車）で毎日通学した。大変きびしい寒さの中でも、バギーで通いとおした。

高校時代のアルフについて、一学年下のファーガソン夫人はつぎのように言っている。「かれは、とてもやさしい上級生で、すべての生徒からすかれていました。なかまはずれにされている生徒がいると、その生徒を心配し、すすんで友だちになっていました。そうした生徒を校門で待っていて、いっしょに歩いている姿を何度も見かけました。まずしい家庭の生徒にも進んで近付き、いろいろはげましていました。私たちは、アルフのそうした行動に深い尊敬の思いをもっていました。これは大げさではなく、かれは、全校で最高の生徒であったと思っています。」

その頃のアルフは、サッカーが大好きで、放課後友達の家によってはいっしょにサッカーを楽しんでいた。

成績（せいせき）は優秀（ゆうしゅう）で、1918 年に 16 歳で高等学校を卒業している。大学進学を希望していたが、家の経済を考えるとむりが言えず、しばらく父親について農業（のうぎょう）を手伝っていた。高校を卒業したころのアルフは、いつもユーモアがあって紳士的（しんしてき）だったので、村の少女たちのあこがれの的（まと）だった。

（５）高校卒業、学費をかせぐための商社勤めと、牧師になる決意

1920 年の冬、18 歳（さい）になったアルフは、大学進学の学資（がくし）を作るため、季節労

働者として、アメリカのデトロイトで商社につとめた。デトロイトからもどったアルフは、いとこのチャーリー・マクレランに「ぼくはぜったい牧師になる！」と今までなかった強い口調（くちょう）でうち明ける。商社に勤めている間に,この決心をさせる何かがあったものと思われる。

両親は、長男のアルフが農業を継（つ）いでくれないのにちょっとさびしさを感じながら、子どもの尊い志（こころざし）を喜び、お祝いの言葉をおくったのであった。

（６）苦学生の大学時代

1920 年の 9 月、アルフは、無事トロント大学に入学した。トロント大学時代のアルフは、家からの仕送りにたよらず、てきとうな働き場所をみつけては、学費を作った。家庭は豊かでなかったから、かなりの苦学生であったと思われる。大学で勉強したのは、政治経済学であった。

（７）神学校と大学院での勉強

1923 年に大学を卒業したアルフは、牧師（ぼくし）になるために、同じ大学の神学校（ビクトリアカレッジ）に進学する。アルフは、神学校の勉強と同時に大学院で農業経済学を学んでいる。

この頃、大先輩ダニエル・ノルマンが始めたキリスト教運動に参加した。また、先輩Ｇ・Ｅバッドなどが入っている絶対平和主義グループに加わる。(二人は、ストーンより先に日本で活躍))

おなじ神学校で、日本の留学生，滝沢四郎・佐藤敬一郎と知りあう。このころから、ストーンは宣教師となって東洋（中国や日本などアジア）に行くことを考えるようになった。苦学生のため,勉強に専念できず、単位不足で卒業が次の年にのびる。

（８）ストーンの日本行きが決まる

1926 年夏、神学校の単位が取れる見込みとなり、カナダ協会に認められ、日本行きが決まる。親や家族、教会の人々がかれの日本行きをいわってくれる。

（９）ストーン、初めて日本に入る

1926 年、9 月 19 日、ストーンを乗せた船が横浜港に到着する。最初の住まい（家）は、青山学院の中にある宣教師館であった。

（１０）宣教師としてストーンが初めて働く長野時代

1928 年（昭和 3 年）　9 月　ストーンは宣教師として働く場所が長野と決まる。新しい住まいは長野市のダニエル・ノルマンの宣教師館（せんきょうしかん）であった。ノルマンは、長野に戦前の 1902 年から赴任（ふにん）し、農村での活躍（かつやく）で「長野のノルマン」といわれるほど、人々に慕（した）われ、尊敬されていた。ノルマンと長野で活動したストーンは、後でノルマンの跡継ぎ（あとつぎ）と言われるほど、影響(えいきょう)を受けた。

その頃の日本は、人口の 7 割（10 人のうちに 7 人）が農民であった。農村は世界的な大恐慌（大不景気）で、農産物の値段が大きく下がって（とくにまゆ値段が下がった)、苦しむ人が多かった。さらに天災(てんさい)がたびたび起きて作物の収穫(しゅうかく)も悪く、多くの人は政府が助けるために行った土木事業ようやくくらしていた状態だった。特に長野県は代表的な産業、製糸業)が、次々に倒産していた。農家では、服、食費を倹約、中にはお茶、菓子、新聞、電燈、自転車の制限や廃止（はいし）を議会で決める村も出てきた。このような中、ノルマンは農民を助ける活動を進めていった。ノルマンの助手として、ストーンも大活躍（だいかつやく）した。

長野に来て 3 年目で、ストーンは、長野、新潟、富山の 3 県、七つの場所で農村の信仰と生活向上の活動を一生懸命に行った。1 か月で 50 時間以上汽車に乗っているほど出かけて活動した。

（１１）浜松に移る

1932 年 9 月から、ストーンは浜松に移り、活動する。

（１２）再び長野での活動を始める

1934 年（昭和 9 年）ストーンは再び長野に赴任する。ストーンは、後で日野で協力し合う仲間の木俣と共に農民福音学校の活動を進める。キリスト教の伝道だけでなく、村の中に住んで、農民を理解し、その生活をよくしていくことに力を入れていく。経済不況（ふきょう）の中で苦しんでいた農民のため、食料改善、医療活動を行う。具体的には、パン食の普及，缶詰工場、保健婦招聘（しょうへい），裁縫室、料理教室（クッキー、食パン）などに取り組んだ。また、長野の古間で昔から行われていた手作りの鎌（かま）作りを、新潟三条の動力ハンマーを取り入れ、生産を向上させた。カナダからクロスバンダムの種子を取りよせたり、ルバーブなど、西洋野菜の栽培を指導した。農村の女性や青少年の教育にも力を入れ、多くの人から感謝された。

（１３）日中戦争の時代

1937 年 7 月 7 日　盧溝橋で日中戦争始まる。1939 年「農民福音学校」は、戦争の影響でできなくなる。1938 年日独伊（にちどくい）三国同盟調印により、日本とアメリカ・イギリス・カナダなどの国との関係が悪くなる。日本のマスコミも外国人を敵（てき）と見る報道が増えてきた。

1941 年 3 月 6 日　今まで信頼をよせていた農民もストーンを敵国人としてみるようになり,警察の監視（かんし）もあり,思ったような仕事ができなくなったため、ストーンは心ならずも、日本を去る。晴れた横浜港にかなしい目でわかれをつげる。このときストーンは，戦争で日本の農民や人々が大変な状況になることを予測し，大変心配していた。

昭和 32 年の日野台

ストーンがカナダへ戻った後,12 月 8 日に日本とアメリカの間に太平洋戦争が始まる。その後の日本各地への大空襲など，日本の悲惨（ひさん）な様子を心配し、再び平和が来て、日本へ帰れる日を待つ。

（１４）敗戦の日本にもどる

1946 年 10 月 15 日、ストーン、バッドの妻エディスと「マリーン・ファルコン号」で横浜港に着く。東京の最初の住まいは麻布・鳥居坂の婦人宣教師館であった。

（１５）教会の再建

没収された土地の取り戻しの交渉など、農村での活動に連日、休むまもなく取り組む。ララ物資(食糧援助など)への協力も行う。・・・(詳しくは省略。)

（１６）ストーン、「中央農村研究所」の所長に任命される

1947 年、「中央農村研究所」の所長・校長に選ばれる。まず土地さがしを急ぐ。

（１７）自然豊かな日野台(多摩平)との出会い

1947 年、ストーンと仲間の木俣は、研究所の候補地をさがして東京の近郊を見て回った。東京都南多摩郡日野町・上田（通称日野台）の高台に最高の場所が見つかる。しき地面積約 3 万 2000 坪、アメリカのキャンパスを思わせる美しい森の中に，よく手入れされている三町歩（さんちょうぶ）ほどの畑もあった。もともとは大正天皇御陵用地として宮内庁が造林していた土地であった。　　実験林として米国から移植した苗木がすっかり成長し、見事な森となっていた。どこかカナダの農村を思わせるのびやかな風景であった。日野台の森を見たストーンは、一目で気に入ってしまった。自然が豊かで、自立のための農業もできるこの日野台の場所は、ストーンたちの理想の場所であった。この地に教会、神学校、保育園を作り、人を育てることに夢を膨らませた。

この土地については東京都も農事試験場(畜産)として、また恵泉女れ、バラックの小屋を作り、まず住んで土地の購入に備えたほどである。ストーンの努力により、12 月末　日野台の土地が「中央農村研究所」の場所として役所に届けられ、決定する。そのときストーンが見た今もあるユリノキは、明治 41 年に宮内庁で北米から移植したものだった。

開所式

（１８）日野台「中央農村研究所」の開所式が行われる

1948 年、4 月 14 日水曜日、日野台の森で「中央農村研究所」の開所式が行われた。晴れた日であった。たくさんの人を入れる場所がなかったので、式は天気の良い屋外で行うことになった。

北アメリカから移植されたユリノキの並木道（今のユリノキ通り）に、いすや机がならべられて行われた。近くの桜がにおうばかりに満開であった。出席者は、所長のストーン、教団の関係者（加川豊彦など)、職員の家族、学生、それに地域の人であった。

日本の敗戦から、2 年 8 カ月、大きな苦労の上に、ストーンや木俣牧師が日夜夢に見た開所式であった。この後、ストーンは週 3 日，麻布（あざぶ）の宣教師館からジープで日野にやってきた。深夜まで仕事をしていたストーンは、十分な寝る時間もとれず、起きぬけに、サンドイッチをほおばりながら片手でハンドルをにぎって、早朝の甲州街道を走りぬけ、学生に教えた。

全国の伝道の仕事、戦争でとまった教会の復興（ふっこう）などで全国を飛びまわりながらも、学生の衣・食・住(着ること、食べること、住む場所)まで、めんどうを見た。

（１９）北海道での活躍

1946 年、初めて北海道を訪れる。これ以後、北海道での活動が増える。

東京、長野、埼玉、兵庫、箱根、石川、北海道など、広く活動を続ける。

（２０）洞爺丸の遭難・アルフレッド・ラルフ・ストーンの死

1954 年、9 月 26 日　北海道の仕事の帰りの途中、函館で台風にあう。函館沖（はこだておき）で 10 時 39 分、洞爺丸からＳＯＳが発信される。その後まもなく洞爺丸が転覆（てんぷく）する。ストーンは船が沈む前まで、混乱する船の中でＹＭＣＡのＤ・リーパーと救助活動（きゅうじょかつどう）をがんばっていた。いよいよ転覆する直前、ストーンは救命具をはずして若者にゆずり、遭難（そうなん）の犠牲者（ぎせいしゃ）となってしまう。

犠牲者　　乗客 1041 名、乗組員 73 名、その他 41 名、　　合計 1155 名。

生存者　・・乗客 110 名、　乗組員 38 名、その他 11 名、　合計 159 名。

ストーンとリーパーらの行動は、マスコミにも注目され、10 月 9 日の日本経済新聞には「北海に散った外人宣教師」との題で、「救命具を女、子供に。使徒（しと）にふさわしい最後」と、ストーン、リーパーの愛の行動を賞賛している。

1 年後、トロントで開かれた「Ａ・Ｒ・ストーン追悼記念会」では、カナダ駐日大使が出席し、生前のストーンの功績をたたえ、「勲五等双光旭日賞」という勲章を家族におくった。

（２１）その後の「中央農村研究所」と日野台(日野平)

1956 年、首都圏住宅造成計画のため、研究所の敷地 3 万坪、とその周りの畑を日本住宅公団にゆずることになる。保育園は西側に移動し、研究所と神学校は町田の鶴川に移ることになった。

1958年　日野台に多摩平団地が建設され、1960 年第２期で 2792 戸の入居が完了する。

1992 年　8 月 8 日　長野県野尻湖畔にアルフレッド・ラルフ・ストーンの碑(ひ)が建てられる。

多摩平の森にアルフレッド・ラルフ・ストーンの紙芝居灯篭ができる。

郷土教育推進研究委員

No.	役　職	所　　属	職	氏　　名
1	委員長	日野第一小学校	校　長	小　杉　博　司
2	副委員長	仲田小学校	主幹教諭	秋　田　克　己
3	副委員長	平山小学校	主幹教諭	鎌　田　博　志
4	委　員	学識経験者	元校長（渋谷区立常磐松小学校）	會　田　　満
5	委　員	学識経験者	元校長（日野市立百草台小学校）	吉　野　美智子
6	委　員	日野第二小学校	教　諭	吉　原　涼　子
7	委　員	日野第四小学校	教　諭	小　坂　克　信
8	委　員	日野第六小学校	教　諭	滝　田　かおり
9	委　員	日野第七小学校	教　諭	木　村　拓　郎
10	委　員	東光寺小学校	教　諭	坂　本　綾　乃
11	委　員	郷土資料館	学芸委員	白　川　未　来
12	委　員	文化スポーツ課文化財係	係長・学芸委員	金　野　啓　史
13	委　員	中央図書館	司　書	菅　野　尚　美
14	委　員	教育委員会	指導主事	鈴　木　　基
15	委　員	教育センター	所　員	柳　元　太　郎

郷土教育推進研究協力者（敬称略）

宮　川　栄　一　（郷土資料館）
笹　原　武　志　（多摩平の森自治会長）
野　崎　　稔　（元蚕糸試験場職員）
板　垣　正　男　（元蚕糸試験場職員）
加　藤　　弘　（独立行政法人農業生物研究所）
清　水　守　男　（元東京都田無工業高校校長）
清　野　利　明　（文化スポーツ課）
大　井　秀　夫　（元蚕糸試験場職員）
安　田　公　三　（元蚕糸試験場職員）
山　川　一　弘　（元蚕糸試験場職員）
河　野　和　昌　（教育相談室）

郷土教育推進研究報告書

「郷土日野」指導事例

第５集

発行日　平成 22 年３月 31 日
発　行　日野市立教育センター
　　郷土教育推進研究委員会
印　刷　日本テクニカル印刷（株）